

特200  
738

商學士和田清述

倉庫及關稅論講義案

中央大學教務課



始





特200  
738

# 倉庫及關稅論講義案

商學士和田清述

## 第一編 稅 關

### 第一章 緒 論

#### 第一節 關稅ノ意義

稅關ハ一國ノ貿易及ビ財政政策上ノ目的ヲ遂行センガ爲メ國家ガ其國境若クハ關稅線ノ一定場所ニ設ケタル一行政機關ナリ、即チ船舶ノ入港、出港ハ勿論、貨物ノ輸出、輸入、保稅倉庫ノ入倉出庫等外國貿易ニ關スルアラユル監督及ビ徵稅上ノ事務ヲ取扱フ官廳ナリ。

第一編 稅關 第一章 緒論 第一節 稅關ノ意義



### 第二節 稅關ノ官制、所在地及職能

全國樞要ナル開港ニハ稅關ノ設置アリ、其各稅關ガ管轄スベキ稅關區域ヲ制定シ(大正六年六月)大藏省關稅局之ヲ統轄セリ、而シテ各稅關區域内ノ開港ニハ夫レ夫レ稅關支署、稅關出張所、稅關支署出張所又ハ稅關監視署ヲ設置セリ、即チ左ノ如シ。

#### (一) 稅關管轄區域 (大正六年六月九日勅令第五八號)

○橫濱稅關管轄區域

東京府、神奈川縣、埼玉縣、茨城縣、群馬縣、栃木縣、千葉縣、靜岡縣、山梨縣、長野縣、新潟縣、福島縣、宮城縣、山形縣

○神戸稅關管轄區域

兵庫縣、岡山縣、鳥取縣、島根縣、廣島縣、香川縣、高知縣、愛媛縣

○大阪稅關管轄區域

大阪府、京都府、和歌山縣、奈良縣、三重縣、滋賀縣、福井縣、石川縣、富山縣、岐阜縣、愛知縣

○長崎稅關管轄區域

長崎縣、佐賀縣、福岡縣ノ内(久留米市、三潯郡、大牟田市、八女郡、浮羽郡、山門郡、三池郡)、熊本縣、宮崎縣、鹿兒島縣、沖繩縣

○門司稅關管轄區域

山口縣、大分縣、福岡縣(但シ久留米市、大牟田市、浮羽郡、三井郡、三潯郡、八女郡、山門郡及三池郡ヲ除ク)

○函館稅關管轄區域

北海道、秋田縣、岩手縣、青森縣、樺太

#### (二) 稅關支署名稱位置及管轄區域 (大正六年六月九日勅令第五九號、改正)

稅關支署ノ名稱位置及管轄區域別表ノ通之ヲ定ム

(別表)

稅關支署名稱位置及管轄區域表

(所管稅關名稱) (名稱) (位置)

(管轄區域)

東京	東京府東京市	東京府ノ内東京市、南葛飾郡、南足立郡、北豐多摩郡、荏原郡
新	新潟縣新潟市	新潟縣 <small>(但シ佐渡ヲ除ク)</small> 、山形縣
清	靜岡縣清水市	靜岡縣 <small>(但シ田方郡及賀茂郡ヲ除ク)</small>
夷	新潟縣佐渡郡	新潟縣ノ内佐渡郡兩津町
糸	廣島縣御調郡糸崎町	廣島縣ノ内福山市、尾道市、深安郡、神石郡、比婆郡、甲奴郡、盛品郡、雙三郡、世羅郡、御調郡、沼隈郡、豊田郡、高田郡、賀茂郡
濱	島根縣那賀郡濱田町	島根縣ノ内安濃郡、邇摩郡、邑智郡、那賀郡、美濃郡、鹿足郡
境	鳥取縣西伯郡境町	鳥取縣ノ内松江市、八束郡、箆川郡、大原郡、能義郡、仁多郡、飯



大阪

今治	愛媛縣今治市	石郡、兵庫縣ノ内城崎郡、美方郡、出石郡、養父郡、朝來郡
武豐	愛知縣知多郡成岩町	愛媛縣
名古屋	愛知縣名古屋市	愛知縣ノ内豐橋市、岡崎市、北設樂郡、東加茂郡、西加茂郡、八名郡、渥美郡、寶飯郡、額田郡、幡豆郡、碧海郡、知多郡(但シ大高町岡田町、知多郡三和村及上野村ヨリ常滑町ニ至ル沿海各町村ヲ除ク)
四日市	三重縣四日市市	愛知縣ノ内名古屋市、一宮市、愛知郡、東春日井郡、西春日井郡、丹羽郡、葉栗郡、中島郡、海部郡、知多郡ノ内大高町、岡田町、三和村及上野村ヨリ常滑町ニ至ル沿海各町村
宮津	京都府與謝郡宮津町	三重縣(但シ前山郡、名賀郡、北牟婁郡及南牟婁郡ヲ除ク)
敦賀	福井郡敦賀郡	京都府ノ内與謝郡、加佐郡、中郡、竹野郡、熊野郡
七尾	石川縣鹿島郡	福井縣
伏木	富山縣射水郡	石川縣
唐津	佐賀縣東松浦郡唐津村	富山縣
住ノ江	佐賀縣杵島郡福富村	佐賀縣ノ内東松浦郡、西松浦郡、長崎縣ノ内北松浦郡
口ノ津	長崎縣南高來郡口ノ津村	佐賀縣ノ内佐賀市、佐賀郡、小城郡、杵島郡、藤津郡、神埼郡、三養基郡
三池	福岡縣三池郡三川町	長崎縣ノ内南高來郡、北高來郡
		福岡縣ノ内久留米市、大牟田市、浮羽郡、三井郡、三潁郡、八女郡

長崎

三角	熊本縣宇土郡三角町	山門郡、三池郡
鹿兒島	鹿兒島縣鹿兒島市	熊本縣ノ内玉名郡、鹿本郡、菊池郡、阿蘇郡
嚴原	長崎縣下縣郡嚴原町	熊本縣ノ内熊本市、宇土郡、飽託郡、下益城郡、上益城郡、八代郡
佐須奈	長崎縣上縣郡佐須奈村	葦北郡、球磨郡、天草郡
鹿見	長崎縣上縣郡仁田村	鹿兒島縣、宮崎縣
那霸	沖繩縣那霸市	長崎縣ノ内下縣郡
若松	福岡縣若松市	長崎縣上縣郡ノ内琴村、豐崎村、佐須奈村
博多	福岡縣福岡市	長崎縣上縣郡ノ内峰村、仁田村
徳山	山口縣都濃郡徳山町	沖繩縣
青森	青森縣青森市	福岡縣ノ内若松市、八幡市、戸畑市、遠賀郡、鞍手郡、嘉穂郡、朝倉郡、宗像郡
小樽	北海道小樽市	福岡縣ノ内福岡市、糟屋郡、筑紫郡、早良郡、糸島郡
		山口縣ノ内大島郡、玖珂郡、熊毛郡、都濃郡、佐波郡、吉敷郡
		青森縣、秋田縣、巖手縣
		北海道ノ内
		札幌市、小樽市、旭川市、札幌郡、石狩郡、厚田郡、濱益郡、久遠郡、奥尻郡、太樺郡、瀬棚郡、壽都郡、島牧郡、歌棄郡、磯谷郡、岩内郡、古宇郡、小樽郡、高島郡、忍路郡、余市郡、古平郡、美國



函館	根室	室蘭	大泊	眞岡
北海道釧路市	北海道根室郡根室町	北海道室蘭市	樺太大泊郡大泊市	樺太眞岡郡眞岡町
郡、積丹郡、空知郡、夕張郡、雨龍郡、樺戶郡、上川郡(石狩國)上川郡(天鹽國)中川郡(天鹽國)増毛郡、留萌郡、苫前郡、天鹽郡、宗谷郡、枝幸郡、利尻郡、禮文郡、網走郡、斜里郡、常呂郡、紋別郡 北海道ノ内 根室郡、花咲郡、野付郡、標津郡、目梨郡、國後郡、色丹郡、得撫郡、新知郡、占守郡、紗那郡、振別郡、樺皮郡、釧路市、釧路郡、白糠郡、足寄郡、阿寒郡、川上郡、厚岸郡、河西郡、河東郡、上川郡(十勝國)、中川郡(十勝國)、十勝郡、廣尾郡 北海道ノ内 室蘭市、室蘭郡、有珠郡、虻田郡、幌別郡、勇拂郡、白老郡、千歲郡、山越郡、浦河郡、沙流郡、新冠郡、靜内郡、三石郡、樺皮郡、幌泉郡 樺太郡ノ内 大泊郡、留多賀郡、富内郡、長濱郡、豊原郡、榮濱郡、元治郡、敷香郡、新間郡、散江郡 樺太ノ内 本斗郡、眞岡郡、野田寒郡、泊居郡、久春内郡、鶴城郡、名好郡				

(三) 税關出張所及税關支署出張所設置ノ件 (明治四十四年六月大藏省令第二十八號) (改正大正十一年一月同省令第四號)

左ノ各地ニ税關出張所又ハ税關支署出張所ヲ設置ス  
 本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| 神奈川縣橫濱市東橫濱驛停車場構内 | 橫濱税關東橫濱驛出張所    |
| 神奈川縣橫濱市橫濱驛停車場構内  | 橫濱税關橫濱驛出張所     |
| 東京府東京市東京驛停車場構内   | 東京税關支署東京驛出張所   |
| 東京府東京市汐留驛停車場構内   | 東京税關支署汐留驛出張所   |
| 兵庫縣神戸市神戸驛停車場構内   | 神戸税關神戸驛出張所     |
| 廣島縣廣島市宇品町        | 神戸税關廣島出張所      |
| 大阪府大阪市西區櫻島町      | 大阪税關櫻島出張所      |
| 大阪府大阪市大阪驛停車場構内   | 大阪税關大阪驛出張所     |
| 大阪府大阪市北區堂島町      | 大阪税關堂島出張所      |
| 京都府京都市梅小路驛停車場構内  | 大阪税關梅小路驛出張所    |
| 大阪府堺市吾妻橋通三丁目     | 大阪税關堺出張所       |
| 愛知縣名古屋市長古屋驛停車場構内 | 名古屋税關支署名古屋驛出張所 |
| 福井縣敦賀郡敦賀港驛停車場構内  | 敦賀税關支署敦賀港驛出張所  |
| 長崎縣長崎市長崎驛停車場構内   | 長崎税關長崎驛出張所     |
| 山口縣下關市中ノ町        | 門司税關下關出張所      |



(四) 稅關監視署ノ名稱位置 (明治三十二年四月大藏省令第十四號) (改正大正十一年二月同省令第十五號)

左ノ各地ニ稅關監視署ヲ設置ス但新設稅關監視署ハ漸次之ヲ關廳ス

陸前國石卷

石卷稅關監視署

下總國銚子

銚子 同上

上總國勝浦

勝浦 同上

安房國館山

館山 同上

相模國橫須賀

橫須賀 同上

相模國浦賀

浦賀 同上

相模國三崎

三崎 同上

伊豆國下田

下田 同上

伊豆國大島

大島 同上

遠江國見付

見付 同上

小笠原島父島

父島 同上

志摩國鳥羽

鳥羽 同上

紀伊國大島

大島 同上

紀伊國和歌山

和歌山 同上

和泉國堺

堺 同上

能登國小木

小木 同上

攝津國尼ヶ崎

尼ヶ崎 同上

攝津國西宮

西宮 同上

淡路國洲本

洲本 同上

伊豫國宇和島

宇和島 同上

讚岐國土庄

土庄 同上

播磨國明石

明石 同上

備中國玉島

玉島 同上

安藝國宇品

宇品 同上

隱岐國西郷

西郷 同上

隱岐國御郷

御郷 同上

長門國萩

萩 同上

長門國六連島

六連 同上

筑後國大川町

若津 同上

肥前國佐世保

佐世保 同上

肥前國松島村

松島 同上

肥前國伊萬里礪

伊萬里 同上

肥前國平戸

平戸 同上

第一編 稅關 第一章 緒論 第二節 稅關ノ官制、所在地及職能



倉庫及關稅論議義案

肥前國呼子	呼子稅關監視署
肥前國島原	島原 同上
肥前國福江	福江 同上
豐前國小倉	小倉 同上
豐前國部崎	部崎 同上
豐後國大分	大分 同上
豐後國佐賀關	佐賀關 同上
大隅國大島	大島 同上
壹岐國勝本	勝本 同上
對馬國豆酸村	豆酸 同上
琉球國八重山	八重山 同上
羽後國土崎港	土崎 同上
千島國紗那	紗那 同上
北見國稚內	稚內 同上
北見國鷺泊	鷺泊 同上
後志國壽都	壽都 同上

稅關ノ管掌事務ハ稅關官制(大正十三年十二月二十日)ニ規定セラル、次ノ如シ

- 一、關稅噸稅及稅關諸收入ニ關スル事項
- 二、保稅倉庫、稅關假置場其他ノ保稅地域ニ關スル事項
- 三、船舶及貨物ノ取締並ニ貨物ノ收容ニ關スル事項
- 四、關稅法及噸稅法犯則者ノ處分ニ關スル事項
- 五、輸出入貨物ノ戻稅、及交付金ニ關スル事項
- 六、運送通路ノ取締ニ關スル事項
- 七、輸入ノ砂糖織物ノ消費稅及骨牌ノ課稅ニ關スル事項
- 八、輸出入又ハ移出入ノ植物ニ關スル検査取締及病菌害蟲ノ研究調査ニ關スル事項
- 九、開港港則ニ關スル事項
- 十、開港々則ノ施行ニ直接必要ナル港内ノ行政警察ニ關スル事項
- 十一、開港檢疫ニ關スル事項
- 十二、輸入又ハ移入ノ獸畜ノ他ノ貨物ニ對スル家畜傳染病豫防法又ハ畜牛結核病豫防法ニ依ル検査

疫検査ニ關スル事項

稅關ハ内地產獸毛ノ消毒ニ關スル事務ヲ掌ルコトヲ得



第一項第八號乃至十二號及前項ノ事務ヲ掌ル稅關ハ大藏大臣之ヲ告示ス

之等ノ事務ヲ分擔處理セシメンガ爲メニ事務官、關稅官、鑑査官、植物檢査官、港務官、醫官、獸醫官、事務官補、監視港吏、鑑査官補、植物檢査官補、醫官補、獸醫官補、藥劑手、監吏、技手等多數ノ職員ヲ有シ、稅關長ハ大藏大臣ノ指揮ヲ承ケ之等ノ各職員ヲ統卒シ前記稅關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス、稅關支署ニハ支署長以下數人ノ職員ヲ置ク、支署長ハ本屬稅關長ノ指揮ヲ受ケ配下ノ職員ト共ニ其所管稅關事務ヲ掌ル、稅關出張所ヘハ稅關又ハ稅關支署ヨリ吏員ヲ派シ稅關事務ノ一部ヲ行ハシムルモノトス、稅關出張所及稅關支署出張所ハ各地方ニ設ケラル(明治四十四年六月大藏省令)、各稅關ハ其繁閑ニヨリ小異アルヲ免レザレドモ一般ニ左ノ各分課ヲ設ケテ其所管稅關事務ヲ分掌セシム、其分課規定ハ左ノ如シ。

稅關分課規程(大正四年二月十九日官報同年三月一日ヨリ施行)(改正大正十三年十二月二十二日官報同年同月二十日ヨリ施行)

第一條 稅關ニ監視部及港務部ノ外稅關長官房、總務課、檢査課、植物檢査課及會計課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二條 稅關長官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、機密ニ關スルコト
- 二、官吏ノ進退身分ニ關スルコト
- 三、官印及廳印ノ管守ニ關スルコト

四、文書ノ接受發送編纂保管ニ關スルコト

五、翻譯ニ關スルコト

六、異議訴願及訴訟ニ關スルコト

七、外國貿易船不開港出入ノ特許ニ關スルコト

八、保稅倉庫、假置場、其他保稅地域ノ設置變更廢止ニ關スルコト

九、他ノ部課ニ屬セザルコト

第三條 總務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、船舶貨物及船用品ニ關スル文書ノ調査ニ關スルコト

二、船舶貨物及船用品ニ關スル免許特許認許其他ノ處ニ關スルコト但シ開港港則、海港檢疫法、家畜傳染病豫防法、畜牛結核病豫防法、輸出入植物取締法、輸出獸毛製刷子取締規則及內地產獸毛消毒規則ニ關スルモノヲ除ク

三、檢査スベキ貨物ノ指定ニ關スルコト

四、諸稅及諸收入ノ賦課徵收並ニ豫算決算ニ關スルコト

五、稅金ノ擔保ニ關スルコト

六、統計及諸表ノ作成ニ關スルコト

第四條 檢査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、貨物及船用品ノ檢査鑑定ニ關スルコト

二、見本品ノ採取保存ニ關スルコト

三、仕入書ノ整理保存ニ關スルコト



第四條ノ二 植物検査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、輸出入又ハ移出入植物ニ關スル検査取締ニ關スル事項
- 二、輸出入又ハ移出入植物ノ病菌及害虫ノ研究調査ニ關スルコト

第五條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、經費ノ豫算、決算及會計ニ關スルコト
- 二、官有財産及物品ニ關スルコト
- 三、交付金及諸拂戻金ニ關スルコト
- 四、營繕ニ關スルコト

第六條 監視部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、船舶貨物及船用品ノ取締ニ關スルコト
- 二、保税地域及運送通路ノ取締ニ關スルコト
- 三、貨物ノ整理及收容處分ニ關スルコト
- 四、倉庫事務ニ關スルコト
- 五、犯則事件ノ調査處分ニ關スルコト
- 六、旅客携帯品ノ検査ニ關スルコト但シ輸出入植物取締法ニ依ルモノヲ除ク
- 七、船内船用品ノ検査ニ關スルコト
- 八、船口中告書旅客氏名表及船内船用品目錄ノ調査ニ關スルコト
- 九、税關構内ノ取締ニ關スルコト

第六條ノ二 港務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、開港港則ニ關スルコト
- 二、開港港則ノ施行ニ直接必要ナル港内ノ行政警察ニ關スルコト
- 三、海港檢疫ニ關スルコト
- 四、輸入又ハ移入ノ獸畜其ノ他ノ貨物ニ對スル家畜傳染病法又ハ畜牛結核病豫防法ノ檢疫検査ニ關スルコト
- 五、内地産獸毛ノ消毒ニ關スルコト
- 第七條 税關長ハ必要ト認ムルトキハ部課ノ事務ニ關スル文書ノ接受發送ヲ其部課ニ掌ラシムルコトヲ得
- 第八條 税關長ハ税關支署ノ分課規定ヲ定メ認可ヲ受ケベシ

附 則

函館税關ニハ當分ノ内植物検査課ヲ置カズ監視部ニ於テ其ノ事務ヲ掌ル

トセラル、税關監視署ハ各地方ニ在ルコト前掲第八頁(四)ノ如シ (明治三十二年四月) (大藏省令第一四號)

第二章 開 港

第一節 開港ノ意義

開港トハ條約又ハ法令ニ依リ外國貿易ノ爲メニ開カレタル港ヲ稱シ其他ノ港ハ總ベテ之ヲ不開港ト云フ、此名稱ハ往時鎖國論喧カリシ時代ノ閉鎖ニ對シテ用キラレシ反語ニシテ貿易港ヲ意味ス。



港ハ其利用ノ方面ヨリ區別シテ商港、軍港及漁港トナスベク又内地商港ト外國貿易港即チ開港トニ分ツベシ、然シ乍ラ開港必シモ他ニ利用セラレザルニ非ズ。同時ニ又漁港、又ハ内地商港トシテ利用セラルルコト勿論ナリトス。吾邦ノ如キ環ガラスニ大部分海ヲ以テスルガ故ニ貿易亦其大部分ハ開港ヲ以テセラル。船舶法ノ規定ニヨレバ日本船舶ニテモ外國貿易ニ從事スルモノハ不開港ニ出入スルヲ得ズ、況ヤ外國船舶ハ勿論ナリ。只海難其他已ムヲ得ザル事故アリタルトキハ此限ニ非ズトセルノミ、サレバ開港ハ外國貿易ニ從事スル内外國船舶出入ノ唯一ノ要衝タリ。從テ輸出入貨物ハ勿論旅客モ陸接國境ヲ經由スルモノノ外ハ總ベテ開港ヲ經由スルガ故ニ、之等船舶、貨物及旅客ニ對スル港内竝ニ陸上ニ於ケル諸設備ハ開港主要ノ機關ト云フベシ。從テ其完否ハ其港ノ盛衰消長ニ至重至大ノ關係ヲ有スルモノトス。其他明治四十二年以來朝鮮ニ於テハ陸接國境貿易ノ爲メ開港ト同ジク國境地點ヲ指定開放スルニ至レリ。

又輓近空中輸送ガ愈發達ヲ告グルニ至リ海外來往ノ航空機ニ對シテモ其發着地タル飛行場開放指定ノ必要ヲ生ジタリ、尙現在ニ於テハ我國ニハ指定場所ナキガ航空法第三九條(大正十年法律第一四號)ニテ命令ヲ以テ指定シタル飛行場ハ關稅法ノ開港ニ關スル規定ヲ準用ストシ航空機ニ對シテハ外國貿易ニ關スル規定ヲ準用ストアルガ故ニ遠カラズ開放指定地ノ設置ヲ見ルベク從テ之モ内地商業飛行場、外

國貿易飛行場、軍事飛行場等ノ數種ニ區別セラル、ニ至リ之ニ對シテモ亦同様相當ノ設備ヲ要スルニ至ラン。

## 第二節 開 港

本邦開港ハ左ノ如シ。

(明治三十二年七月勅令第三四二號改正大正十一年三月勅令第二九號)

武藏國橫濱	攝津國神戸	肥前國長崎
渡島國函館	越後國新潟	越後國夷港
駿河國清水	尾張國武豐	尾張國名古屋
伊勢國四日市	備後國島原	伊豫國今治
周防國徳山	長門國下ノ關	豊前國門司
筑前國若松	筑前國博多	肥前國唐津
肥前國住ノ江	肥前國口ノ津	筑前國三池
肥後國三角	薩摩國鹿兒島	對馬國嚴原



對馬國佐須奈	對馬國鹿見	琉球國那霸
石見國濱田	伯耆國境	丹後國宮津
越前國敦賀	能登國七尾(南灣)	越中國伏木
陸奥國青森	後志國小樽	根室國根室
釧路國釧路	膽振國室蘭	樺太 大泊
樺太 真岡	朝鮮 群山	同 木浦
朝鮮 城津	同 清津	南洋 サイパン
南洋 バラオ	南洋 ヤルート	南洋 トラック
南洋 ヤップ	南洋 ボナベ	

以上ノ中從來ノ開港タル横濱、神戸、大阪、長崎、函館、新潟、夷港以外ノ開港ハ滿二ケ年毎ノ輸出入貨物ノ價格五萬圓ニ達セザルトキ又ハ交通ノ發達ニヨリ他ニ開港ヲ設ケ將來存置ノ必要ナキ場合ニハ勅令ニ依リ之ヲ閉鎖シ得ルコト、シ其時期ハ三ケ月前ニ大藏大臣ガ公表スベシトセリ(明治三十二年七月勅令第三四二改正大。正十一年三月勅令第二九號)。

航空機飛行場ハ命令ヲ以テ定メラルベキモノニシテ將來航空機ノ發展ト共ニ之ガ指定ヲ見ルニ至

ラン。

### 第三節 開港港則概要

前述ノ如ク外國貿易船ハ悉ク開港ヲ經由シテ出入スルガ故ニ國家ハ特ニ交通ノ利便ヲ顧慮シ且ツ船舶相互間ノ危險ヲ防遏シ、公共衛生ヲ保持スル必要上一定ノ秩序ヲ設ケザルベカラズ之蓋シ開港港則アル所以ナリ、而シテ港灣ニ關スル之等ノ規定ハ關稅行政ノ一部トシテ稅關ノ管轄ニ屬セシム、以前ニ於テハ稅關ハ單ニ關稅ノ財政行政ヲ主トシ其他ハ之ヲ內務行政ニ屬セシメタリシガ故ニ一ノ外國貿易船又ハ外國貨物積載船ハ開港港則施行ノ港灣ニ於ケル關稅ノ財政行政ニ關シテハ稅關ノ支配ヲ受ケ其他ノ事項ニ關シテハ地方廳若クハ管海官廳ノ支配ヲ受ケ夫レ夫レ其ノ法規ニ拘束セラレ其手續重複シタリ例ヘバ船舶入港届ノ如キ雙方ヘ届出ヲ爲スコトヲ要スルガ如キ著シキ不便アリタリ、之レ即チ勅令第三三三號(大正十三年十一月二十日)ノ改正ニヨリ前述ノ如キ港灣行政ノ統一ヲ見ルニ至レル所以ナリ。今港灣行政ノ概要ヲ述ベシニ、

#### イ、港灣經界線ノ劃定

一般海面ト港トノ區劃ヲ明確ナラシメ得ザレバ以テ法ノ適用地帯ヲ明カナラシムル能ハズ、此ノ



故ニ經界ヲ劃定ス、其ノ選定ニ付テハ地形上成ルベク海上ヨリ容易ニ認識シ得ラルベキ經界地點タルヲ要シ同時ニ相當ノ目標ヲ付スルヲ常トス(明治三十一年七月)。(勅令第一三九號)

#### ロ、船舶危險

船舶上ノ危險ノ發生ヲ防止スベキ諸事項ヲ規定セリ。例ヘバ港界内ニ碇泊シ又ハ運航スル船舶ハ日没ヨリ日出迄ノ間ハ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定セル各種ノ船燈ヲ掲グルコトヲ命ジタル如キ或ハ爆發物又ハ容易ニ燃燒スル物件ヲ積載シタル一切ノ船舶ハ港界外ニ於テ港長ノ指揮ヲ待ツ迄一定ノ標燈ヲ掲グベシト規定セルガ如キ之ナリ。

#### ハ、衛生

一般公共ノ安全ヲ維持センガ爲メニ病毒ノ傳播ヲ防止セントスル保健行政ノ一ナリ。例ヘバ帝國政府ニ於テ流行病若クハ傳染病(虎列刺、黃熱、猖紅熱、天然痘、ペストノ類)アル地ト布告シタル地ヨリ來着シ又ハ航海中船内ニ該病アリタル船舶ハ港界外ニ來リ一定ノ標燈ヲ掲ゲ衛生官吏ノ臨檢ヲ受クベシ又港界内ニ於テ死體、荷足、灰燼、塵芥等ヲ海中ニ投棄スベカラズト規定セルガ如キ之ナリ。

#### ニ、其他ノ港灣取締

多數船舶ノ自由交通ヲ保護シ同時ニ港灣タル設備ヲ維持スルガ爲精細ナル多クノ規定ヲ設ク港灣ヲ出入スル船舶ハ外國貿易船タルト沿海通航船タルト軍艦(多少ノ例外アリ)タルトヲ問ハズ原則トシテ悉ク本法ノ適用ヲ受クベキモノトス。只例外トシテ船籍證書ヲ受有スル必要ノナキ船舶又ハ一定ノ港津間ヲ往復スル沿海通航船ニ限り船主ヨリ豫メ港務部ニ届出テ認許ヲ受クレバ着港届及出港届ノ手續省略ヲナシ得ルノミ。而シテ船籍證書不要ノ船舶トハ船舶法ニテ除外セル總噸數二十噸未滿又ハ石積二百石未滿ノ船舶ヲ指スモノトス。

#### 外國貿易船ハ開港々則(明治三十一年七月)第二條第二項ニ

着港届ハ日曜日及大祭日ヲ除ク外着港後二十四時間内ニ差出スベシ但シ着港届ヲ差出シタル後ニアラザレバ如何ナル船舶タリトモ稅關手續ノ便利ヲ與ヘザルモノトス。

ト規定セルガ故ニ開港々則施行港ニ入港セル時ハ先ヅ以テ港務部ニ届出ヲナサルベカラズ、而シテ現今開港々則ノ適用アルハ横濱、神戸、門司及長崎ノ四港ニシテ尙基隆、大連、及旅順ノ三港ハ之ニ準ズベキモノトス。大連及旅順ニ對シテハ關東都督府令ニ依ル大連港則及海軍省令ニ依リ定メラレタル旅順港規則ナルモノアリ。而シテ旅順港ハ普通船舶ニ對シテハ旅順港中西港以外ニハ出入ヲ許サレズ。



カ、ル開港々則適用港ノ範圍ハ貿易ノ發展ニ應ジテ擴張セラル、ニ至ラン。

### 第四節 開港ノ經界

開港ニハ開港所定ノ經界アルガ故ニ外國貿易船ガ貨物ノ積込積卸ハ勿論寄港碇泊ヲナスニ當リテハ必ズ其經界線以内ナルコトヲ要シ、若シ之ニ違反セル場合ニハ不開港出入トシテ船舶法、關稅法又ハ條約等ノ各規定ニヨリ處罰セラルベシ。而シテ開港經界線内ニ入ル場合ニハ前節所述ノ諸規定ヲ遵守スベキモノニシテ違反セル場合ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處セラルコトアルベシ（開港々條八）。

- 一、横濱ノ港界、十二天（マンダリン、アラツフ）ヨリ燈船マテ夫ヨリ西北ニ向ヒ鶴見川口ノ東岸迄引キタル一線内ニ合マル。
- 神戸ノ港界、脇ノ濱ノ東南ヨリ正南ニ引キタル一線ト和田岬ヨリ北東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内。
- 新潟ノ港界、燈臺ヲ中心トシテ海哩半ノ半經ヲ有スル圓圈ノ一弧内ニ合マル。
- 夷港ノ港界、椎泊林ヨリ北五十里村外堺マテ引キタル一線ト加茂湖東岸港町ヨリ同湖北西岸加茂村マテ引キタル一線トノ内ニ合マル。
- 大阪ノ港界、神崎川口東西微南ニ引キタル一線ト大和川口南岸ヨリ、正西ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トシタル面積内。
- 長崎ノ港界、小瀬戸浦ノ南東端ヨリ鼠島ノ外端ヲ經テ蔭ノ尾島長刀埼ニ引キタル一線ト蔭ノ尾三角點（一五四呎）ヨリ正南ニ向

ヒ香燒島ニ引キタル一線及香燒島石燈籠ノ鼻ヨリ深堀村堂ノ埼ニ引キタル一線以内。

函館ノ港界、阿野間崎ヨリ南方沖ノ半海哩ノ所ヨリ上磯村有川口ノ東岸マテ引キタル一線内ニ合マル。

清水ノ港界、眞崎ヨリ正北ニ引キタル一線内。

武豊ノ港界、布土村ヨリ正東ニ引キタル一線以内。

名古屋ノ港界、西突堤燈臺ヲ中心トシテ二海哩半ノ半經ヲ有スル圓圈ノ一弧内。

四日市ノ港界、燈臺ヲ中心トシテ二海哩半ノ半經ヲ有スル圓圈ノ一弧内。

絲崎ノ港界、絲崎ヨリ「カイノ」山ノ嶺ニ引キタル一線以内。

徳山ノ港界、仙島ノ洲鼻ト蛇島ノ北東端トノ連結線ヲ兩岸ニ延長シタル一線以内。

今治ノ港界、蒼社川口ノ東岸ヨリ正北ニ引キタル一線ト大濱燈臺ヨリ南六十度東ニ引キタル一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内。

下ノ關ノ港界、彦島弟子待ノ鼻ヨリ巖流島ノ東南端マテ夫ヨリ北東微北ニ向ヒ引キタル一線及彦島海士浦ノ鼻ヨリ北東ニ引キタル一線以内。

門司ノ港界、白木埼ヨリ北西四鐘ノ所ヨリ門司埼ニ引キタル一線ト正南ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トシタル面積内。

若松ノ港界、燈臺ヲ中心トシテ二海哩ノ半經ヲ有スル圓圈ノ一弧内及平野川口ノ東岸ヨリ北西ニ引キタル一線以東。

博多ノ港界、殘島ノ北端ヨリ滿切ニ引キタル一線及小戸鼻ヨリ殘島ノ南端ニ引キタル一線以内。

唐津ノ港界、高島ノ北端ヨリ西北西ニ引キタル一線ト同島ノ南東端ヨリ正南ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内。

伊ノ江ノ港界、船津川口ノ西岸ノ南端ヨリ正西ニ引キタル一線以内。



口ノ津ノ港界、宮崎鼻ヨリ正南ニ引キタル一線ト白間崎ヨリ正東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内。  
 三池ノ港界、北突堤燈臺ヲ中心トシテ一海哩半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内。  
 三角ノ港界、瀬戸ノ鼻ヨリ大矢野島コシヒラ鼻マテ際崎ノ鼻ヨリ戸馳島野崎マテ同島兎鼻ヨリ千東島六四郎鼻マテ夫ヨリ大矢野島塔ヶ崎マテ引キタル四線以内。  
 鹿兒島ノ港界、一丁臺場南端ノ燈臺ヲ中心トシテ一海哩ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内。  
 嚴原ノ港界、虎崎ヨリ耶良崎(一名寢釋加鼻ニ)引キタル一線以内。  
 佐須奈ノ港界、立場崎ヨリトロク崎ニ引キタル一線以内。  
 鹿見ノ港界、長崎島ヨリ塔崎ニ引キタル一線以内。  
 那覇ノ港界、先原崎ヨリ干ノ瀨ノ北端ニ引キタル一線及安里川口ヨリ干ノ瀨ノ北端ニ引キタル一線以内。  
 濱田ノ港界、黒崎ヨリ馬島ノ西端ニ引キタル一線ト馬島ノ北端(干疊敷鼻)ヨリ入道鼻ニ引キタル一線以内。  
 境ノ港界、燈臺ヲ中心トシテ一海哩半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内及外ノ江ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線以東。  
 宮津ノ港界、片島鼻ヨリ日置崎ニ引キタル一線以内。  
 敦賀ノ港界、赤崎ヨリ蛭子崎ニ引キタル一線以内。  
 七尾(南灣)ノ港界、能登島松ヶ崎ヨリ南東ニ引キタル一線以西及屏風崎峽以東。  
 伏木ノ港界、燈臺ヲ中心トシテ一海哩半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内。  
 青森ノ港界、鼻線岬ヨリ正西ニ引キタル一線以内。  
 小樽ノ港界、平磯岬ヨリカヤシバ岬ニ引キタル一線以内。  
 根室ノ港界、辨天島燈臺ヲ中心トシテ一海哩ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内。

釧路ノ港界、燈臺ヨリ正西二海里ニ引キタル一線以北及該線ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線以東。  
 室蘭ノ港界、エンルム崎ヨリ大黒島ヲ經テホテイシ崎ニ引キタル一線以内。  
 大泊ノ港界、燈竿ヲ中心トシテ二海哩半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内。  
 眞岡ノ港界、導標ノ紅光燈ヲ中心トシテ一海哩ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内。

二、朝鮮仁川港

猫角ヨリ大月尾島ノ北端ニ向ケ引キタル延長線勿淄島ノ東端ヲ基準トシテ南微西二分ノ一西ニ引キタル一線、納島ノ南端ヨリ西四分ノ三南ニ引キタル一線及市街ノ南東ニ在ル百二十八呎山頂ヨリ納島ノ東ニ引キタル一線以内。  
 群山港  
 所雉串ヨリ南四分ノ三東ニ引キタル一線堂末ヨリ後望山山頂ニ引キタル一線及龍堂ヨリ前望山桂燈立標ニ向ケ引キタル一線以内。

木浦港

南角ヨリ高下島二百六十四呎山頂ニ引キタル一線、高下島二百四十呎山頂ヨリ四十二呎島ノ山頂ヲ經テ對岸ニ引キタル一線及牙山山頂ヨリ三鶴島ノ東端ヲ經テ務安半島ニ引キタル一線以内。

釜山港

富民洞南端ヨリ絶影島大風浦ニ向ケ引キタル一線及廣蟾末ヨリ浮鳳末ニ引キタル一線以内。

鎮南浦港

猪島百七十七呎山頂ヨリ北二分ノ一西ニ引キタル一線及望達里崎ヨリ北二分ノ一西ニ引キタル一線以内。

新義州港



下端洞(海圖ノ感化洞ニ當ル)目標ヨリ北微西二分ノ一西ノ對岸小沙河川口右岸ニ引キタル一線及海州河(新義州ヨリ約一哩下流ニアリ)川口目標ヨリ北西微北二分ノ一北ニ引キタル一線以內但シ麻田江ヲ含マズ。

龍巖浦港

獅子島二百五十呎山頂ヨリ加次島頂上ニ引キタル一線加次島頂上ヨリ「クルミ」島頂上ニ引キタル一線「クルミ」島頂上ヨリ細島頂上ヲ經テ延長シタル一線及龍化山山頂ヨリ西微北四分ノ三北ニ引キタル一線以內。

元山港

連島里百三十六呎山頂ヨリ陽日川川口右岸ニ引キタル一線以內。

清津港

高林山突角ヨリ輪城河(海圖ノ細浦川ニ當ル)川口ニ引キタル一線以內。

城津港

沙津端ヨリ對岸厚里山山頂ニ引キタル一線以內。

三、臺灣雄基港

琵琶頂島東端ヨリ雄基山千三百三十一呎山頂ニ引キタル一線以內。

基隆港内トハ萬人堆鼻ヨリ北東微東二分ノ一東ニ向ヒ中山ノ西北端ニ引キタル一點ト尖山角ヨリ南西微南ニ向ヒテ引キタル一線トノ内部ヲ謂フ。

四、大連港

黃白嘴ノ外端ヨリ和尚島ノ東端東嘴子ニ至ル一線以西ノ水域ヲ指ス。

### 第五節 開港港則

(明治三十一年七月勅令第三百三十九號改正大正十三年三月勅令第四十七號)

第一條 左ニ記載スル外國通商ヲ許シタル諸港ノ經界ハ左ノ如ク之ヲ定ム

(第四節一、即チ橫濱ヨリ眞岡ニ至ル規定參照)

第二條 各船舶ハ入港スルニ當リ其國旗及信號符字ヲ掲グベシ定期郵便船ハ會社旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得

右國旗及信號符字又ハ會社旗ハ船舶ノ著港ヲ港長ニ届出テタル後ニアラザレバ之ヲ引下スベカラズ著港届ハ日曜日及大祭日ヲ除ク外著港後二十四時間内ニ之ヲ差出スベシ但著港届ヲ差出シタル後ニアラザレバ如何ナル船舶タリトモ稅關手續ノ便利ヲ與ヘザルモノトス

第三條 各船長ハ其著港ニ際シ自由交通ノ許可ヲ受クル迄ハ其船舶ト他ノ船舶或ハ陸地トノ間ニ於ケル一切ノ交通ヲ差止ムベシ

第四條 港長ノ端艇ハ港ノ入口近傍ニ出向キ居リ港長ハ各船舶ノ入港スルニ當リ其泊船所ヲ決定スベシ而シテ各船舶ハ止ムコトヲ得ザル場合ヲ除クノ外特許ナクシテ其泊船所ヲ去ルベカラズ但シ港長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ヲシテ其泊船所ヲ移サシムルコトヲ得

第五條 港長ハ其執務ノ爲常ニ制服ヲ著ケ其端艇ニハ別紙雜形ノ如キ旗ヲ掲グベシ港長ハ何時タリトモ船舶ノ運動繫船ノ適否及碇泊所ニ關スル指揮ガ果シテ實行セラレ居ルヤ否ヤヲ檢査スルコトヲ得

第六條 如何ナル船舶モ公ケノ航路ニ投錨シ若クハ其他航海ノ自由ヲ障礙スベカラズ「ザブ、ブームス」ヲ接キ出シタル船舶ニシテ其「ザブ、ブームス」カ航海ノ自由ヲ障礙スルトキハ港長ノ請求ニ從ヒ之ヲ取込ムベシ



第七條 港界内ニ碇泊シ又ハ運航スル各船舶ハ日没ト日出ノ間ニハ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ掲グベシ

第八條 暴風雨ノ來ラントスルトキ或ハ警報信號ヲ掲ゲタルトキハ各船舶ニ於テ直ニ一箇又ハ一箇以上ノ豫備錨ヲ投下スルノ準備ヲ爲スベシ尤モ汽船ハ此外別ニ蒸氣ヲ發生セシムベシ

第九條 常用ニ超過シ爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物料ヲ積載シタル一切ノ船舶ハ港界外ニ來リ其處ニテ港長ノ指揮ヲ待ツベシ斯ク指揮ヲ待ツ間右船舶ハ日出ト日没ノ間ニハBノ信號日没ト日出ノ間ニハ紅燈ヲ前橋ノ頂上ニ掲グベシ

各船舶ハ港長ノ指定シタル場所ニアラザレバ前記ノ物料ヲ積入レ又ハ荷卸スベカラズ港長ハ港界内ニ於テ前項ノ場所ヲ指定シ難シト認ムルトキハ港界外ニ於テ適當ノ場所ヲ指定スルコトヲ得

前項ニヨリ指定シタル場所ハ港界内ニ在ルモノト看做ス

第十條 休繋中又ハ修繕中ノ船舶及總テ「ヤツト」倉庫船、貨船及端艇等ハ特ニ港長ノ指定シタル泊船所ニ碇泊スベシ

第十一條 船舶ガ港界内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ルマデ船鐘ヲ打鳴スベシ且ツ日出ト日没ノ間ニハNMノ信號ヲ掲ゲ日没ト日出ノ間ニハ斷ヘズ紅燈ヲ上下スベシ

警察官ノ救援ヲ要スルトキハ日出ト日没ノ間ニハGノ信號ヲ掲ゲ日没ト日出ノ間ニハ藍火若クハ閃火ヲ示スベシ前記ノ如キ信號ニ用ユル場合ノ外港長ノ允許ヲ得ルニアラザレバ港界内ニ於テ銃砲及煙火等ヲ發スルコトヲ得ズ

第十二條 帝國政府ニ於テ流行病若クハ傳染病(虎列刺、天然痘、黃熱、猖紅熱、ペスト、ノ類)アル地ト布告シタル地ヨリ來著シ又ハ航路中船中ニ該病アリタル船舶ハ港界外ニ來リ日出ト日没ノ間ニハ黃旗ヲ日没ト日出ノ間ニハ紅白二燈ヲ上下ニ連ネ前橋ノ頂上ニ掲グベシ又前記ノ船舶ハ當該衛生官吏ノ臨檢ヲ受クベシ

衛生官吏臨檢ノタメ其船舶ニ近寄りタルトキハ適當ノ豫防ヲ施シ得ル爲メニ航路中現ニ該病發生ノ有無及該病ノ性質如何ヲ該

官吏ニ通知スベシ

右船舶ハ自由交通ノ允許ヲ受クルマデ黃旗若クハ前記ノ燈火ヲ引下スベカラズ且ツ當該衛生官吏ノ允許ヲ得ルニアラザレバ何人タリトモ上陸セシメ又ハ一切他ノ船舶ト交通ヲ許サズ

前數項ノ規定ハ港界内ニ碇泊スル船舶中ニ於テ前記ノ流行病及傳染病ノ内何病ニテモ發生シタルトキニ之ヲ適用ス

右船舶ハ港長ヨリ其旨命令ニ接スルトキハ其泊船所ヲ移轉スベシ

牛羊等傳染病アル地ヨリ來著シ又ハ航海中該病ヲ發生シタル船舶ハ當該衛生官吏ノ允許ヲ得ルニアラザレバ牛羊等又ハ其死體皮革又ハ骨ヲ陸揚シ又ハ他船ニ積換ユルコトヲ許サズ

第十三條 港界内ニ於テ死體、荷足、灰燼、塵芥、等ヲ海中ニ投棄スベカラズ

石炭、荷足其他之ニ類スル物料ヲ積卸スルトキハ其海中ニ脱落スルヲ防グ爲メ必要ノ豫防ヲ爲スベシ

何船舶ニテモ港ニ害アル一切ノ物料ヲ海中ニ投棄シ又ハ怠慢ニ依リ脱落セシメタルトキハ港長ヨリ其旨命令ニ接セバ該船舶ニ於テ之ヲ取除クベシ若シ取除カザルニ於テハ港長ハ該船舶ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシムルコトヲ得

第十四條 船舶出港セントスルトキハ其旨港務局ニ届出テ且ツ出帆旗ヲ引揚グベシ

一定ノ時日ニ出帆スル汽船ハ其著港及出港ニ對シ單ニ一回ノ届出ヲ爲スヲ以テ足レリトス

第十五條 一港内又ハ其附近ノ公ケノ航路ノ妨害トナルベキ總テノ難破物又ハ其他ノ物件ハ港長ノ指定セル時間内ニ其所有主ニ於テ之ヲ取除クベシ若シ港長ノ指定セル時間内ニ此命令ヲ遵行セザルニ於テハ港長ハ所有主ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシメ又ハ破壞セシムルコトヲ得

第十六條 港務局ハ定期郵便汽船ノ爲ニ適切ニシテ且ツ充分ナル浮標ノ繫船器若干ヲ備ヘ置キ之ヲ使用スル所ノ船舶ヲシテ成規ノ使用料ヲ拂ハシムベシ



第十七條 燈船、信號用浮標又ハ立標ニハ鐘、綱其他ノ船具ヲ繋ケベカラズ  
 船舶若シ燈船、浮標、立標、埠頭及其他ノ造營物ニ乘掛ケ又ハ之ヲ毀損シタルトキハ其修繕又ハ再設ノ爲メニ必要ノ費用ハ該  
 船舶ニ於テ之ヲ支辨スベシ

第十八條 本則ノ規定ヲ犯シタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 船舶ニ科スル罰金、使用料又ハ費用ニ付テハ船長モ亦其責ヲ負フモノトス

第二十條 本則ニ依リ船舶ニ科シタル罰金、使用料又ハ費用ヲ完納スルカ或ハ之ニ對シ港長ノ満足スベキ擔保物ヲ港長ニ差出ス  
 ニアラザレバ其船舶ノ出港ヲ許サズ

第二十一條 本則ニ於テ港長ト稱スルハ助役及代理者ヲモ包含シ船長ト稱スルハ其名稱ノ何タルヲ問ハズ船舶ヲ指揮監督スル者  
 ノ義ニシテ港ト稱スルハ本則第一條中ニ列記セル諸港ノ一ヲ指ス

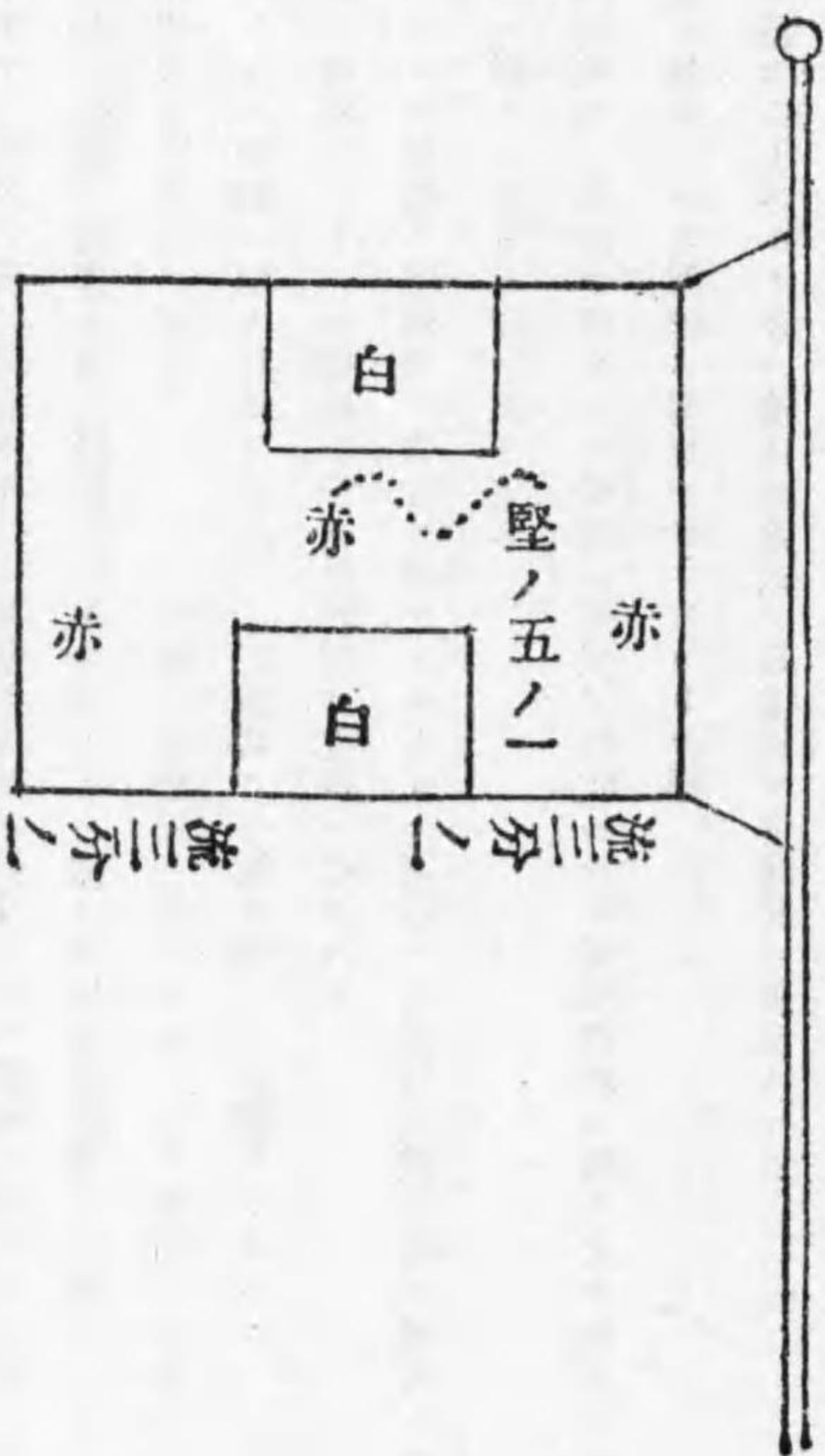
第二十二條 各港ニ於テ其一部分ヲ軍艦ノ碇泊所トシテ取除ケ置クベシ

第二十三條 本則ノ規定中軍艦ニ適用セラルベキモノハ第四條、六條、十二條、二十一條ノ規定及第十三條第一項及第二項ノ規  
 定ニ限ル

第二十四條 本則施行ノ時期及場所ハ遞信大臣之ヲ告示ス

本則實施ニ關スル細則ハ遞信大臣之ヲ發布ス

第五條ノ旗章雜形



### 第六節 開港港則施行細則

(明治三十一年九月遞信省令第十六號最近改正明治三十五年八月同第三十七號)

第一條 港務局官吏船舶ニ臨檢シタルトキハ檢疫ニ關スル許可證ヲ査閱スヘシ

第二條 港長ノ示定シタル泊船所ヲ移轉セントスルトキハ船長ハ願書ヲ港務局ニ差出シ豫メ允許ヲ受クヘシ

第三條 船舶ノ著港届ハ第二號書式ニ依リ港務局ニ差出スヘシ

第四條 開港港則第九條ニ於テ爆發物ト稱スルハ「フラスチン」セラチン「彈藥包、爆發管」「ダイナマイト」「煙火、導火管」「ゼリク

第一編 關稅 第二章 開港 第六節 開港港則施行細則



ナイト、ナイトログリセリン、火藥、綿火藥、無煙火藥、雷管ノ類ヲ謂ヒ容易ニ燃燒スヘキ物料ト稱スルハ生石油、(「アルマ」油「ラングー」油、「ロツク」油ヲ包含ス)石油、「ナフタ」の列並底油、依的兒、偏蘇爾、石油偏陳「アセトン」酒精及硫化炭素ノ類其  
他華氏九十五度以下ノ熱度ニ依リ發火スヘキ氣體ヲ發スルモノヲ謂フ

第五條 船舶ニ設備スル大砲一門毎ニ火藥五十發分導火管類七十箇、小銃一挺毎ニ火藥百發分雷管五十箇及信號用ノ榴彈、火箭  
煙管、救命煙ヲ除クノ外爆發質ノ物料ハ總テ之ヲ常用外ト看做ス

容易ニ燃燒スヘキ物料ハ船舶所用ノ目的ヲ證明シ得ルモノノ外總テ之ヲ常用外ト看做ス

第六條 信號用ノ外港界内ニ於テ銃砲及煙火等ヲ發セントスルトキハ願書ヲ港務局ニ差出シ豫メ允許ヲ受クヘシ

第七條 開港港則第十二條第六項ノ船舶及碇泊中獸類傳染病ノ發生シタル船舶ハ速カニ其旨ヲ港務局ニ届出ツヘシ

第八條 港界内ニ於テ船舶ヲ休繋シ又ハ修繕セントスルトキハ豫メ其旨ヲ港務局ニ届出ツヘシ

第九條 動物ノ死體灰燼塵芥等ヲ取棄テントスル船舶ハ港務局ニ於テ承認シタル塵船ヲ使用スヘシ

塵船ヲ使用セントスル船舶ハ船内見易キ處ニ下ノ信號若クハ籃ヲ掲ケテ目標トナスヘシ

第十條 繫船浮標ヲ使用セントスル船舶ハ豫メ港務局ノ允許ヲ受クヘシ

前項ノ允許ヲ受ケタル船舶ハ港務局ノ告知ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク成規ノ使用料ヲ納入スヘシ

繫船浮標使用料ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 繫船浮標使用ノ允許ヲ受ケタル船舶ハ港長ノ指定シタル繫船浮標ニ限り之ヲ使用スルコトヲ得

港長ハ必要ニ依リ使用スヘキ浮標ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十二條 船舶出港セントスルトキハ第四號書式ノ出港届ヲ港務局ニ差出スヘシ

第十三條 一定ノ日時ニ發著スル汽船ニシテ其著港及出港ニ付一回ノ届出ヲ爲ス者ハ第六號書式ニ依ルヘシ

第十四條 出港シタル船舶避難修繕其他事故ノ爲メ出港後十二時間内ニ歸港シタルトキハ其理由ヲ記載シタル届書ヲ港務局ニ差  
出シ著港届ニ代フルコトヲ得

第十五條 開港港則第二十條ニ規定スル擔保物ハ帝國ノ通貨及帝國政府ノ公債證書ニ限ル

第十六條 本則ノ規定ハ第二條第八條及第九條ヲ除ク外軍艦ニハ之ヲ適用セス

第十七條 第一條ノ規定ハ沿海通航路ニハ之ヲ適用セス

第十八條 船籍證書ヲ受有スルニ及ハサル船舶及一定ノ港津間ニ往復スル沿海通航船ハ船主ヨリ豫メ港務局ニ届出テ允許ヲ受ク  
ルニ於テハ第三條及第十二條第一項ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 警報信號、正午標準時、港界内ノ航路、泊船所碇泊所ノ區域、船舶ノ運動及繫船ノ方法ハ各港ニ付キ港長之ヲ定ム

港長ハ港内ノ一定區域ヲ限リ船舶ノ航行ヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ區域ハ之ヲ告示ス

第一號書式(削除)

第二號書式

着港届

一 船ノ種類

一 船名

一 船主

一 國籍

一 船籍港名

第一編 稅關 第二章 開港 第六節 開港港則施行細則



一 總噸數

一 登簿噸數

一 發航地(原發航地、最後發航地)及發航年月日

右 年 月 日 時 當港ニ入船候間此段及御届候也

年 月 日 船長某

何港務局宛

第三號書式(削除)

第四號書式

出港届

一 船名

右 年 月 日 時(何地)ヘ向ケ當港出船可致候間此段及御届候也

年 月 日 船長某

何港務局宛

第五號書式(削除)

第六號書式

著發届

一 船名

一 船主

一 國籍

一 船籍港名

一 總噸數

一 登簿噸數

一 發航地名(原發航地、最後發航地)及發航年月日

一 到達地名

右 年 月 日時當港入船 年 月 日時出船可致候間此段及御届候也

年 月 日 船長某

何港務局宛

開港港則ヲ横濱神戸長崎ニ施行ノ件

(明治卅一年九月遞信省告示第二三一號)

明治三十一年勅令第三百三十九號開港港則ハ來十月十日ヨリ横濱港ニ同十一月一日ヨリ神戸港及長崎港ニ之ヲ實施ス

開港港則ヲ門司港ニ施行ノ件

(明治三十三年十一月遞信省告示第四四九號)

### 第七節 陸接國境貿易地域及指定地

現下我邦ノ陸接國境界地ハ平安北道義州府水口嶺ヨリ咸鏡北道豆滿口ニ至ル陸接國境ナレドモ此



ノ何レノ場所ニ於テモ貿易ヲ爲シ得ルニ非ズ、此ノ爲メニ朝鮮總督府ハ必要ト認ムル場所ヲ指定ス所謂陸接貿易指定地之ナリ、尤モ

- 1 旅客ノ用品及職業上必要ナル器具
- 2 隣接國境ヨリ各二里以内ノ地域内ニ居住スル内外國住民ガ其方面ニ於テ收穫又ハ生産シタル物品ノ輸出入

3 前記住民ノ作業ニ必要ナル物品ノ輸出入ニ關シテハ關稅ヲ要セザルハ勿論必シモ指定地ヲ經由セズシテ自由ニ輸出入ヲ爲スコトヲ得

前掲以外ノ輸出入貿易品ハ悉ク指定地ヲ經由スベキコト云フヲ俟タズ又關稅ノ納付ヲ要スルモノナルガ此ノ場合ニ於ケル關稅率ハ朝鮮ニ於ケル一般關稅ヨリハ低キ稅率ヲ課セラルルモノトス、而シテ現在ノ陸接國境貿易指定地ハ次ノ如シ(大正九年八月朝鮮總督府令第一二二號)

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 平安北道新義州府新義州 | 平安北道義州郡九龍浦  |
| 平安北道義州郡水口鎮  | 平安北道義州郡玉江浦  |
| 平安北道義州郡清城鎮  | 平安北道昌城郡甲巖浦  |
| 平安北道昌城郡私倉浦  | 平安北道碧潼郡碧團   |
| 平安北道碧潼郡忠興里  | 平安北道楚山郡忠滿江口 |

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 平安北道楚山郡雲來川里   | 平安北道楚山郡新島場    |
| 平安北道渭原郡舊邑     | 平安北道渭原郡江界江口   |
| 平安北道江界郡高山鎮    | 平安北道江界郡代登鎮    |
| 平安北道江界郡滿浦鎮    | 平安北道慈城郡舊城洞    |
| 平安北道慈城郡慈城江口   | 平安北道慈城郡土城浦    |
| 安北道平慈城郡中江鎮    | 平安北道厚昌郡厚昌金昌洞  |
| 平安北道厚昌郡東新面葡三洞 | 平安北道厚昌郡厚州古邑   |
| 咸鏡南道三水郡新芝坡鎮   | 咸鏡南道三水郡羅暖堡    |
| 咸鏡南道三水郡仁遮堡    | 咸鏡南道甲山郡惠山鎮    |
| 咸鏡北道茂山郡長三面三上洞 | 咸鏡北道茂山郡茂山     |
| 咸鏡北道茂山郡西江村    | 咸鏡北道茂山郡下社地    |
| 咸鏡北道會寧上水湖     | 咸鏡北道會寧郡會寧     |
| 咸鏡北道會寧郡高嶺鎮    | 咸鏡北道鐘城郡南山面三峯洞 |
| 咸鏡北道鐘城郡鐘城     | 咸鏡北道鐘城郡潼關鎮    |
| 咸鏡北道穩城郡穩城     | 咸鏡北道穩城郡訓戎鎮    |
| 咸鏡北道慶源郡慶源     | 咸鏡北道慶源郡農圃     |
| 咸鏡北道慶源郡龍堂     | 咸鏡北道慶源郡新阿山    |
| 咸鏡北道慶源郡下女坪    | 咸鏡北道慶源郡古邑     |



咸鏡北道慶興郡土里

(大正九年法律第五三號第六條第二號ニ規定スル陸接國境隣接地域ハ國境ヨリ各二里以内ノ地域ヲ云フ)

## 第三章 關 稅

### 第一節 關稅ノ沿革

關稅ノ起因ハ往昔、貨物ヲ運送シタル場合道路、橋梁、連絡船、或ハ港灣等ノ使用ニ對シテ一定ノ料金ヲ支拂ヒタルニアリ、斯ノ如キ課稅徵收ガ爾來慣習トシテ存在スルニ至レルガ故ニ遂ニハ關稅其モノヲ Customs ト稱スルニ至レルナラントハ Adam Smith ノ指摘セル所ナリ、今之ヲ歷史ニ徵スルニ、古代ギリシヤ、ローマ時代、既ニ道路、橋梁、連絡船、海港設備ヲ利用スル場所ニ於テハ輸出入貨物ニ從價二分其ノ他一定歩合ノ課稅ヲ爲シタルヲ知ルベク又封建各諸侯ハ夙ニ其領土内、都市、其他要衝ノ地ニテ輸出入貨物ニ對シ、一定ノ國內關稅ヲ賦課シテ其財源トセルコト明カナリ、然ルニカクノ如キ國內關稅ハ物資ノ自由ナル流通ヲ妨ゲ太ニ內國產業ノ發達ヲ阻害シ又同時ニ地方ニ於テハ國民經濟ノ成立、重商主義ノ勃興ヲ見ルニ至リシヲ以テ歐洲ニ於テハ國內關稅ハ廢止セラレ現代ノ如キ對外關稅制度ガ行ハルルニ至レリ、最モ早ク之ヲ廢止セルハ英國ニシテ佛國亦之

ニ倣ヒ獨國ニ於テハ獨逸關稅同盟ノ成立スルト同時ニ國內關稅ノ大部分ヲ廢棄シ踵テ一八七一年獨帝國ノ政治的統一ト共ニ之ヲ全廢セリ、本邦ニ於テモ往時國內關稅類似ノ料金又ハ税金アリシモ之ガ今日ノ關稅ノ起源ト爲スコト能ハズ、諸外國ト通商貿易ヲ行フニ當リ進貢物ヲ徵シタルコトアレドモ之レ亦其起源ト考フルコトヲ得ズ、要スルニ本邦ノ關稅ハ條約ニ起因セリト云ハザルベカラズ而シテ我國ガ外國ト條約ヲ締結セルハ嘉永六年米國ノ船舶ガ浦賀ニ來リ通商ヲ求メ其翌安政元年甲寅三月三日(一八五四年)ノ調印ニ係カル米國トノ條約所謂「ベルリ」條約 (Treaty of Peace and Amity) ヲ以テ其嚆矢トナシ、同時ニ英露國トノ間ニモ條約締結ヲ見タリ、其内容ハ兩國臣民ノ和平親睦ヲ目的トセルモノニシテ米國船ニ薪炭、水、食料等ノ供給ヲ約シ、尙此條約調印後即時ニ下田港ヲ、又翌年三月ヨリ函館港ノ開港ヲ約シタル外我國最初ノ最惠國約款ヲ包含シタルドモ關稅ニ關シテハ何等具體的ナル規定ヲ見ズ、而カモ尙ホ關稅發生ノ根柢ハ實ニ本條約ニ胚胎セリト云フベシ。

其後安政四年八月二十九日(一八五七年)長崎ニ於テ調印ヲ見タル和蘭トノ追加條約所謂長崎條約第六條ニ於テ「商船持渡の品、入札拂並相對拂之分とも荷物惣代銀之内より三割五分差出すべし尤會所にて直組買上げの品は此限りにあらざる事」トアリ初メテ輸入稅從價三割五分ト規定シ同時ニ



輸出入禁制品ヲモ明カニ定メタリ、踵デ同年九月七日調印セル露國トノ追加條約第九條ニモ前述日蘭條約ト同ジク從價三割五分稅ヲ規定シタリ、尤モ右蘭露西國トノ追加條約ハ間モナク廢棄セラレタリ。安政五年戊午六月十九日（一八五八年七月二十九日）ニ締結セラレタル米、蘭、露、英、佛五箇國トノ條約ニハ詳細ノ規定ヲナシ其附屬貿易章程竝ニ運上目錄ニ於ケル關稅（當時ハ運上ト稱シタリ）ヲ輸出稅ト輸入稅トニ分チタリ。輸入稅ニ就テハ其第一類ニハ「貨幣に造りたる金銀、竝に貨幣に造らざる金銀、當用の衣服家財竝に商賣の爲にせざる書籍何れも日本居留のため來る者の品に限るべし、右の品々は運上なし」トアリ之等ヲ無稅品ト認メタリ、第二類ニハ「凡て船の造立網具修覆或は船裝の爲めに用ふる品々、鯨漁具の類、鹽漬食物の諸類、パン竝にパン粉、生きたる鳥獸類、石炭、家を造るための木材、米及粃、蒸氣の器械、トタン、鉛、錫、生絹、右の品々は五分の運上を納むべし」トアリ之等ノ輸入稅ヲ從價五分ト定ム、第三類「都て蒸溜或は醸し種々の製法にて造りたる酒類、右は三割五分の運上を納むべし」即酒類ハ三割五分、第四類「凡て前條に記載なき品々は何に寄らず二割の運上を納むべし」トシテ其他ノ一般有稅品ハ從價二割トナシタリ。輸出稅トシテハ「金銀貨幣竝に棹銅の外日本產の物、積荷として輸出する時は五分の運上を納むべし」トアリ、之ハ所謂安政五箇國條約ニシテ江戸ニ於テ調印セラレタリ。前掲輸入稅ハ原料品及日用必需

品ニ對スル稅率ヲ輕カラシメ、奢侈品ニ對スル稅率ヲ重クシ、米竝ニ麥等即チ我國主要食料品ノ輸出ヲ禁止シ銅ノ如キ本邦必要品ノ輸出ニ制限ヲ加ヘタリ。只其第三條ニ規定セラレタル開港ガ將來ニ於ケル癘腫タルニ至レリ。

其後萬延元年葡萄牙竝ニ獨逸トノ間ニ締結セラレタモノ、及ビ文久三年十二月瑞西トノ間ニ締結セラレタルモノモ亦前記五箇國條約ト大差ナカリキ、要スルニ上記各國トノ條約竝ニ貿易章程ニシテ勵行セラレシナラバ後述ノ如キ一率從價五分ト云フ如キ低率ニ甘ンズルノ不利ヲ見ルニハ至ラザリシナラン。

安政五年ニ於ケル五箇國條約締結前後ニ於ケル我國論ハ猛烈ニ沸騰シ曩キニ約定セル開港開市ヲ到底實行シ難カリシ結果幕府ハ據ナク文久元年、兵庫、新潟、江戸及大阪ノ開放ヲ五箇年間延期セシメテ前記各國政府ニ要求セシガ外國政府ハ其代償トシテ貿易上諸制限ノ撤廢竝ニ關稅ニ關スル讓歩ヲ迫マリ遂ニ所謂倫敦覺書ニ於テ各種ノ讓歩ヲナスノ止ムヲ得ザルニ至レリ、此結果トシテ硝子器ノ如キモ五分稅ノ類ノ中ヘ加ヘラルルニ至レリ。

右倫敦覺書調印後ニ於テモ國內ニ於テハ國論毫モ衰ヘズ益熾烈ヲ加フルノミナラズ、外國人殺傷事件、英國公使館燒打事件、赤間關ノ外艦砲擊事件等ノ難問相踵デ起リ國交愈困難ナルニ乘ジ各國



ガ開港ヲ迫ルコト愈急ヲ加ヘタルガ故ニ遂ニ慶應二年五月十日幕府モ已ムナク水野筑後守ヲシテ英佛米蘭四箇國ノ代表者トノ間ニ於テ、曩キニ安政五年締結ノ條約添付ノ貿易章程第七則中ニ規定セル(神奈川開港後五年ニ至リ出港入港ノ稅則ヲ再議スベシ)處ニ基キ輸出入品共少數ノ無稅品及禁制品ヲ除クノ外悉ク從價五分ヲ基準トシテ關稅ヲ賦課スベキコトヲ協定シ尙ホ當時輸入多カリシ物品五十三種ハ從價五分ヲ基礎トシテ從量稅ニ換算シ同年六月十日ヨリ其ノ實施ヲ見ルニ至レリ、之レ所謂改稅約書ナリ。斯ノ如ク此ノ稅率改正ハ雷ニ片務的低稅率タリシノミナラズ其五分ト云フモ現實從價五分ニ非ズシテ輸出港市價ヲ標準トセシモノナレバ當時米國以外ノ各國一般課稅價格算定法タリシ輸入港市價標準ニ比較スレバ實際ハ五分ヨリモ遙カニ低率ナルノ不利益ニ甘ンズルコト實ニ約三十年ニ達シタリ。其間絶エズ條約改正運動行ハレ寺島、井上、青木、榎本等歴代ノ外相最善ノ努力ヲ爲シタレドモ他方臺灣征伐ニ次イデ支那トノ葛藤ヲ生ジ更ニ西南戰爭ノ如キ内亂サヘ起リ遂ニ目的ノ達成ヲ見ルニ至ラザリキ、然ルニ陸奥外相就任シ明治二十六年七月改正條約ノ原案ヲ議會ニ提出シ、多少ノ修正ヲ經タル上先ヅ以テ英國ニ對シテ談判ヲ開始シ幾多ノ障害ヲ打破シテ終ニ二十七年七月十六日、日英條約ノ調印ヲ了シ其後他各國ノ改正承諾トナリ、明治三十年十二月五日ノ日澳條約ノ調印ヲ最後トシ茲ニ條約改正事業ノ終結ヲ告ケタリ、而シテ其一部ハ明治三十二年七月

十七日ヨリ、他ハ同年八月四日ヨリ實施ヲ見ルニ至リ茲ニ於テカ我稅權上ノ著シキ恢復ヲ見得タリ此第一次改正條約ニヨリテ通商ノ自由、領事裁判ノ撤去、最惠國約款ノ相互的設定等ニ於テ本邦地位ヲ向上セシメ輸入稅ニ於テモ協定稅率ノ改訂ニ加ヘテ國定稅率ガ新ニ制定セラレタルヲ以テ從來表面從價五分ト云ヒ乍ラ而カモ其實、從價三分六毛乃至五分ニ過ギザリシモノガ改正後ニ於テハ九分七厘一毛ニ増加セリ、然シナガラ尙片務的協定稅率ノ存續セル等、我邦ニトリ不利ト認ムベキモノ少カラザリキ。

明治三十年三月(法律第十四號)初メテ關稅定率法ヲ制定シ同三十二年一月一日ヨリ實施ヲ見次デ翌三十三年三月十三日法律第六十一號ヲ以テ關稅法ヲ發布シ同年八月四日ヨリ實施セラレ、茲ニ所謂國定協定稅則ノ基礎ヲ築クニ至レリ、而シテ輸出稅ハ明治三十二年七月十六日舊條約失效ト同時ニ消滅セリ。關稅定率法ハ爾後數次ノ改正行ハレ殊ニ日露戰爭中非常特別稅法ニヨリニ回増徴アリ、我邦產業ノ發展、國威ノ發揚ニ伴レ漸次保護貿易的色彩ヲ加フルニ至レリ。

然カモ尙數多ノ協定稅率アリ、稅率往々其權衡ヲ失スルモノ少カラズ、他方我邦經濟狀態ノ著シキ變遷トニヨリ稅定率法ノ改訂ヲ要トシ明治四十四年七八月各國トノ條約期限滿了ト共ニ協定稅率亦消滅ニ歸スルヲ機トシ、四月十四日定率法ノ改訂ヲ斷行シ同年七月十七日ヨリ其實施ヲ見ルニ至



リシモノ即チ現行關稅定率法ナリ、爾來部分的改正ガ數次行ハレタルコトハ勿論ナリ、而シテ其改正ノ結果トシテ從來重要輸入品ノ大部分ガ協定稅目ノ範圍ニ屬セシモノヲ改メテ其大部分ガ國定稅率ノ適用ヲ受クルニ至ラシメ茲ニ我邦稅權ハ完全ニ恢復スルニ至リタリ。

## 第二節 關稅ノ意義及性質

關稅トハ廣義ニ於テハ、貨物ガ或ル一定地域ヨリ他ノ地域ノ移轉ノ際課セラルル租稅ヲ稱シ、之ヲ其地域ノ如何ニヨリテ內國關稅ト外國關稅ニ區別ス、然シ乍ラ原則トシテ前者ハ行ハレザルガ故ニ通常、狹義ニ解セラレ單ニ後者ノミヲ意味スルモノトス、但シ支那ハ尙ホ現在ニ於テモ釐金稅ナル國內關稅ヲ實施シ、英國ハ現今ニ於テモ母國ト植民地若クハ屬領トノ間ニ關稅線ヲ設ケ、埃國ニ於テモ一八九一年迄「トリエスト」ト「ヒューム」間ニ關稅線ヲ置キタルガ如キ此例外ヲナスモノナリサレバ關稅ハ或ハ外國關稅トモ稱セラレ其移動ノ徑路ニヨリ、陸接國境稅ト海關稅トニ分タル。斯ノ如ク狹義ノ關稅ハ國際的交通ヲ前提トナスモノナレドモ、政治上又ハ財政上ノ必要ヨリ、アル外國ヲ國內ト同様ニ取扱ヒ、其貨物ノ出入ヲ自由ナラシムルコトアリ、サレバ一國ノ關稅線ハ必ズシモ其國境線ト合致スルモノニ非ズ。

之ヲ要スルニ關稅ハ原則トシテ、貨物ガ國境ヲ超ユル場合ニ賦課セラルル一種ノ租稅ニ外ナラズ從テ一般租稅ト同様ニ(一)國家必要ノ經費タルコト、(二)無償ナルコト、(三)強制的性質ナルコト(四)金錢ナルコトノ四條件ヲ具備シ、關稅ハ其發生ノ當初ニ於テハ手數料ヲ意味セシコトアリシモ漸次其性質ヲ失フニ至リ現時ニアリテハ自己ガ受クル利益ノ對償トシテ任意ニ支拂フ手數料トハ異ル又強制的ナリト雖有償的性質ノ公用徵收等トモ相同ジカラズ、又無償ナリト雖任意的獻納ノ如キモノトス全然異ル、而シテ租稅ハ一般ニ、其轉嫁ノ如何ニヨリ之ヲ直接稅ト間接稅トニ分ツ、關稅ガ其後者ニ屬スルコト云フヲ俟タザルナリ、又關稅ハ其消費ヲ標準トシテ賦課セラルル消費稅ノ一種ナリ、勿論關稅ハ必シモ消費者ノミニ轉嫁セラレズ、其全部又ハ一部ガ消費者以外ノ者ニ轉嫁セラルルコトナキニ非ズ、例ヘバ輸入稅賦課ニ當リ其商品ノ內國市價ガ關稅未濟輸入値段ニ超過シ其ノ差額ガ輸入稅額ニ均シケレバ完全ニ消費者ニ轉嫁セラレ輸入稅額ヨリ低ケレバ、夫レ丈ケ消費者以外ノ者ニ轉嫁セラレタルモノト云フベシ、斯ノ如キ關稅轉嫁ノ方向ヲ決定スル原因多ケレドモ、就中主要ナル條件ハ凡ソ左ノ如シ。

一、需要上ノ彈力性——需要ノ彈力性最乏シキ物、則チ生活必需品ニアリテハ專ラ消費者ニ轉嫁セラレ、彈力性多キ物即チ奢侈品ニアリテハ之ニ反ス、尤モ使用上多年ノ惰性アル物ニアリテハ騰



貴ニヨリテ需要減退セザルガ故ニ尙ホ消費者ノ負擔ニ歸スル場合稀ナリトセズ。

二、供給獨占品——ニアリテハ競争品又ハ代用品ノ脅威ナキガ故ニ輸入國內市價ヲ高メ得ベク、從テ關稅ノ全部若クハ大部分ガ消費者ニ轉嫁セラルルモノトス。

三、供給上ノ彈性性——多キモノ程消費者ニ轉嫁セラレ易ク、其ノ乏シキ物程消費者ニ對シテ全部

轉嫁シ難キモノトス、例ヘバ供給上ノ彈性性乏シキ農産物ノ如キモノニアリテハ需要減退セリト

テ急激ナル供給縮少ヲ行フコト能ハズ其ノ結果第三國市場ニ於テ投賣ヲ行フ場合多ク、從テカル

ル場合ニハ其全部若クハ大部分ガ消費者以外ノ生産者若クハ商人ニ轉嫁セラルルモノトス

四、代用品ノ有無——代用品ナキモノニアリテハ専ラ消費者ニ轉嫁セラレ之ニ反シテ代用品アル物

ハ下落ニ傾キ易ク從テ外國生産者、輸出業者ニ轉嫁セラレ易キヲ常トス。

此外、稅額小ナル場合ニハ全部消費者ニ轉嫁セラレ易ク、大ナレバ之ニ反スル場合多シ。又容積

大ナル木材ノ如キ物ニアリテハ外國生産者、輸出者及輸入商、消費者以外ノ海上運送業者等ニ轉嫁セラルルコトモナキニ非ズ。

斯ノ如ク關稅ハ消費稅ノ一種ナルガ故ニ一般租稅ト同様ニ(一)負擔力大ナル物品ヲ撰擇スルコト

(二)徵稅費ノ節約ヲ計ルコト(三)其手續ヲ簡易ナラシムルコトガ必要ナルコトハ勿論、特ニ其轉嫁

ノ方向ヲ研究シ、極力負擔ノ公正ヲ計リ以テ一國ノ産業上、竝ニ分配上更ニ弊害ナカラシムルコト重要ナリ、殊ニ關稅ハ、外、國際上ノ關係アリ、内、物價ト密接ナル關係ヲ有ス、サレバ常ニ國內稅ト權衡ヲ保タシメ、萬一何レカニ不備ノ點アラバ相互適正シ得ル様企圖セザルベカラズ。

## 第四章 關稅ノ種類

### 第一節 收入關稅保護關稅

之ハ關稅賦課ノ目的ニヨル分類ナリ、收入關稅ハ或ハ財政關稅トモ稱セラレ專ラ國庫ノ收入ヲ増加センガ爲メニ課スル關稅ヲ云フ、國家ハ國防、軍備其他各種ノ政務ヲ行フニ經費ヲ要ス、而シテ其一部ニ充テンガ爲メニ各種租稅中其負擔ガ最間接的ニシテ且ツ徵收容易ナル關稅收入ノ増加ヲ計ルモノナリ、保護關稅トハ一名保護稅トモ稱セラレ、主トシテ內國産業ノ發達保護ヲ目的トシテ賦課セラルル關稅ヲ云フ。

關稅ハ其沿革ニ徵スレバ當初ニ於テハ各國共ニ國庫收入主義ニヨリ財政上ノ收入ヲ目的トナシタリ、然ルニ近世ノ初頭ニ至リ重商主義ノ發生セルニ伴レ關稅ハ漸次保護關稅ニ變ゼシガ、更ニ十九世紀ニ入り自由貿易主義ノ勃興ニ伴フテ再ビ財政關稅ガ行ハレ、近來ニ至リテハ各國共保護貿易主



義的色彩ヲ加フルコト漸次濃厚ナラントシツツアリ、然シ乍ラ他面ニ於テハ國費益膨脹セル結果純然タル收入關稅ノ行ハルルモノ亦少カラズ、今其主ナル場合ヲ舉ゲレバ

(一) 外國生産品ニシテ内國ニ産セズ又代用品モナキ物品ニ課セラルル輸入税  
 競争激甚ナル現代ニ於テハ各國ノ獨占の物資ハ漸次減少ノ傾向ニアリト雖モ尙氣候風土ノ相違ニヨリ他國ニ生産セラレザル物資ヲ生産スル場合少カラズ、例ヘバ西歐諸國ガ自國ニ産セズ又其代用品ヲモ有セザル珈琲、茶、ココア、胡椒、煙草、香料等ハ此種ニ屬シ之ニ對シテ賦課スル輸入税ハ悉ク收入關稅ナリト云フベシ、尤モ此際自國植民地ト他國又ハ其植民地トノ間ニ差別關稅ヲ有スル時ハ最早純然タル收入關稅ト稱スベカラザルヤ勿論ナリトス。

(二) 内國消費税アル物品ト同種又ハ其代用品ニ内國消費税ト同率若クハ相當輸入税率ヲ賦課セル場合

内國ニモ産出セラレ又ハ内國內ニ代用品アル物品ニ課税スル場合ニシテ一見保護關稅ノ如ク見ユルモ單ニ財源ヲ涵養シ且ツ内外品ニ對スル負擔ノ公平ヲ期センコトヲ目的トスルモノニシテ實際ニ於テハ收入關稅ニ外ナラズ即チ内國消費税ニ對スル補償ノ意味ヲ有スルモノニシテ所謂補償關稅ノ一種タリ。

孰レニモセヨ收入關稅ハ其性質上純然タル消費税タルガ故ニ消費税賦課ノ原則ヲ守ラザルベカラズ、即チ(一)輸入高多キ少數税目ニ限ルコト、(二)輸入税率ヲ奢侈品ニ高クシ、必需品ニ低カラシムルコト、(三)輸入税率ノ爲メニ輸入減退セザル程度ニ止ムベキコト、之ナリ。

保護關稅ニモ亦二種アリ、(一)内國消費税ナキ貨物ト同種又ハ其代用品タルモノニ課シタル輸入税、(二)内國消費税アル物品ト同種若クハ其代用品タルモノニ内國消費税率以上ノ輸入税ヲ賦課スル場合ナリトス。

又保護關稅ハ保護ノ程度ヨリ(イ)補償關稅、(ロ)教育關稅、(ハ)禁止關稅ニ分ツ。

(イ) 補償關稅トハ内國産業ガ特別負擔ヲ有シ又ハ外國産業ガ特殊有利ノ位置ニアル場合ニ、内國産業ヲシテ、此外國産業ト平等ノ地位ニ立タシメントシテ内國産業ノ特殊のナル不利ヲ補償スル爲メニ賦課スル輸入税ヲ云フ、例ヘバ、豊作ノ爲メ低廉ナル外國産穀物ノ急激ナル殺到ニヨリ、内國市場ノ攪亂セラルルヲ防止センガ爲メ歐洲各國ニ於テ穀物關稅ヲ課スルコトアルガ如キ此例ニシテ比較的消極的ナルモノトス。

(ロ) 教育關稅トハ現在幼稚ナルガ將來發達ノ見込アル内國産業ヲ庇護シテ十分ナル發達ヲ遂ゲシメンガ爲メニ外國品ニ對シテ賦課セラルル輸入税ヲ云フ、從テ此種ノモノハ内國品ヲシテ外



國品ニ對抗シテ優勢ノ地位ニ立タシメントスル積極的ナルモノナリ。凡ソ如何ナル國ニ於テモ新規事業ヲ起サントスルモノハ其設備ノ完成、原料ノ蒐集、労働者ノ訓練等ニ關シテ種々ノ困難ニ遭遇シ、當初ハ通常ノ利潤ヲ舉ゲルコトハ殆不可能ナリ、從テ斯カル狀態ニ於テ新企業ヲ誘起セシメントセバ一定時期ヲ限リ先進國ノ競争ヲ免レシムル必要アリ、此爲メニ保護稅ヲ課シ消費者ヲシテ高キ代價ヲ支拂ハシムルハ即チ國民ガ新産業ニ對スル教育費ヲ負擔スルコトナル、之レ所謂教育關稅ニ屬ス、從テ次ノ如キ條件ノ備ハルコトヲ要トス、(イ)近キ將來ニ於テ發達ノ見込アル事業ノミニ限ルベク異常ナル高率關稅ヲ以テノミ辛ウジテ存立シ得ル如キ産業ヲ保護スベキモノニ非ズ、從テ此種保護關稅ニハ一定ノ標準ヲ置クベキコト、(ロ)幼稚産業保護關稅ハ相當期間後ノ撤廢ヲ豫期スルモノナリ、從テ對外、競争上相當發達ノ後ハ直ニ撤廢スベシ之ニ反シテ相當期間ノ保護ニモ拘ラズ發達セザル場合ニ於テモ亦保護ヲ斷念中止スベキモノトス、然ルニ實際ハ此種關稅モ一旦設ケタル以上ハ當業者ノ反對等ノ爲メ其低減又ハ撤廢ハ容易ニ行ハレズ其結果當業者ノミヲ無意義ニ保護シ一般消費者ノ利益ヲ犧牲ニ供スルコトトナル場合稀ナリトセズ。

(ハ) 禁止的關稅トハ或種ノ貨物ニ禁止の高率ノ輸入稅ヲ課シテ内國産業ノ保護發達ヲ計ラントスルモノナリ、然シ乍ラ此種ノモノハ外國ノ競争ヲ絶ツモノニシテ寧ロ内國産業ヲ沈滯セシメ萎微振ハサルニ至ラシムル虞多シ。

要スルニ保護關稅ニヨリテ積極的保護ヲ加ヘンニハ、外國品ノ競争ヲ絶滅セシムルコトナク、寧ロ其ノ刺戟ニヨリテ内國産業ガ發達シ得ル程度ノ稅率ヲ賦課スルコト極メテ重要ナリ、而シテ内國産業ガ發達スルニ從ヒ保護ノ程度ヲ輕減シ、其完成獨立スルニ至ルヤ保護稅ノ撤廢ヲ期スベキモノトス。

保稅關稅ニハ又其目的ヨリ區別シテ次ノ如キ種類アリ。

(1) 舊産業維持關稅——既存ノ産業ガ老境ニ入り衰退セントシツツアル場合ニ其産業維持ノ爲メニ設ケラルルモノヲ云フ、例ヘバ工業ガ發達シ人口ガ増加スレバ穀物販路ノ擴張ニヨリ農業ハ一時有利トナルモ漸次賃銀ノ騰貴ニ從ヒ農民ヲシテ農村ヲ離レテ都會ニ集中セシムルニ至リ其結果農業ヲシテ極端ニ不振ナラシムル場合アリ、此際農業ヲ關稅ニヨリテ保護スル如キ之ナリ、又英國石炭業ノ如キモ衰退ニ向ヒツツアル産業ノ例ナリ、之等ニ對シテ保護關稅ヲ課スルモ其ノ支配シ得ルハ國內價格ニ限リ國際市場ニ於ケル價格ヲ左右スルコトハ不可能ナリ、サレバ之等舊産業ガ規模縮少ヲ免レザル狀態ナリトセバ寧ロ將來有望ナル新産業ニ對シテ労働者ヲ教育シ其ノ轉業ヲ



迅速容易ナラシムル道ヲ講ゼザルベカラズ、從テ此種保護關稅ハ一時ノ方便トシテ採用セラルルニ過ギズシテ永久性ナキモノトス。

(2) 國防關稅——軍器及食糧自給ノ目的ヲ有スルモノヲ云フ、元來戰爭ト貿易ハ反對ノ要求ヲ有セリ、サレバ外國貿易ニ依頼スルコト大ナラバ大ナル丈ケ戰時ノ打撃ハ甚シ、戰爭ハ多クノ場合國民經濟ノ孤立ヲ必要ナラシムルガ故ニ自力ノ大ナル者程耐久力アリ、サレバ各國共一方國際分業上ノ經濟的利益ヲ享受スルニ努ムルト同時ニ他方戰時ニ於ケル軍需品竝ニ食糧品ノ自給策ヲ講ジツツアリ、戰後特ニ此傾向著シキモノアリ。然シ乍ラ經濟的孤立ハ戰時ニ限ルヲ以テ戰時直接必要ヲ痛感シタル產業ヲ選定シテ保護セントスルモノナリ、此種ノ產業ヲ Key industries 關鍵工業或ハ基礎工業ト云フ、而カモ其範圍ハ一定セズ、又物ノ性質ニヨリ自給ノ必要程度ガ一樣ナラズ、之ニ比シテ F. W. Taussig ハ三種ノ分類ヲナセリ、(イ)直接軍需品——銃砲、軍艦、竝ニ爆藥等、(ロ)戰時緊要品 essential Goods——穀物、肉類、羊毛、棉花、石炭、石油、鐵鋼、銅、ゴム、皮類等ノ原料品及ビ食料品、(ハ)前記以外ノモノ、Non-essential Goods——ニシテ、第一種、(イ)ニ就テハ各國共政府直屬ノ工廠ヲ設備シ民間ヘノ註文ニアリテモ努メテ外國ノ供給ヲ回避セリ、而シテ戰時ニ於テハ之等軍器ノ需要ハ豫想外ノ巨額ニ達スルヲ常トシ一般機械器具工

場ノ動員ヲ行フ、此ノ動員可能工業ノ保護關稅ノ行ハルルコトアリ、例ヘバ戰時爆藥製造ニ轉化シ得ベキ染料工場ノ如キ是ナリ。第二種ノ貨物ハ戰時軍隊ニ必要ナルト共ニ平時ニ於ケル國民全體ノ必需品ナルガ故ニ全部自給策ヲ講ゼントスルモノナリ、就中穀物、鐵、鋼等ニ就テハ國情ガ完全ナル自給ヲ許サザル場合ニハ部分的不完全ナル自給策ヲトリ、之ヲ戰時動員計畫ヲ以テ補ハントスルコトアリ、先年ノ歐洲大戰ハ一方國際分業ガ戰時ノ國民生活ヲ非常ニ困難ニ陥ラシムルコトヲ知ラシメ同時ニ他方此困難ハ戰時非常ノ手段ニヨリ或程度迄除去シ得ベキコトヲ教ヘタリ。而シテ其方法トシテハ生産、運送配給ノ機關ヲ國家統制ノ下ニ置キ完全ナル調節ヲ行フコトナリ。

英、獨ノ行ヒタル戰時ニ於ケル食糧政策ハ夫レ夫レ相異ル國情ニ從ヒ異常ノ難境ニ遭遇シ乍ラ巧ミニ之ニ善處シ得タリシナリ、英國ハ元來小麥ノ國內産額ハ消費ノ四分ノ一ヲ自給スルニ過ギズ五分ノ四ヲ輸入ニ仰ギ居タルヲ以テ戰時ニ於テモ優勢ナル海軍力ヲ以テ始終制海權ヲ把握シ敵國ヲ封鎖シ同時ニ自國ノ通商交通ヲ保全シテ食糧問題ヲ解決シタリ、獨逸ハ從來關稅及其他ノ方法ニヨリテ農業保護ニ意ヲ用キタル爲メ小麥ハ消費ノ三分ノ一ヲ自給シ得ルニ過ギザリシモ多量ノライ麥ノ産出アリ、戰時ニアリテハ切符制度ニヨリ完全ナル配給ノ統制ヲ行ヒ平時ノ酒精原料竝



ニ動物飼料タル馬鈴薯及ライ麥ヲモ食用ニ供スル等アラユル科學的組織的ナル節約ヲ行ヒ以テ戰時食糧ノ難問題ヲ解決シタリ。

之ヲ要スルニ平時ハ可及的國際分業ノ利益ニ溶シ戰時ノ不足品ヲ如何ニシテ得ベキカノ問題ニ對シ平時ノ國情ニヨリ適當ノ制度ヲ樹ツベキモノトス。

(3) 社會的關稅——即チ失業防止關稅トモ稱スベキモノナリ。一國ガ或ル社會政策ヲ實行セル結果トシテ企業者ニ或ル負擔ヲナサシメタル場合ニ、同様ナル政策ヲ行ハザル國ヨリノ輸入品ニ保護關稅ヲ課スルモノナリ、例ヘバ工場法ヲ有シテ労働條件ノ改善ヲ行フニヨリ内國産業ノ生産費ガ高キ場合ニ之ナキ國ノ生産品ニ對シテ保護スベシトシテ課セラルルモノナリ、然シ乍ラ現代ニ於テハ資本家ノ勢力尙大ニシテ餘リ急進的ナル改良ハ行ハレザルヲ常トスルガ故ニ此種關稅ヲ行フベキ餘地ハ概シテ多カラズ、殊ニ近來國際聯盟ノ一部トシテ國際労働會議ガ設ケラレ各國ヲシテ出來得ルダケ均等ナル社會政策ヲ實行セシメントスル傾向ハ此種關稅ヲ益々不要ナラシムル原因ナリ、又企業者ト労働者トノ協定ニヨリテハ労働時間延長ノ如キ反社會政策的方策ガ認めラレ企業ノ存在ヲ確立セシムル傾向スラ之アリ、多數企業者ガ苦痛トナサザル少許ノ負擔ヲ爲スニヨリ存在シ難キモノハ寧ロ不健實ナル企業ト云フベク之ヲ國家ガ關稅ニヨリテ保護スルハ當ヲ得タル

モノニ非ズ、殊ニ此種關稅ハ稍モスレバ資本家擁護ニ濫用セラルル場合アリ、印度ガ、我國ノ紡績業ノ深夜業ヲ不正競争ナリトシテ綿糸關稅ヲ課シ、我國深夜業ノ廢止後ニ於テモ尙ホ之ヲ存續セルノミナラズ却テ昭和五年三月ニハ綿布ニ迄之ヲ擴張セルガ如キハ此例ナリ。

(4) 交渉關稅——自國輸出品ニ對スル外國ノ關稅ヲ減廢セノムル目的ヲ以テ其外國ヨリノ輸入品ニ課稅スルモノニシテ外交上政略的ナル一種ノ課稅ヲ云フ、一般ニ歐洲大陸ノ關稅制度ハ此ノ目的下ニ制定セラレタルモノノ如シ、例ヘバ佛國ノ複率式國定稅率制度ノ如シ、又各國ガ品目分類ヲ細密ナラシムルハ一ハ從量稅採用ノ結果ナレドモ亦同時ニ條約協定上ノ利益ヲ考量セルモノト云フベシ、此種關稅ハ其目的ヲ達成シ豫想通りノ結果ヲ收メ得ル時ハ互惠的利益ヲ得ベク問題ナキガ萬一相手國ガ之ニ對シテ關稅ノ低減ヲ爲サザル時ハ之ガ永久性ヲ有スルニ至リ、當初豫期セザリシ財政々策及產業政策ヲ行ハザルベカラザル不都合ヲ見ルニ至ル、而ノミナラズ稍モスレバ相手國ノ報復ヲ受ケ關稅戰爭ヲ誘起スルニ至ルノ惧アリ、一八八七年ニ於ケル伊國ガ佛國ノ協定拒絶、最高率關稅賦課ニ遇ヒ大打擊ヲ蒙リタル如キハ此例ナリ。

(5) 不當廉賣防止關稅——或ル商品ノ不當廉賣ヲ受クル國ガ之ヲ防止スル目的ヲ以テ賦課セントスル關稅ナリ、本邦ニ於テモ關稅定率法第五條第二項ノ規定ニヨリ不當廉賣審查委員會ノ審査ヲ經



テ不當廉賣品ヲ指定シ一定期間正規ノ關稅ノ外、此ノ不當廉賣ヲ相殺スベキ關稅ノ賦課ヲ定メタリ、元來不當廉賣ハ商略上行ハルルモノナルガ故ニ其對應策モ亦臨機應變ノ順應性アルコトヲ要スルガ故ニ普通ノ立法手續ヲ採ルコト能ハズ勅令ニヨリ課稅シ得ルコトトセルモノナリ、此ノ種モノハ斯ク變則的ノモノナレバ濫用ニ陥リ易ク從テ嚴重ノ手續ヲ必要トセリ、即チ(イ)眞實ニ不當廉賣ガ行ハレツツアルコトノ確認、(ロ)其不當廉賣ガ單純ナル整理的性質ノモノニ非ズシテ本邦產業ヲ危クスルモノナルコト、(ハ)其不當廉賣ニシテ永續的規律的性質ノモノナラバ之ヲ行ハルル國ニトリテモ敢テ不利ナラズ、只其一時的ナル場合ニ打擊ヲ蒙ムルモノナリ、故ニ若シ不當廉賣止ミテ後モ尙之ガ据置カルナラバ却テ內國產業ヲ阻害スル虞アリ、之レ一定期限ヲ附スル所以ナリ。

但シ何ヲ不當廉賣ト看做スカニ就キテハ各國ノ立法同一ナラズ、之ヲ二ニ分ツベシ(1)輸入國ノ產業ヲ壓迫セントスル不當廉賣者ノ意思ニ重キヲ置クモノ米國ノ如キ此例ナリ、(2)本國ノ通常市價ヨリ安キモノヲ不當廉賣トナスモノト、本國ノ生産費ヨリ安キモノヲ不當廉賣トナスモノトアリ、英國ノ産業安全法ハ後者ヲ採用シ輸出國ノ卸賣價格ノ九五%ヲ以テ生産費ト推定スルコトトセリ、一般ニハ内外價格ノ比較ニヨリテ決定セラルルガ輸出國ノ市場價格ヨリモ廉賣セラルル

モノヲスベテ不當廉賣ト看做スコトナク、寧ロ輸出國ニ於ケル生産費以下ニ廉賣セラルル場合ノミヲ問題トスベシ(第七章ト參照)之ハ又前述補償關稅ノ一種ナリ。

(6) 正貨流出防止關稅——金本位制度ノ下ニ於テハ常ニ適度ノ金準備ヲ保有スルコト絶對的ニ必要トス、蓋シ之ガ現代ノアラユル信用組織ノ根底基調ヲナスガ故ナリ、然ルニ若シ輸入超過ガ大ナル時ハ金ノ急激ナル流出ヲ伴フニヨリ正貨準備ノ不安ヲ感ゼシムル事アリ、此際原則的ナル自動的調節ガ行ハレ、金流出兌換券及一般信用ノ收縮、物價低落トナリ、從テ輸出増進、輸入減少、輸出超過トナリ再ビ金ノ流入ヲ見ルニ至ルベキモ金ノ流出ニシテ餘リニ急激、餘リニ巨額ニ達スル場合ニハ前述ノ道程ヲ辿ル前ニ先以テ物價ノ大暴落、金利暴騰ニヨリ恐慌ヲ惹起シ一般ノ國民生活ヲ極度ニ不安ナラシメ産業全般ノ根柢ヲ危殆ニ瀕セシムル虞無キヲ保セズ。サレバ政府中央銀行ガ金準備擁護ノ爲メニ種々ナル政策ヲ執ルハ當然ノ事ニ屬ス、其一トシテ關稅政策ヲ用フルコトアリ、必シモ不當トハ稱スベカラザルモノニ對シテハ他各種ノ方策アリ、例ヘバ公定利率ノ引上ニヨリテ外資ノ輸入ヲ招ク如キ、又外債募集ニヨリテ不足填補ヲ計ル如キ、或ハ國內保有ノ内外各種有價證券ノ輸出ヲ以テ之ニ充ツル如キ之ナリ、勿論之等政策ノ結果ハ何レモ海外利拂ヲ生ジ或ハ利子收入ヲ失フベキガ關稅政策ノ結果モ國民ノ負擔ヲ増ス點ニ於テハ同一ナリ。而シテ關



稅政策ニヨル輸入防遏ハ一時的ニハ有效ナレドモ永久的ニハ效果無キモノトス、蓋シ輸入ノ減少ハ早晚輸出ヲモ減少セシムルコトトナリ、且此際ハ輸出爲替相場モ不利トナリ輸入稅ノ國內負擔ニヨリ輸出向商品ノ生産費ヲモ高カラシムルヲ以テナリ、要スルニ正貨流出ノ爲メニ關稅政策ヲ執ルコトハ臨時非常ノ手段トシテハ有效ナレドモ容易ニハ採用スベカラザルモノトス、戰時英ノ執リタル奢侈品ニ對シテ、輸入禁止又ハ特別課稅ノ方法ノ如キハ此例ナリ、當時英國ハ米國ヨリ非常ナル入超ノ爲メ對米貸借ノ平均ヲ維持セントシテ國民所有ノ外國有價證券ヲ動員シテ輸出シ且外債ヲ募集セシ際トテ右奢侈品課稅ニヨル輸入防遏ハ相當效果ヲ舉ゲシコトト考ヘラル、然シ乍ラ、此際トテモ奢侈品關稅ニヨリテ英國内ノ奢侈品工業獎勵ノ結果トナリ之ガ資本及勞働ヲ吸收セバ國際貸借改善ニハ資スル所アルモ他面軍需必需品ノ生産力減退ノ結果ヲ來セシナルベシサレバ國內ニ於テハ極力勤儉貯蓄ヲ勸メ一方奢侈品ノ需要ヲ抑制シ他方軍事公債募集ヲ容易ナラシメントノ一石二鳥ノ方策ヲ採リタリシナリ。

又保護關稅ハ大別シテ農業保護稅ト工業保護稅トニ分タル、勿論往時ニ於テハ各國共自給自足ノ狀態ニアリ主トシテ農業ヲ保護セシガ交通、經濟ノ發達ニ伴ヒ國際分業ガ發達スルニ至リ勢ヒ多少共工業保護ニ傾クニ至レリ、然ルニ此兩者ハ互ニ相扞格衝突スル場合多キガ故ニ各國何レカ偏重ス

ヲ常トス、而シテ永ク兩論者ノ間ニ論議セラレタリ、農業保護論者ノ論據トスル所ハ

(イ) 工業立國策ヲ採ルナラバ現在需要國ナル農業國モ早晚工業國トナリ販路ヲ失フコトトナルヲ以テ不安ナリ。

(ロ) 食料品、原料品ノ供給國ハ漸次排他的經濟的獨立ヲ企圖スルニ至ルベク、從テ食料及原料ノ供給ヲ受クルニ困難ヲ感ジ自然從屬的關係ヲ生ズベシ。

(ハ) 農業盛ナレバ國內ニ安全ナル市場ヲ得ベク外國ヲ主タル販路トナス時ハ其工業發達ニヨリ販路ヲ失ハシ。

(ニ) 工業保護ニ專ラナラバ戰時ニ於テ糧道ヲ絶タル危險アリ。

(ホ) 工業ノ發達、農業ノ衰退ハ地方ヲ萎靡セシメ人口ノ都會集中ヲ促ガシ浮華輕佻ノ風ヲ生ジ忠實剛健ノ兵ヲ得難カラシム。

(ヘ) 農業保護關稅ハ穀價ヲ騰貴セシメ勞働者等一般消費者、小作人等ニ苦痛ヲ與ヘ大農ノミヲ利スルト雖モ之ハ極メテ緩慢ナリ。

(ト) 穀價下落ハ却テ細民ノ増加ヲ來サシム、サレバ緩慢ナル騰勢ハ國民ヲシテ却テ健全ナラシム。



ト云フニアリ、工業保護論ヲ論難スルニ對シテ工業保護者ハ

(イ) 關稅ニヨル農業保護ノ效果ハ一時的ナリ、絶エズ引上ヲ要ス、而カモ農業發達ニハ限アリ  
工業發達ハ殆ド無限ナリ、然ルニ農業保護ハ食料品、原料品ノ騰貴ヲ促ガシ其ノ發達ヲ阻害  
ス。

(ロ) 農業ハ天災、地變ノ影響大ナルガ故ニ市場トシテ内國ノミニ依頼スルハ危險ナリ、外國ノ  
幼稚産業發達セバ市場ヲ失フベシト云フモ之ハ實ニ長年月ヲ要スベシ。

(ハ) 農業保護ハ農産國ノ怨ヲ買ヒ關稅戰爭ヲ招キ易シ。

(ニ) 國內ニ於テモ食物及日用品ヲ騰貴セシメ細民ヲ苦メ大農ノミヲ保護スルコトトナリ貧富ノ  
懸隔ヲ大ナラシム。

(ホ) 農業保護主義ハ領土廣大ナルモノノ外適セズ、工業保護ニ專ラナルモ制海權サヘ大ナラバ  
戰時ニアリテモ糧道ハ保全セラルベシ、先年ノ歐洲太戰爭ニ於ケル英國ノ如キハ此實例ナリ。

凡ソ一國ガ其農業ヲ主トスベキカ工業ヲ主トスベキカハ内、國情ヲ顧ミ外、各國トノ關係ヲ察知シ  
テ以テ適切ナル政策ヲ採ラザルベカラズ、但シ之ヲ概論セバ、農業保護ハ穀價ノ騰貴ヲ來シ細民ヲ  
苦メ、貧富ノ懸隔ヲ甚シカラシメ而カモ一時的効果ヲ有スルニ過ギザルガ故ニ農業ノ保護ハ關稅ニ

因ラズシテ寧ロ開墾助成、地租ノ輕減、産業組合、農業教育ノ普及、低資融通等ノ手段ニ依ルモノ  
多キヲ加フルニ至レリ。

## 第二節 輸入税、輸出税、通過税

關稅ハ其賦課セラルル貨物ノ移動狀態ヨリ見テ之ヲ輸入税、輸出税及ビ通過税ニ區別セラル、左  
ニ之ヲ説明セン。

### 一、輸入税 Import Duties

輸入貨物ニ對シテ課セラルル關稅ヲ輸入税ト云フ、關稅ニハ元來輸入税ノ外輸出税及通過税ガ行  
ハレタリシモ、文明國ニ於テハ通過税ハ殆其跡ヲ絶チ、輸出税モ亦大ニ其重要ノ程度ヲ失ヒ、現今  
ニ於テハ關稅トシ云ヘバ直チニ輸入税ヲ意味スルモノト解セラルルニ至リ各國共多少ノ輸入税ヲ課  
セザルモノ無キ有様ニシテ商業政策上最モ須要ナル手段タルニ至レリ。

斯ノ如キ輸入税ニハ財政上ノ收入ヲ目的トセルモノト、内國産業ノ保護ヲ目的トセルモノ及ビ此  
兩者ヲ折衷セルモノトアリ、又保護關稅ニモ農業保護關稅ト工業保護關稅トアルコトハ既ニ述ベタ  
ル如シ、各國ガ夫レ夫レ特有ノ氣候風土及其地各種ノ狀勢アリ、概論スルコトヲ得ザルガ何レノ場



合ニ於テモ財政關稅ト保護關稅及ビ農業保護關稅ト工業保護關稅トノ權衡ヲ適切ナラシムルコト國策上ヨリ見テ頗重要ナリ、之ヲ實際ニ徵スルニ從來自由貿易主義ヲ標榜シ來リシ英國ハ頓ニ保護的色彩ヲ加ヘツツアレドモ現時尙、收入主義ニヨルモノト云フベク、從來專ラ收入主義ニヨリシ南米諸國ハ著シク保護主義ニ傾ケルモノト云フベシ、今本邦現行關稅定率表ヲ顧ルニ同表第三類中ノ珈琲「チコリ」「ココア」ノ如キ内地生産ノ望少キモノニ對シテハ比較的重稅ヲ賦課セリ、然シ乍ラ之ハ内地ニ於ケル斯業ヲ保護セントスルモノニ非ズ、全ク財政上ノ收入ヲ目的トセルモノニ外ナラズ又第四類中ノ毛皮製品類及第十類中ノ身邊裝飾用細貨類其他貴金屬製品ノ如キ其稅率重キハ輸入防遏ヲ目的トナスモ亦同時ニ收入ヲモ目的トナスモノト云ハザルベカラズ、之ニ反シテ第八類中ノ綿糸ノ如キ其原料タル綿ハ無稅ナレドモ綿絲トシテ輸入スル場合ニハ其稅率高カラズト雖尙課稅セラレ、之勿論本邦主要工業ノ一タル紡績工業ヲ保護獎勵センガ爲メニ外ナラズ、又第九類中ノ綿織物ノ稅率ガ前記綿絲稅率ニ比較シテ遙カニ重キハ一層重要ナル内國織物工業ヲ保護センガ爲メナリ、斯ク一般ニ製造工程ノ粗ヨリ精ニ漸次其稅率ヲ高ムルヲ常トス、然シ乍ラ稅表中稅率高キモノ必シモ保護ノ程度厚キ所以ニアラザルコト尙ホ奢侈品關稅ニ於ケルガ如シ、サレバ收入、保護何レヲ主トスルカノ區分ハ稅率ノ輕重ノミヲ以テハ判別シ難キモノトス、之ヲ要スルニ我國ノ如キ天惠乏シ

ク工業材料ヲ有セズ、殊ニ他面ニ於テハ國民主要食料品タル米麥ノ如キスラ絶エズ海外ノ供給ヲ仰グベキ國情ニアリテハ工業保護ト農業保護トノ間ニ適切ナル權衡ヲ保タシメ、同時ニ其負擔轉嫁ノ方向ニ鑑ミ其稅率ヲ適度ナラシムルコト最モ須要ナリトス。

## 11、輸出稅 Export Duties

關稅ハ其當初ニアリテハ專ラ財政上ノ收入ヲ目的トセシヨリ輸出稅ガ廣ク各國ニ採用セラレタリ蓋シ輸出貿易ノ監視ハ輸入ニ比シテ遙カニ容易ナルガ故ナリ、然ルニ重商主義ノ勃興スルニ及ビ輸入防遏ノ作用ヲナス輸入稅ヲ増加シ輸出ヲ妨グル輸出稅ハ原則トシテハ之ヲ廢棄スベシトノ說盛ナルニ至レリ、只國內ノ原料品、食料品ヲ低廉ナラシメ、從テ工業ノ發達ヲ助ケ、其結果輸出ノ増進トナルベキ特種ノ原料品及ビ食料品ニ對スル輸出稅ノミ保存セラレタリ。然シ乍ラ今日ニ於ケル關稅政策ハ原則トシテ一ニ産業ノミニ幸スルヲ目的トナサズ、從テ前述ノ如キ偏頗ナル輸出稅ハ農業者ノ利益ヲ無視セルモノトシテ其反感ヲ買フニ至リ之亦撤廢ヲ見ルニ至レリ、結局スルニ國民經濟ヲ害セズ、有利ニ輸出稅ヲ賦課シ得ベキハ主トシテ、(一)自國獨占品輸出ノ場合、例ヘバ「ブラジル」ガ珈琲ニ、智利ガ硝石ニ、西班牙竝ニ葡國ガ「キルク」ニ伊太利ノ硫黃ニ「キューバ」ノ煙草ニ對スル輸出稅ノ如キハ即此ノ例ナリ。(二)必須ノ原料若クハ食料ノ輸出ヲ抑制セントスル場合及



(三)他ニ良財源ナキ場合ニ限ラル。例ヘバ製紙原料タル襤褸ニ對シテ獨逸、埃國、伊太利、西班牙、希臘等ガ輸出ヲ禁止シ或ハ輸出稅ヲ課セルガ如キ、瑞典、諾威、伊太利等ノ木材ニ於ケル、南阿諸國ノ長毛羊絨製產保護ノ爲メ「アングラ山羊」及駝鳥ニ於ケル、瑞西ガ家畜獸皮、毛皮、獸骨、古鐵ニ對シ、伊太利ノ山鹽、海鹽、酒石、草根木皮、屑絲、鑛石、種子等ニ於ケル、西班牙ガ硫化鉛鑛、含銀鉛鑛等ニ對シテ課セル輸出稅ノ如キ之ナリ、サレバ之等ノ外一般的輸出稅ヲ現今尙存置セルモノハ國內ノ財源ニ乏シキバルカン諸國、埃及、等ノミナリ、我邦ニ於テモ元來ハ之ヲ有セシモ明治三十二年條約改正ト共ニ之ヲ全廢セリ。

### 三、通過稅 Transit Duties

一國ヲ經由シテ第三國ヘ仕向ケラルル貨物アリ、所謂通過品又通過貨物ト稱セラレ、之ニ課セララルル關稅ヲ通過稅ト云フ、而シテ輸出入ノ貨物一般ニ悉ク課稅スル國ニ於テハ特別ナル通過稅ヲ設クル必要ナシ、蓋シ其ノ輸入ノ際輸入稅、其ノ輸出ノ際輸出稅ガ賦課セラルレバナリ、サレバ往時關稅ガ一種ノ通行稅ト看做サレタル時代ニハ通過稅ナルモノハ存在ノ必要ナカリシナリ、然シ乍ラ一般ニ貨物ノ移動ニ當リテハ、常ニ最モ經濟的ナル通路ヲ求ムル關係上斯ノ如ク輸入出稅ヲ共ニ課スル場合ニハ、(一)其手續煩雜ナルコト。(二)兩稅重課ハ重キニ過グルコト。ノ不利ノ爲メニ他國

ノ通路ヲ求ムルニ至ルベキ虞アルガ故ニ通過貨物ヲ普通ノ貨物ト區別シテ取扱フニ至リ、茲ニ通過稅ノ發生ヲ見ルニ至リタリ、然ルニ斯ノ如キ通過貿易ハ其國ノ各種商業機關ヲ利用スルコト多ク從テ多大ノ利益ヲ齎ラスモノニシテ貿易外收入ノ源泉タルノミナラズ何等弊害モナキガ故ニ文明諸國ニ於テハ漸次之ヲ廢シ只關稅ノ監視ヲ嚴重ナラシメテ密貿易又ハ脫稅ヲ防グノミトセリ、佛國ハ一八四二年英國、白耳義、和蘭ハ一八五七年、獨逸ハ一八六一年、埃國ハ一八六二年、瑞西ハ一八七四年、希臘ハ一八八四年ヲ以テ通過稅ヲ全廢セリ、然シ乍ラ通商條約締結ニ際シテハ最惠國條款ヲ約スルカ又ハ通過自由ノ原則ヲ明定シ置クヲ常トス。

我國ニ於テモ關稅法(明治三十二年三月法律第六一號)第一條第二項ニヨリ通過ノ爲メ輸入スル貨物ニハ關稅ヲ課セズト定メタリ、只其取締上、(一)內國通過ノ際ハ一定ノ關稅通路ニ依リ稅關ノ完全ナル監督ノ下ニ置クコトヲ要シ。(二)其輸入ニ當リ稅金相當額ノ金錢若クハ一定ノ證券ヲ擔保トシテ提供スルコトヲ要ス。トシ、更ニ營業者ノ便宜ヲ計リ其貨物再輸出ノ際輸出港ニ於テ擔保ノ解除ヲ受ケ得ルコトトナシタリ(明治三十六年三月大藏省令第八號稅關ノ取扱ニ係カル供託金倉庫移換及利子仕拂手續)。



## 第五章 關稅賦課ノ標準

一般ニ貨物ヲ輸入自由品ト輸入禁止品トニ分チ、前者ヲ有稅品無稅品、及ビ免稅品ニ分チ之ヲ順次説明セントス。

## 第一節 有稅品 Dutiable Goods.

## 一、從價稅 Ad valorem Duty

關稅ヲ賦課スルニ當リテハ、一方、徵收ヲ容易ナラシムルガ爲メニ其標準ヲ簡單ナラシムルコトヲ要シ、他方ニ於テハ同時ニ其關稅本來ノ目的達成ヲ期セザルベカラズ。而シテ廣ク行ハルル標準ニ三アリ、即チ第一ハ其價格ヲ課稅ノ標準トセル從價稅、第二ハ其貨物ノ數量ヲ標準トセル從量稅、第三ハ此兩者ヲ結合シタル複合稅之ナリ、例ヘバ豚及家畜類ハ二割、支那帽子ハ四割、靴紐ハ四割ト云フ如キハ即チ從價稅ナリ。

從價稅ノ稅率ニ就テハ貨物が日用必需品ナルカ奢侈品ナルカ、工業ノ原料ナルカ半製品ナルカ、將々精製品ナルカ、又其課稅ガ收入ヲ目的トスルカ或ハ保護ヲ目的トスルカニヨリテ夫レ夫レ稅率

ヲ異ニス、貨物ノ種類別ニ稅率ヲ定ムルハ我邦及ビ一般歐米諸國ノ採用セルトコロナリ。然レドモ例外トシテ總ベテ一定稅率ヲ以テ課稅スルモノナキニ非ズ、即チ支那ノ從量稅ハ一八四三年以來一八九九年迄總ベテ從價五分ヲ基礎トシ算出セラレタリシ如キハ其例ナリ。但シ支那ニ於テモ近來關稅自主權ノ要求盛トナリ「ワシントン會議」ニヨリ支那ノ主權ヲ尊重スルノ原則ガ認めラレ、之ニ基キテ開カレタル一九二五年ノ北京ニ於テノ特別關稅會議中協定セラレタル如ク七種ノ差等稅率ガ各國ノ承認ヲ經テ一九二九年ヨリ實施セラルルニ至リ一定稅率賦課ト云フ例外ヲナサザルニ至リタリ、此ノ差等稅率ト云フハ有稅品ヲ七階級ニ分チ五分本稅ノ外尙ホ最低二分五厘乃至最高二割二分五厘ノ附加稅ヲ賦課スルモノナリ。又土耳其ガ一九二三年迄一割一分ノ均一課稅ヲ採用セル如キモ此ノ例ナリ、尤モ土耳其モ「ケマルバシヤ」ハ一九二〇年一九二一年事實上此ノ束縛ヨリ免ガレ一九二三年「ロサンヌ」條約ニテ大體關稅上ノ自由ヲ恢復スルニ至リタリ。

從價稅ハ原則トシテ高價品ニ高ク廉價品ニ低キガ故ニ課稅負擔上ヨリ云ヘバ最公平ナリ、然シ乍ラ從價稅ニ於テハ其標準タルベキ正當ナル價格ヲ得ルコト額困難ナルノ缺點アリ、殊ニ發送地ノ價格ニヨルベキカ又ハ輸入國ニ於ケル價格ニヨルベキカニツキテ問題ヲ生ズ。之ニ三種ノ主義アリ、即法定價格主義、發送地價格主義及到着地價格主義之ナリ。



イ、法定價格主義——内地市場ニ於ケル一定年限間ノ公平價格ヲ採リテ課税ノ標準トナスモノナリ。如何ニモ唯一ノ法定價格ヲ標準トスルガ故ニ徵税ノ上頗ル簡單明瞭ナルノ利益アレドモ其反面ニ於テ毫モ彈力ナキ此法定價格ハ實際市價トノ懸隔甚シク課税ノ公正ヲ期シ難キ缺點アリ、サレバトテ法定價格ヲ絶エズ市價ニ順應セシムル爲メニ改變セバ當業者ハ安ンジテ海外取引ニ從事スルコトヲ得ザルベシ。要スルニ此標準ハ發送地並ニ到着地價格標準ニ於ケル價格調査ノ困難及評價遲延等ノ諸缺點ヲ除カントセルモノナレドモ前述ノ如キ大缺點アリ之レ廣ク行ハレザル所以ナリ。只貿易統計ニ於ケル價格算定ノ統一方法トシテ採用セルモノ少カラザルノミ又南米諸國中二三之ヲ採用セルモノアリト云フ。

ロ、發送地價格主義——之ハ貨物ノ仕入地、產地若クハ積出港ニ於スル價格(即チF・O・B價格)ヲ唯一ノ標準トスルモノナリ、然シ乍ラ實際上ニ於テハ世界各地方ニ於ケル市價ヲ的確ニ調査スルガ如キハ不可能ナリ、從テ申告書添付ノ送狀面價格ヲ標準トナスヲ常トス。サレバ當業者中ニハ往々ニシテ關稅ノ遁脱又ハ輕減ノ目的ニテ別個虛偽ノ送狀ヲ作成添付セシムル場合稀ナリトセズ故ニ之ヲ防止スルニハ仕入地ニ於ケル領事若クハ商務官等ヲシテ調査ノ任ニ當ラシメザルベカラズ。米國ハ此點ニ關シテ頗ル周到ナル注意ヲ拂ヘリ、即チ仕入地駐在米國領事ノ證明セル送狀ヲ

價格百弗以上ノ貨物ノ輸入ニ絶對的必須條件トナシ原本ハ當該領事ヲシテ直接輸入地ノ稅關ニ送ラシメ輸入業者ノ提出スル其ノ副本ト對照シ相違ナケレバ初メテ輸入セシムルコトトシ此價格ヲ課稅標準トナスモノナリ。

ハ、到着地價格主義——之ハ到着地市價(CIF價格)即チ内地市價ヲ以テ標準トナスモノナルガ故ニ外國市價ニ比較シテ調査容易ニ且ツ迅速公平ニ課稅シ得ルノ利益アリ、只輸入業者ノ立場ヨリ見レバ、内地市價ガ標準タルノ結果貨物ノ價格ノ外亦之ガ負擔スベキ關稅ニ對シテ其騰落ノ危險ヲ負擔セザルベカラズ、即チ關稅ニ關シテハ二重ノ危險ヲ負擔スベキコトトナリ、稅額不安定ニシテ安ンジテ未着商品ノ取引ニ從事シ難キ缺點アリ。

我國ハ現行關稅定率法第二條ニ「從價稅品ハ輸入ノ際ニ於ケル到着價格ニ依リテ課稅ス」トアリ純然タル到着地價格主義ヲ採用セルコト明カナリ。

### 11、從量稅 Specific Duties

從量稅トハ貨物ノ重量、容積、個數、尺度等各種ノ數量ヲ基準トシテ課セラルルモノニシテ從テ其數量ハ正味ニヨルヲ原則トシ實際上正味秤量不可能ナルトキハ總量ヲ以テスル場合アリ。從量稅ハ手續簡單ニシテ徵稅費少ク、商取引ヲ敏活ナラシムル長所アレドモ同時ニ粗製品モ精製品ヲモ同



一視シ負擔ノ公平ヲ失スル缺點アルヲ免レズ。サレバ從量稅品ノ選擇ニハ精細ナル注意ヲ必要トナス。而シテ此缺點ヲ除カンガ爲メニ次ノ如キ方法行ハル。

- (1) 品質ノ精粗ニヨリ課稅品目ヲ細別シ同一重量ニ對シテモ各異ル稅率ヲ課スルコト、即チ等級的又ハ階級的從量稅ニヨルモノアリ。例ヘバ第二類穀物、穀粉類、及種子ニ於テ第二十一ノ豆類ヲ大豆、小豆、蠶豆、綠豆、豌豆、落花生及其他ノモノノ七種ニ分チ同ジク每百斤ニ對スル稅率ヲ夫レ夫レ大豆七〇錢小豆蠶豆各五五錢、綠豆豌豆六五錢、落花生ハ(甲)脫殼セザルモノ一・二五錢(乙)其他一・八〇錢ニ分チ、其他ノ豆類ヲ(但シ醫藥用ノモノヲ除ク)五〇錢トセルガ如キ、又第四〇ノ砂糖ニ於テ每百斤每ノ稅率ヲ品ニヨリテ(1)蘭標色相十一號未滿二・五〇圓(2)十五號未滿三・一〇(3)十八號未滿三・三五(4)貳十一條未滿四・二五(5)其他四・六五圓トシタルガ如キハ其例ナリ。

- (2) 從量稅率ニハ價格ヲ基準トシテ定メ置キ其價格ガ變動セルトキハ之ニ應ジテ其稅率ヲモ變更セシムルモノアリ。例ヘバ米及粃ニ對スル稅率ヲ決定スルニ當リテハ先以テ米及粃ノ普通相場ヲ評定シ今假リニ百斤十圓トシ一割ノ率ヲ適當トセバ百斤ヲ課稅重量單位トシ一圓ヲ以テ其稅率トナスガ如シ。サレバ若シ米百斤ノ價格ガ著シク變動シテ平均二十圓ヲ維持スルニ至ラバ稅率ヲ貳圓

トナスガ如シ。從テ變動著シキ物ハ初ヨリ從價稅品トナスベキヤ勿論ナリ。

然シ乍ラ貨物ニハ自ラ二種ノ區別アリ。(一)其本質上從價稅ニヨラザルベカラザルモノ、例ヘバ寶石類、繪畫、彫刻、其他ノ美術工藝品、樂器、時計、器具、機械等ノ如ク個々別々ノ品質價格ヲ有スルモノ之ニ屬ス。(二)ハ從量稅、從價稅何レヲモ適用シ得ベキモノ例ヘバ布帛類ノ如キ此例ナリ。

從價稅從量稅ハ共ニ一長一短アレドモ、從量稅ハ從價稅ニ比シテ其短所ヲ補ヒ易シ、サレバ多數國ハ從量稅ヲ主トシ之ニ加味スルニ從價稅ヲ以テセリ。我邦現行法モ亦然リ。

### 三、複合稅 Compound Duties

此他同一貨物ニ對シテ此兩者ヲ以テ同時ニ課稅シ、兩者相互ノ長所ヲ併有セシメントスルモノアリ、米國ニ於ケル葉卷、及紙卷煙草其他各種ノ卷煙草ニ對スル課稅ハ之ニ屬ス。即チ其課稅方法ハ一封度ニ付四弗五十仙ノ輸入稅ヲ賦課シ別ニ從價二割五歩ヲ課稅スルガ如キ此例ナリ。之ヲ複合稅ト稱ス。公平ヲ期シ得ベキモ徵稅手續頗煩雜ナルノ缺點アルヲ免レズ、一般ニ行ハレザル所以ナリ。



## 第二節 免稅品

性質上ハ課稅貨物ニ屬スレドモ、其使用ノ目的、用途、其他輸入者ノ資格等ニヨリ課稅ヲ免ルルモノニシテ其免稅原因ニヨリ之ヲ絕對的免稅品ト條件付免稅品トニ分ツベシ。

一、絕對的免稅品 其事情關係ニ從ヒ絕對的ニ關稅ヲ免除セラルルモノニシテ、關稅定率法第七條ニ列舉セリ。即チ

一、御料品、帝室御料品ノ外各宮家ノ御用品及ビ獻上品ノ如キ將來御料品タルモノヲモ包含ス。御料品ハ輸入ノ際宮内省ヨリ御料品タルコトノ證明アル文書ヲ添付スルモノトス

二、本邦ニ來遊スル外國ノ元首及其一族並ヒニ其從者ニ屬スル物品、外務省ノ證明アル文書ノ添付ヲ要シ開裝検査ヲナサス

三、陸海軍ノ輸入ニ係ル兵器彈藥及爆發物、兵器ハ直接戰鬥ニ使用セラルルモノニシテ兵器ノ部分品及半製品ヲモ包含ス、陸海軍省ノ證明ヲ要シ尙開裝検査ヲナス、但シ軍機ノ祕密ヲ要シ其手續ヲ採リタル場合ハ検査ヲナサス

四、政府ノ輸入ニ係ル燃料用礦油

四ノ二、直接燃料ニ供スル礦油ニシテ攝氏十五度ニ於ケル比重〇・九〇四ヲ越エタルモノ、但シ命令ノ定ムル所ニヨリ政府ノ許可ヲ受ケ輸入スルモノニ限ル（大正九年十一月勅令第五五號）

五、軍艦、其ノ部分品ヲモ含ムモノトス

六、本邦ニ派遣セラレタル外國ノ大使、公使其ノ他之ニ準スヘキ使節ニ屬スル自用品及在本邦外國大使館又ハ公使館ニ屬スル公用品、但シ本邦ヨリ派遣シタル大使、公使其ノ他之ニ準スヘキ使節ニ屬スル自用品又ハ本邦大使館若ハ公使館ニ屬スル公用品ニ對シ免稅ニ制限ヲ附スル國ニ付テハ相互條件ニ依ル。外務省ノ證明書添付ヲ要シ相互主義ヲ採用ス

七、本邦大使館又ハ公使館ノ館員ニ屬スル自用品ニ對シ關稅ヲ免除スル國ノ在本邦大使館又ハ公使館ノ館員ニ屬スル自用品及本邦領事館ニ屬スル公用品ニ對シ關稅ヲ免除スル國ノ在本邦領事館ニ屬スル公用品

八、本邦在住者ニ贈與スル勳章、賞牌、及記章、本邦在住ノ内外人ヲ問ハズ開裝検査ヲナス

九、記録文書其ノ他ノ書類

十、官公立ノ學校、博物館、商品陳列所等ノ營造物、及命令ヲ以テ指定シタル私立ノ學校ニ陳列スル標本又ハ參考品ニシテ大藏大臣ノ認許シタルモノ



- 十一、慈善又ハ救恤ノ爲ニ寄贈セラレタル給與品及孤兒院、養老院、施療病院等ノ慈善團體ニ寄贈セラレタル物品ニシテ直接慈善ノ用ニ供スルモノ
- 十一ノ二、社寺、教會、又ハ禮拜堂ニ寄贈セラレタル式典用具、及禮拜用具
- 十二、政府ノ輸入ニ係ル政府ノ專賣品
- 十三、商品ノ見本、但シ見本用ニノミ適スルモノニ限ル
- 十四、旅客ノ用品及旅客ノ職業上必要ナル器具但シ旅客ノ身分ニ相當スルモノニシテ税關ガ適當ト認メタルモノニ限ル。旅客ノ用品トハ例ヘハ寫真機、雙眼鏡、攜帶用樂器、時計、指環、襟飾等ノ如キヲ云フ、職業上必要ナル器具ト云フモ乘馬師ノ馬若クハ飛行士ノ飛行機ノ如キハ之ヲ包含セズ、一般ニ税關吏ノ自由認定ニ委ネタリ
- 十五、在外軍隊、軍艦又ハ公館ヨリ送還シタル物品
- 十六、個人ニ屬スル引越荷物、但シ既ニ使用セラレタルモノニ限ル、法人組合ノモノヲ含マズ、又營業用ノモノヲ除外ス
- 十七、輸出シタル物品ニシテ五年以内ニ輸入セラレ輸出ノ時ノ性質及形狀ヲ變セザルモノ、但シ酒精、砂糖及第八條又ハ第九條ニ依リ輸入税ノ免除又ハ拂戻ヲ受ケタル物品ヲ除ク

十八、命令ヲ以テ指定シタル輸出貨物ノ容器ニシテ再輸入スルモノ、但シ第八條ニヨリ輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ除ク (明治三十九年大藏省令第四四號最近改正大正六年三月同省令第七號)

- 一、礦水鏝、及清涼飲料水鏝。二、麥酒樽。三、硫酸壺、及硫酸罐。四、鐵製壓搾瓦斯容器。
- 五、綿製又ハ黃麻製ノ穀物袋、及洋灰袋ヲ云フ
- 十九、本邦ヨリ出漁セル船舶ヲ以テ捕獲採取セル魚介類、海獸、海藻其他水產物及其ノ製品ニシテ工程ノ簡單ナルモノ、但シ當該船舶又ハ之ニ附屬セル船舶ヲ以テ輸入シタルモノニ限ル
- 二十、外國航行ノ艦船ニ船用ノ爲引渡ス物品、但シ第十條ニ掲クル物品ヲ除ク
- 二十一、難破シタル本邦船舶ノ解體材及艤裝品
- 二十二、本邦ヨリ出航シタル船舶ニ搭載シタル輸出貨物ニシテ該船舶難破シタル爲積戻リタルモノ、但シ第八條又ハ第九條ニ依リ輸入税ノ免除又ハ拂戻ヲ受ケタル物品ヲ除ク
- 二十三、國、道、府、縣、其ノ他公共團體、政府ノ指定シタル産業ニ關スル法人ハ政府ノ許可ヲ受ケタルモノノ輸入スル種用動物、獸疫免疫血清及獸液豫防種液之ナリ

(ロ) 條件付免稅品

一定期間内ニ再輸出スベキ條件ノ下ニ輸入税ヲ免除セルモノヲ云フ。從テ手續上之等貨物ノ輸入



ニ當リテハ相當ノ擔保ヲ提供セシムルコトヲ原則トス。此種取扱ニ屬スルモノハ關稅定率法第八條ニ列記セラル。即チ

一、加工ノ爲メ輸入スル物品ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ

命令ヲ以テ指定シタルモノニ限ル、命令ハ明治三十九年九月勅令第二六一號ニヨル。

第一條 關稅定率法第八條第一號ニヨルコトヲ得ベキ物品左ノ如シ

一、彫刻、七寶、象眼、電鍍、珙瑯、塗漆、繪畫又ハ模様ヲ施ス爲メ輸入スル製品

二、繪畫又ハ模様焼付ノ爲メ輸入スル磁器及陶器

三、精練、漂白、色染、捺染又ハ友禪染ノ爲メ輸入スル糸縷、布帛及布帛製品

四、糸拔、絨、刺繡又ハ縁縫ヲ施ス爲メ輸入スル布帛及布帛製品

五、鞣、又ハ色染ヲ施ス爲メ輸入スル毛皮及獸皮

第二條 前條ノ物品ヲ輸入セントスル者ハ輸入申告書ニ輸入ノ目的加工ノ種類及加工者ノ氏名ヲ附記スベシ

第三條 加工シタル物品ヲ輸出スルニハ其原品ヲ輸入シタル開港ニ由ルベシ

第四條 加工シタル物ヲ輸出セントスルトキハ輸出申告書ニ加工者ノ作製セル加工證明書ヲ添附スベシ

加工證明書ニハ物品ノ名稱、物質、數量、加工ノ種類及該證明書作成ノ年月日ヲ記載シ加工者之ニ署名又ハ記名捺印スベシ

二、輸入貨物ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ

命令ハ明治四十四年六月大藏省令第二十七號輸入稅免除ノ輸入貨物容器指定ニヨル。

關稅定率法第八條第二號ニヨリ輸入稅ヲ免除セラルヘキ貨物容器左ノ通指定ス

一、壓搾瓦斯ヲ填充セル鐵製容器

二ノ二、輸出貨物ノ容器ニ使用スル物品ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ

命令ハ大正五年四月大藏省令第八號最近改正大正十年十二月同省令第四十三號

關稅定率法第八條第二號ノ二ニヨリ輸入稅ヲ免除セラルヘキ物品左ノ通り指定ス。

一、壓搾瓦斯ノ容器ニ使用スル鐵製「シリンドー」

二、油類、酸類、又ハ糖蜜ノ容器ニ使用スル鐵製「ドラム」

三、砂糖又ハ硬化油ノ容器ニ使用スル「アンペラ袋」及「ガンニー袋」

四、石炭「タール」ノ容器ニ使用スル木製樽

三、修繕ノ爲メ輸入スル物品

四、學術研究ノ爲メ輸入スル物品

五、試験品トシテ輸入スルモノ

六、註文取集ノ爲メ輸入スル見本品

六ノ二、製作見本品トシテ輸入スルモノ

七、本邦ニ渡來スル巡業興業者ガ輸入スル興業用物品



八、博覽會、展覽會、共進會又ハ品評會等へ出品スル爲輸入スル物品

(明治四十一年二月法律第五號、明治四十一年六月大藏省令第三二號)

### 第三節 無稅品 Free Goods.

國家ガ其產業政策上ノ見地ヨリ絶對的無稅ノ必要ヲ認メタルモノニ限ル。從テ此種ノモノハ何人ガ如何ナル狀態ノ下ニ何時輸入スルモ決シテ課稅セラレザルモノナリ。免稅品モ無稅品モ共ニ課稅セラレザル點ニ於テ結果ハ全然同一ナレドモ其間著シキ差異アリ、蓋シ前者ハ其性質上ヨリ云ヘバ本來ハ課稅品ナルモ唯其輸入者ノ如何ニヨリ或ハ其目的ノ如何等ニヨリテ課稅ヲ免ルルニ反シ後者ハ產業政策上一般的且ツ絶對的ニ課稅セザルモノナルコト之ナリ。

### 第四節 禁制品 Prohibited Goods.

國家ハ其安寧秩序ヲ害スル虞アルモノニ對シテハ輸入ヲ禁止セリ。即チ(一)阿片及阿片吸煙具。(但政府ノ輸入スルモノヲ除ク)。(二)偽造變造又ハ模造ノ貨幣、銀行券、及有價證券。(三)公安又ハ風俗ヲ害スベキ書籍、圖畫、彫刻物、其他ノ物品。(四)特許權、實用新案權、意匠權、商標權及

著作權ヲ侵害スル物品ハ禁制品ニシテ關稅定率法第十一條ノ掲グルトコロタリ。此外關稅法以外ノ法規ニヨリ輸入ヲ禁止又ハ制限スルモノアリ。

一、關稅偽造變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章若クハ消印ヲ除去シタル印紙(明治四十二年四月法律第三九號印紙犯罪法處罰法第二條)

二、輸入禁止處分ヲ受ケタル新聞紙(明治四十二年五月法律第四一號新聞紙法第二四號)

三、偽造肥料及他物混和肥料(明治四十一年四月法律第五一號肥料取締法第九條)

四、黃燐燃寸(大正十年四月法律第六一號黃燐燐寸製造禁止法第二條)

五、摸造印紙(大正五年七月大藏省令第十八號印紙模造取締規則)

六、銃砲火藥類(明治四十三年四月法律第五三號最近改正大正十一年三月法律第二號銃砲火藥取締法第九條)

七、偽造又ハ變造ニ係ル外國ニ於テノ流通スル金銀貨幣、紙幣、銀行券、帝國政府發行ノ證券、及之カ偽造又ハ變造用ノ器械又ハ原料(明治三十八年三月法律第六六號外國通用ノ貨幣紙幣偽造變造取締ノ件ニ關スル法律第五條)

八、煙草(煙草專賣法第二條及第四條)

九、鹽、鹹水、含鹽礦物(明治三十八年法律第十一號最近改正法律第五九號鹽專賣法第三條及第二五條)



十、輸出入植物取締法第七條ニ依リ植物又ハ其ノ容器包裝ニ使用シタル物（大正九年農商務省令第二一號最近改正大正十三年六月同省令第九號）

一一、襪褌、古綿、古着類、古紙類、古華皮類、古羽毛類、古敷物類、古麻袋類但シ印度、支那諸港、香港及臺灣ヨリ輸入スルモノ（明治三十二年十一月内務省令第五四號最近改正大正四年二月同省令第二號「ハスト」豫防内務輸入禁止物件）

一一、蠶種（明治四十四年法律第四七號蠶糸法第十七條及第三八條）

此外保健政策上ヨリ惡疫豫防ノ爲一定ノ物品ヲ限リ、一定ノ發送地ヲ限リ、一定期間輸入ヲ禁止スルコトアリ。之等ハ夫レ夫レ勅令ヲ以テ其都度定ムルモノトス。其他尙準禁制品トモ稱スベキモノアリ即チ前述第六、銃砲火藥。第八煙草。及第九鹽。ニシテ其輸入ヲナス者ノ資格ヲ制限セリ。銃砲火藥類ノ輸入ハ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル者、若クハ其販賣ノ業ヲ營ム者又ハ行政官廳ノ許可ヲ得タル者ニアラザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズトシ煙草ハ政府及政府ノ命ヲ受ケタル者ニ限リ（煙草專賣法）鹽及鹽水ハ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非ザレバ外國又ハ鹽專賣法ヲ施行セザル地ヨリ移入スルコトヲ得ズトシ（鹽專賣法）前記資格アル者ノ外輸入ヲ禁ゼリ。又第十一ペスト豫防禁止物件モ特別ノ事由アリテ内務大臣ノ許可ヲ受ケタルモノヲ除外シ第十二ノ蠶種モ蠶絲業法第十七條ニ其許

可ヲ受ケタル者ハ此限リニ非ズトセル條件付禁制品ナリ。其ノ他ノ禁制品ハスベテ絶對的輸入禁制品ナリトス。

## 第六章 關稅制度及最惠國條款

### 第一節 關稅制度

凡ソ一國ガ其關稅ヲ定ムルニ當リテハ各々自國ノ財政、經濟狀態及外交關係等ニヨリ其採用スル制度ヲ異ニスルモノトス。之ヲ大別スレバ次ノ三種トナル。即チ

(一) 國定稅率制度、(二) 協定稅率制度、(三) 國定協定稅率併用制度、之ナリ。

(一) 國定稅率制度 此制度ハ一國ガ其法律ニヨリテ制定シ稅權ノ運用ニ就テハ絶對自由ニシテ毫モ他國ノ拘束ヲ受ケザルヲ原則トス。元來主權ヲ有スル國家ハ其欲スル處ニ從ヒテ關稅制度ヲ定メ得ベク其相手國ノ如何ヲ問フ必要ナシト云フガ本制度ノ骨子ナリ。之ニ又二種アリ。

(イ) 單率式 單一ナル稅率ノミヲ有スルモノニシテ、其財政上ノ收入ノミヲ目的トスル國ノ採用セルモノナリ。若シ產業上保護主義ヲ加味スベキ國ニシテ此制度ヲ採ランカ忽チ他國ノ反感ヲ招キ自國輸出品ニ對シテ其報復ヲ受ケ產業上著シキ不利ヲ免ルルコト能ハズ、從テ現時ニ於



テ此制度ヲ採用セルモノ無シ只英國ハ從來自由貿易主義ヲ採リ他國ノ態度ヲ顧慮スルノ必要無カリシ結果單率式國定稅率制度ヲ採用シタリシガ戰後ニ於テハ特惠關稅等ノ差別關稅ヲ設クルニ至リタリ。

此制度ハ相手國ノ如何ヲ問ハズ單一ナル稅率ヲ課スルモノニシテ其適用頗簡單ナルコト其稅目及稅率ヲ自國ノ利益ニ順應セシメ得ルノミナラズ又隨時之ヲ增減變改シ得ル等ノ利益アレドモ反面此制度ニヨル時ハ一般ニ稅率過重ノ弊ニ陥リ易ク內國產業ノ發展ヲ害スル事及此制度ヲ徹底セシムル時ハ自國輸出品ノ仕向國ニ於テ何等特別ノ恩惠ヲ期待シガタキコト等ノ缺點アリ。

(ロ) 複率式 其稅目ノ全部又ハ一部ニ對シ最高稅率ト最低稅率ノ二稅率ヲ制定シ自國輸出品ニ對シ協定稅率ヲ適用スル國又ハ最惠國待遇ヲ與フル國ヨリノ輸入品ニ對シテハ其最低稅率ヲ適用シ其他ノ一般諸國ニ對シテハ最高稅率ヲ課スルモノナリ。此制度ハ一國財政上ノ目的及內國產業保護ノ目的ヲ達シ得ベキ範圍内ニ於テ最高最低二重ノ稅率ヲ制定セルモノニシテ、從テ條約締結ニ當リテモ國內生産業者ニ對シテモ其最高限最低限ヲ知ラシメ以テ稅率ノ内容不明ニヨル不安ヲ除クコトヲ得。自國ノ產業狀態ニ鑑ミテ制定セルモノニシテ其狀態ノ變化ニ伴ヒ條約締結後ニ於テモ變更シ得ベキコト、又外國ト條約折衝ニ際シテモ甚シキ懸引ヲ要セザル等ノ利

益アリト稱セラル、然乍ラ此制度ハ最低稅率アルガ故ニ生産者ニ不安ヲ與ヘズト云フモ結局國定稅率タル以上ハ何時變更セラルルカ測リ難ク不安ナル點ニ於テ單率式ト大差ナシ、蓋シ自國貿易上ノ都合ニヨリ隨時變更シ得ルコト長所ナリト云フモ斯クテハ生産業者ニ多大ノ不安ヲ與フルノミナラズ條約折衝上ニ於テモ不利益ナリ、如何ニモ懸引ヲ要セザル長所アレドモ他面其ノ束縛ヲ蒙ルモノニシテ裁量ノ餘地多キ協定稅率ニ比シテ寧ロ不利ノ場合少カラズ。要之此最低稅率ノミハ一括議定シ得ベキ利益アルノミ、一八七四年西班牙ガ採用シタル外現今之ヲ採用セルモノハ佛國、希臘、米國、加奈陀等ナリ、之ヲ或ハ二重稅率制度又ハ最低稅率制度トモ云フ。

(二) 協定稅率制度 此制度ハ一國ガ條約ニヨリテ稅率低減ノ協定ヲ爲シタルモノナリ、從テ稅權ノ運用上他國ノ拘束ヲ免レザルモノトス。然シ乍ラ一國輸出入品ノ全部ヲ舉ゲテ協定ニ委シ他國ノ絶對的拘束ヲ受クルガ如キハ其國ノ財政ガ許サザルコト通例ナリ、從テ此制度ヲ採用セル國ハ外交上對等ノ條約ヲ締結シガタク國權振ハザル國ニ限レリ。例ヘバ支那暹羅ノ如キ之ナリ、我國モ明治三十二年七月條約改正以前ニ於テハ此制度ヲ採用シタリシナリ、支那モ關稅主權ノ獲得ニ焦慮スルコト久シク這般ノ關稅會議ノ開催ヲ見ルニ至レリ。



(三) 國定、協定稅率併用制度 此制度ハ一切ノ稅目ニ就テ國定稅率ヲ定メ、之ヲ基礎トシテ特定ノ外國ト特別必要アル稅目ノミニ就キ、ヨリ低率ナル別個ノ稅率ヲ協定スルモノナリ、高低二種ノ稅率アル點ヨリ觀レバ前述ノ複率式國定稅率制度ニ類似スレドモ此兩者ノ間ニハ明カナル差異アリ。即チ

(イ) 複率式國定稅率制度ニアリテハ大部分ノ稅目ニ對シテ制定セラルルヲ原則トナセドモ此制度ニ於テハ稅目ノ一部ニ付テノミニ二種ノ稅率アルコト

(ロ) 複率式國定稅率ハ悉ク一國ノ法律ニヨリテ制定セラルルニ反シ此制度ニアリテハ協定稅率ハ全然條約ノ結果成立スルモノナルコト之ナリ。

サレバ此制度ノ協定稅率ハ一方國ノ法律ノミヲ以テ任意ニ變更改廢ヲ許サズ、協定期間内ハ特別事變發生セザル限リハ其稅率變動スルコトナキガ故ニ當業者ハ安ンジテ取引ヲ爲シ得ルノ利益アリ、元來貿易ハ輸出及輸入ノ二面ヨリ成レリ、一國ノ國際商業政策上ヨリ云フモ輸入偏重ニ陥リ輸出ヲ顧ザルガ如キハ其當ヲ得タルモノト稱スベカラズ。蓋シ自國ノ輸出品ヲ其對手國ノ法律ノミニ一任シテ顧ザル如キハ其輸出貿易ノ進展ヲ計ル所以ニ非ザレバナリ、而シテ一國ノ産業及一般經濟關係ハ他ノ國ト狀態ヲ異ニスルノミナラズ、特ニ貿易上ノ關係ニ於テハ各國夫レ夫レ特種ノ地位ニ

立チ悉ク異ル。從テ關稅政策上甲國ニ對スルモノト乙國ニ對スルモノトノ間ニハ自然輕重厚薄ノ差ヲ附スルコトヲ要ス。故ニ最惠國條款以外ニ於テ各重要品ニツキ相互利益交換ノ爲ニ稅率ノ低減ヲ協定セル特惠協定ナル制ヲ設ケ以テ貿易ノ増進ヲ計ラントスルニ至レルモノトス。之ヲ要スルニ此制度ノ國定稅率ハ國內産業ノ發展ヲ計リ同時ニ協定稅率ハ輸出貿易ノ進展ヲ企圖スベキ國ノ採用ニ適セルモノニシテ現時之ヲ採用セルモノハ白耳義、伊太利、和蘭、瑞西及我國ナリトス。

## 第二節 最惠國條款

最惠國條款トハ締盟國ノ一方ガ第三國ニ現ニ與ヘ若クハ將來與フベキ利益ニ其他方ヲ均霑セシムベキ旨ヲ約シタル條約ナリ、サレバ之ヲ有スル國ハ他國ニ於テ第三國ニ比較シテ不利益ナルベキ差別的待遇ヲ受クル虞ナキモノトス。蓋シ斯ノ如キ條款ハ往時相手國ノ如何ニヨリ關稅上ニ於ケル待遇ヲ異ニシ特殊不利益ノ地位ニ立タシメラルル場合多カリシガ故ニ之等ノ弊ヲ除カンガ爲ニ發生ヲ見タルモノナリ、然シ乍ラカカル最惠國條款ニモ種々ノモノアリ、我邦通商條約ニ於ケルガ如ク其效力ヲ通商及航海ノ一切ノ事項ニ及ボスモノアリ、其範圍ヲ關稅ノミニ限ルモノアリ、或ハ最惠國タルベキ國ヲ列舉セルモノアリ又關稅同盟ノ如キ例外ノ場合ニハ之ヲ適用セザル旨ヲ約セルモノ



アリ、就中最重要ナル種別ハ無條件ナルカ將タ條件付ナルカノ點之ナリ。

(イ) 無條件最惠國條款 此種ノモノハ締盟國ノ一方ガ第三國ニ對シ或ル利益ヲ與ヘタル時ハ即時且ツ何等條件ヲ附スルコトナク之ヲ他方ニモ與フルモノニシテ本邦ガ獨、澳、英、伊太利、白耳義、丁抹及暹羅トノ間ニ締結セルモノハ此種ノ例ナリ、此主義ノ條款ハ一八六三年ノ英伊條約ヲ其起源トスルガ故ニ英伊條款ト稱シ、英國ノミナラズ歐洲各國何レモ採用セルトコロノモノナリ。

(ロ) 條件付最惠國條款 之ハ締盟國ノ一方ハ他方ガ第三國ニ對シ無條件ニテ或利益ヲ與ヘタル時ハ無條件ニテ均霑シ得ベク若シ又條件付ニテ與ヘタル時ハ同様ノ條件ヲ付シテノミ均霑シ得ベキコトヲ約セルモノナリ、米國、墨西哥、伯刺西爾、祕露、智利等ノ諸國ハ從來此主義ヲ採レルガ故ニ我邦及諸外國ガ之等諸國ト約セルモノハ何レモ此主義ニヨレルモノトス。英國ハ一八四八年ヨリ一八六〇年迄之ヲ採用シタル後無條件主義ニ改メタリ、米國ハ一八六二年以後此主義ヲ採リ現時ニ及ベリ。

此外往時ニ於テハ無條件ナルカ條件付ナルカヲ明示セザルモノ行ハレタリ、之ヲ單純最惠國條款ト云フ其何レニ解スベキカニツキテハ定論ナク現時之ヲ採用セルモノナシ、又最惠國條款ニ片務的ノ

モノト雙務的ノモノノ區別アリ。

(1) 片務的最惠國條款 之ハ締盟國ノ一方ノミガ其相手國ノ第三國ニ與ヘタル利益ニ均霑シ得ベキコトヲ約シタルモノニシテ一般ニ文明國ト未開國トノ間ニ見ルコト多シ、例ヘバ一八五六年ノ合衆國ト暹羅間ノ通商條約ノ如キ此例ナリ。

(2) 雙務的最惠國條款 締盟國雙方共ニ第三國ニ與ヘタル利益ニ均霑シ得ベキコトヲ約セルモノニシテ現時文明國ニ行ハルルモノハ大抵之ニ屬ス。

又最惠國條款ハ其適用ノ範圍ヨリ一般的ノモノト特定のモノト區別セラル、例ヘバ一八七一年ノ獨佛間ノ條約ハ其適用ヲ輸出入稅、通過稅及關稅手續ニ限リタルガ如キ、又一八四一年ノ英獨ノ條約ニテハ其適用ヲ砂糖、穀物等數品ニ限リタルガ如キ、一八八一年ノ佛澳間ノ條約ハ或特定貨物ヲ最惠國條款ヨリ除キタルガ如キ又一八九六年ノ白耳義、和蘭ノ條約ハ鐵及石炭ノミニ其適用ヲ限リタルガ如キハ著シキ其例ナリ。

## 第七章 差別關稅

差別關稅トハ或ル特種ノ目的例ヘバ自國海運、若クハ開港ノ發達或ハ自國直接貿易ノ發展ヲ期セ



ンガ爲ニ同種ノ輸入品ニ對シテ制定セラレシ異リタル國定稅率ヲ云フ、從テ協定稅率、國定稅率、廣義ノ差別關稅ナレドモ茲ニハ國定稅率ノ範圍内ノミニ就テ云フ、複率式國定稅率モ同ジク一種ノ差別關稅ナレドモ茲ニ云フ處ノモノハ一般稅目ニ對スルモノニ非ズシテ少數稅目ノミニ對スルモノナリ、然シ乍ラスノ如キ差別稅關ハ通商條約及最惠國條款ノ拘束アル現時ニ於テハ重商主義ノ盛ナリシ往時ニ比シテハ其行ハルル餘地多カラズ、其主要ナルモノ次ノ如シ。

(イ) 國旗割増關稅 外國船舶ニヨリテ輸入セラルル貨物ニ比シテ自國船ニヨリタル同種貨物ニ對シテハ特ニ低率ナル關稅ヲ課シテ以テ自國海運ノ發達ヲ計ラントスルモノ之ナリ。伊國自由都市ガ採用セルヲ嚆矢トシ爾來和蘭ノ海運上ノ霸權ヲ奪ハントシテ英國ガ航海條令ヲ以テ此種關稅政策ヲ十九世紀ノ中葉迄採用セル外、佛、露モ亦之ヲ採用シタリ。現今ニ於テモ葡國ハ其所領ナル「アンゴラ」及「モザンビーク」ヨリ輸入セル砂糖ニ對シ關稅ヲ半減スルモ此特惠ハ葡國船舶ニ積載セル場合ニ限ルト定メタル如キ、又米國ガ大戰後自國船舶輸入品ニ對シテ減稅セントセシ如キハ(最モ米國ハ一九一三年ノ「アンダーウツド、シモンズ」法ニ於テモ自國船舶ニ依ル貨物ノ輸入稅率ヲ五分減トセリ)其例ナリ。

(ロ) 海運獎勵關稅及陸接貿易獎勵關稅 前者ハ陸接國境輸入品ヨリモ海路ニヨリ輸入セラルルモノニ低率ノ關稅ヲ課スルヲ云ヒ後者ハ之ニ反スルモノナリ。此制度ニヨル時ハ以テ自國開港若クハ陸接地點ノ繁榮ヲ計リ得ベシ、但シ國旗割増關稅ノ如ク自國海運ノミノ發展ヲ期待スルコト能ハズ埃國之ヲ採用セリ。

(ハ) 間接割増關稅 第三國ヲ經由シテ輸入セラルル貨物ニ比較シテ原產國ヨリ直接輸入セラルルモノニ低率ノ關稅ヲ課スルモノナリ。斯シテ原產國若クハ輸出國ト自國トノ間ノ貿易關係ヲ密接ナラシメ以テ間接輸入ニヨル各種ノ不利益ヲ除カントスルモノナリ、例ヘバ間接輸入ニ於テハ國內消費者ハ無用ノ運賃保險料、仲立手數料等ヲ負擔スベキ不利益ヲ免ガルヲ以テナリ、此制度ニヨル時ハ又間接ニ自國海運ノ發展ヲ來ス結果トナル。佛米ノ採用セル所タリ。

(ニ) 特惠關稅 主トシテ本國ト植民地間ニ於ケル差別關稅ヲ意味シ相互間ノ經濟上ノ連鎖ヲ特ニ密接ナラシムルヲ目的トナスモノナリ。之ニ一方のナルモノト雙方のナルモノトアリ、西班牙ハ植民地ノ全部ヲ失フ迄之ヲ採用シ和蘭ハ一八七二年迄其東印度屬領地ニ對シテ之ヲ有シタリ、佛國モ近年外國輸入品ト植民地輸入品トノ差別ヲ設ケ後者ノ稅率ヲ半減セルガ如キ、英國ハ一九世紀前半ニ於テ一時之ヲ廢止シタリシモ近時國際間ノ競爭激烈トナリシヲ以テ加奈陀、濠洲、南阿弗利加、新西蘭(註一)、等ガ之ヲ採用實行シ英本國モ之ニ對シテ之等植民地產物ノ稅率低減ヲ行ヘ



ルガ如キ此例ナリ(註二)。我邦ニ於テモ關東州ノ特種稅目ニ對シテ特惠關稅ヲ設ケ大正十五年四月一日ヨリ實施セリ。

(註一) 加奈陀——英本國及ビ其屬領地ヨリノ輸入商品ニ對シテハ一般稅率ヨリ特ニ約三分ノ一ヲ輕減スル特惠制度ヲ設ケタリ但シ「ニューファンドランド」、濠洲、シアラタル、メサイブラス、香港及「マルタ」ハ之ヲ除外セリ。又此外一般關稅率ヨリ從價二・二分ノ一乃至五%低率ナル中間關稅率ノ制ヲ設ケタルモ此稅率適用ノ利益ハ最惠國條款ノ效力ニ依リ佛蘭西、伊太利、亞爾然丁、丁抹、日本、諾威、西班牙、瑞典、瑞西「ウエネズエラ」其他數ヶ國ニ擴張セラレタリ。

濠洲——一九〇七年八月八日以來英本國品ノ大多數ニ對シテハ一般稅率ヨリ五%ダケ低率ナル特惠關稅ヲ許與セリ。但シ此ノ特惠稅率ハ機械、器具ノ場合ニハ從價一〇%。双物類ニハ從價二〇%迄増率スルコトヲ得ルコトシタリ。

「ニュージールランド」——特種ナル特惠制度ヲ有ス、即チ一般稅率ヲ以テ英本國商品ニ適用スベキ特惠稅率ト爲シ英帝國以外ノ諸國商品ニハ一般稅率ニ加フルニ從價一〇%ヨリ一〇〇%迄ノ附加稅ヲ徵收スルコトトス、此特惠稅率ハ英帝國全般ニ適用セララルモノナルガ帝國内ノ植民地トノ互惠協約ニ依リ更ニ之ヲ減率シ得ルコトトシタリ。然シ斯カル協約ハ「ニュージールランド」ノ議會ノ協贊ヲ要シタリ。

南亞弗利加同盟國——諸外國ニハ一般稅率ヲ適用シ英本國及互惠協約ヲ有スル英國自治領ヨリノ輸入商品ニ對シテハ特惠稅率ヲ適用シタリ。

特ニ英國ハ世界戰爭ニヨリ其自由貿易ノ基礎ニ重大ナル衝動ヲ受ケ一九〇<sup>三</sup>年頃「ジョセフ、チャンバレイン」ノ唱ヘタル帝國主義ニ接近スルニ至レリ、殊ニ英帝國ノ存立ヲ危クセントセル大戰

中提供セラレシ自治領植民地ノ偉大ナル援助ニ對スル感謝ノ念ハ特惠關稅制度ノ確立存續ヲ企圖セシムルニ至ラシメ漸次英領印度ニモ之ヲ及ボサントシツツアリ。

(註二) 目下ロンドンニ開催中ノ英帝國會議ノ重要議題トシテ注目サレテキル英帝國領土内ノ特惠關稅問題ニ關シインドノ全インド商工會議所聯合會ハインド事務大臣ソノ他ニ對シ左ノ意味ノ陳情書ヲ提出シ英帝國領土内特惠關稅ガインドニ適用サレルコトニ絶對反對ナル事ヲ明カニシタ旨八日在カルカッタ酒匂總領事ヨリ外務省ニ報告ガアツタ。

「インドガ眞ノ財政自主權ヲ獲得スルマテハ事情ノ如何ヲ問ハズ如何ナル性質ノ帝國特惠關稅トイヘドモコレナインドニ適用セラレザルベキ事ヲ希望ス、萬一インド政府當局ガ特惠關稅設定ニ關スル英帝國會議ノ決定ニ加盟スルガ如キコトアラバ「インドハ英國ノ搾取ノ目的物ニ過ギズ」テフインド人ノ信念ヲ益々深カラシメ政治的ノ不安ノ極ニアル現下インドノ輿論ヲイヨイヨ激昂セシムルニ至ルテアラウ關稅等ノ經濟問題ニ關スル如何ナル決定ニ對シテモトインド商工業者ハコレヲ否認スベキ事ヲ聲明スル」……………昭和五年十月九日朝日新聞。

(ホ) 報復關稅 對手國ガ自國ノ貨物船舶又ハ臣民ニ對シテ不利不當ナル取扱若クハ待遇ヲ爲シタル時相手國ヨリ輸入セル貨物ニ對シテ特ニ高率ナル關稅ヲ賦課スルモノヲ報復關稅ト云フ、而シテ之ガ斷行セラルル場合ニ三アリ。

- a 他國ノ關稅法ヲ不當トシテ對抗セントスル場合
- b 相手國ガ自國ヲ特ニ薄遇シタル場合
- c 通商條約期限經過シ新條約締結折衝中相手國ガ不當ノ要求ヲナシタル場合



之ナリ。而シテ之ヲ課スルニハ豫メ相手國ニ警告ヲ與ヘテ其反省ヲ促ガシ其效果ナキ場合ニ斷行ヲ見ルモノトス、此場合ニハ相互相下ラス報復ニ酬ユルニ報復ヲ以テシ所謂關稅戰爭 Tariff warヲ惹起スルニ至ル場合多シ、然シ乍ラ關稅戰爭ノ如キハ貿易上、經濟上自國ニ對シテモ多大ノ弊害ヲ與フルモノナルガ故ニ極力回避スベク萬止ムヲ得ザル場合ニノミ行ハルモノトス、サレバ豫メ其關稅法中ニ報復關稅ニ關スル警告の意味ヲ有スル條項ヲ規定スルモノ多シ、佛獨米ノ如キ此例ナリ。本邦亦現行關稅定率法第四條ニ於テ本邦船舶又ハ生産品ニ對シ他國ヨリモ不利益ナル取扱ヲ爲ス國ノ生産品ニ對シテハ勅令ヲ以テ物品ヲ指定シ別表ニ定メタル關稅ノ外其ノ物品ノ價格ト同額以下ノ關稅ヲ課スルコトヲ得ト定メタリ。

(ハ) 相殺關稅 相手國ガ輸出獎勵金其他ノ保護金ヲ下附スルコトアリ此場合輸入國ニ於テ之等ニ對シテ割増關稅ヲ賦課シテ其特別ナル保護ヲ無効ナラシメントスルモノナルガ故ニ此名アリ。輸出國ハ斯ノ如キ場合ニ於テハ獎勵金又ハ保護金ノ支出ヲ爲スモ全然空費ニ終リ輸入國ハ以テ其產業保護ト收入増加トヲ同時ニ計リ得ルコトトナル、近年迄歐洲各國ガ甜菜糖ニ對シテ獎勵金ヲ與ヘタルニ對シ米國、英國、印度ガ之ヲ採用セル實例アリ。我關稅定率法第五條ニモ相殺關稅ニ關スル規定アリ、米國關稅法等モ略同様ナル規定アレドモ現時獎勵金ノ交付ハ稀ナルガ故ニ寧ロ其

豫防の規定ナリト云フベシ。

(ト) 不當廉賣防止稅 此外相殺關稅ニ類似セルモノアリ、即チ外國輸入品ノ代價ガ内國産ニ比シ著シク低廉ナル時其差額相當ノ割増關稅ヲ以テ外國品ノ不當廉賣ヲ防止シ以テ内國産業ヲ保護セントスルモノナリ。斯ノ如キ廉賣防遏ハ一九〇四年加奈陀ガ初メテ採用セルトコロナリ。即加奈陀輸入商ヘノ賣却價格ヨリモ其輸出地ニ於ケル當時ノ普通價格高キ時ハ此兩種賣價差額ニ均シキ特別稅ヲ賦課スルコトトシ二三ノ例外ヲ認メタルノミ、專ラ米國ノ「ダムピング」ヲ防ギ同時ニ虛偽ノ申告ヲ防止スルヲ目的トナシ其實行方法トシテハ米國各地方ヘ吏員ヲ派シ代價其他ヲ調査セシム、我邦モ大正九年七月法律第四號ヲ以テ(關稅定率法第五條ノ二條)不當廉賣防止稅ヲ設ケタリ而シテ何ヲ不當廉賣ト認ムルカニ就テハ商工大臣監督ノ下ニアル不當廉賣委員會ヲ設ケ其審査ニ付シ其決議及所管大臣ノ意見ニ基キ大藏大臣ガ必要ト認ムル時課稅スルモノトセリ、大正十年頃、英、濠洲、米國等モ此種ノ規定ヲ設ケタリ、蓋シ之等ハ「ダムピング」ノ外馬克等外國貨幣ノ爲替相場下落ニヨル廉賣ヲモ防止セントセルモノナリ。



## 第八章 消費稅 Consumption Duties.

消費稅ハ其課稅ガ消費者若クハ使用者ニ轉嫁セラルルトコロノ間接稅ノ一種ニ外ナラズ、廣義ニ於ケル消費稅ノ種類極メテ多ク關稅亦其一種ニ屬ス、然シ乍ラ狹義ニ於テハ砂糖、織物及骨牌ニ對スル消費稅ヲ意味ス。蓋シ酒稅ノ如キハ造石稅ナル特種ノ名稱アリ、其他ノ物ノ輸入ニハ同一率ノ輸入稅ガ賦課セラルルガ故ニ之等ト區別スルコト便宜ナレバナリ、本來之等ノモノハ何レモ財政上ノ收入ノミヲ目的トナス所謂對內的租稅ナリ、從テ其課稅ハ稅務署ノ管掌ニ屬スベキモ之等貨物ノ輸入品ナル場合ノ消費稅ニ關シテハ便宜上稅關ガ稅關構内又ハ其他保稅地域ヨリ引取ラルル際徵收スベキ特別規定ヲ設ケタリ。

1 砂糖ノ消費稅、稅關ガ輸入品ニ關シ關稅ノ外更ニ内地消費稅徵收ヲ開始セルハ明治三十四年法律一三號砂糖消費稅ヲ以テ其嚆矢トス、當時砂糖ニ關シテハ主要供給國タル英國トノ間ニ低率ナル協定稅率ヲ有シ我國ガ任意ニ輸入稅ヲ増徴シ難キ地位ニアリ、唯内地產ノ砂糖ニ課稅スル時ハ之ヲ理由トシテ同額ノ租稅ヲ輸入糖ニモ賦課シ得ベキガ故ニ内地精糖ノ發達ヲ犠牲ニ供シテ設ケラレタルモノトス、消費稅ハ内地消費ヲ目的トセルモノニシテ次ノ如キモノヲ除外セリ。

- (1) 外國へ輸出ノ爲メ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ルモノ
  - (2) 政府ノ承認ヲ受ケ砂糖、糖水又ハ「アルコール」ノ原料トシテ使用スル砂糖及糖蜜
  - (3) 政府ノ承認ヲ受ケ飲食スベカラザル處置ヲ施シ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖
- 但シ之等何レノ場合ニアリテモ其擔保トシテ稅金相當額ノ金錢又ハ稅務署長ノ確實ト認ムル有價證券若クハ工場財團ヲ提供スベク引取後六ヶ月以内ニ輸出シタル證明ナキカ或ハ製造セザルトキハ消費稅ヲ徵收スベク金錢以外ノ擔保物ハ之ヲ公賣ニ附シテ稅金及公賣費用ニ充テ不足セル場合ニハ追徵シ殘金アラバ之ヲ返附ス尤モ内地消費ノ砂糖其他ニテモ相當ノ擔保提供ニヨリテ消費稅ノ徵收ヲ六ヶ月以内猶豫スル定メアリ

砂糖消費稅法(明治三十四年三月法律第十三條)ハ明治三十四年十一月一日ヨリ施行セラレ三十七年非常特別稅ヲ附加シ四十一年七月二十二日法律第一號ヲ以テ改正ヲ加ヘ粗糖ニ輕ク精糖ニ重ク每百斤二圓乃至十圓トス、内地產糖ハ此消費稅ヲ負擔スルノミナレドモ輸入糖ハ此外更ニ輸入稅ヲ負擔セザルベカラズ、輸入糖ノ引取人ハ内地消費カ否ヤヲ指定シテ所管稅務署ニ届ケ出ヅベク、稅務署ハ其種別及斤數ヲ査定シ其消費稅ヲ徵收スベキモノハ直ニ其手續ヲナシ又其擔保ヲ要スルモノニアリテハ其額ヲ指定スベシ、引取人ハ該稅金ヲ納附シテ國庫ノ領收證ヲ得、若クハ擔保ヲ供託シテ其受領證ヲ得之ヲ稅



關ニ呈示シテ引取ノ許可ヲ得ベキモノトス、若シ之ニ違反スル時ハ税金五倍相當ノ罰金ニ處シ直ニ其消費稅ヲ徵收ス、但シ消費稅六圓未滿ナル時ハ罰金額ヲ三十圓トセリ。

2 織物消費稅(明治四十三年三月法律第七號織物消費稅法其後改正) 織物消費稅モ亦稅關保稅倉庫(輸入品若クハ製造所(內國產)ヨリ引取ル時ニ納付スベキモノトシ之ニ反スル時ハ稅額五倍ノ罰金ニ處シ直ニ消費稅ヲ徵收セラ、稅率ハ綿織物(全量中百分ノ九五以上ノ綿ヲ原料トスル織物ニシテ絹ヲ交ヘサルモノ)ヲ除キ從價一割トス、但シ消費稅四圓未滿ノ時ハ罰金二十圓トス、尤モ稅額以上ノ擔保額ヲ提供シタル時ハ三ヶ月以内徵稅猶豫ノ特典アリ

但シ次ノ如キ場合ニハ消費稅ヲ免除セララル (イ)外國ニ輸出スル織物、(ロ)製造者ガ自家用ニ供スル織物又ハ一旦消費稅ヲ納付シタル物品、又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ輸出シタル時ハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅相當金額ヲ交付スルコトトセリ。斯カル免除ヲ得ント欲スル者ハ運搬線路、運搬先又ハ輸出港ヲ指定シ所管稅務署ノ承認ヲ得ベク、唯專ラ輸出口品製造ヲナシ稅務署ガ取締上必要ナシト認ムル場合ノミ承認ノ省略ヲナスコトアリ、輸出手續完了ノ場合ニハ輸出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ製造所所管ノ稅務署ヘ提出スベキモノトス、消費稅既納織物ノ輸出ニ當リ消費稅相當金額ノ交付ヲ受ケントスル者ハ豫メ輸出以前ニ輸出港稅關ニ其旨ヲ申告シ消費稅領收證ヲ添ヘテ

請求スベキモノトス。

3 骨牌稅(明治三十五年四月法律第四八號骨牌稅法) (歌加留多、以呂波加留多、其他政府ノ認可ヲ得タルモノヲ除ク)其性質砂糖消費稅ニ類シ骨牌ノ製造及輸入ニ對シテ賦課セララル、其稅率ハ麻雀一組三圓骨牌一組五十錢ニシテ包裝ニ收入印紙貼付ニヨリ納稅シ又輸入品ニハ豫メ一包毎ニ包裝ヲ施シ之ニ印紙貼付ヲナシ其抹消ヲ得テ引取ルベキモノトス、輸出口品ノ製造又ハ販賣者ガ見本用ニ供スルモノハ免除ノ規定アリ、此適用ヲ受ケントスル者ハ製造ノ際收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノモノト區別シテ藏置スベク運搬ニ當リテハ豫メ運搬線路及運搬先又ハ輸出口品ヲ指定シ收稅官吏ノ承認ヲ受クベキモノトス、承認期間六ヶ月ナリ。

## 第九章 戻稅並ニ輸出獎勵金

### 第一節 戻稅 Draw back

元來戻稅トハ輸入貨物ヲ原形ノ儘再輸出スル場合ニ一旦納入シタル輸入稅ノ全部又ハ一部ヲ還付スルコトヲ意味シタリ、然ルニ近來保稅倉庫ノ制度發達シ、通過貿易ニ資スル交通機關ガ進步セル結果此種ノ戻稅ハ漸次其必要ノ度ヲ減ジ輸入原料品及半製品ヲ用ヒテ生産セル物品ニ對スル戻稅ガ



重要タルニ至レリ。要スルニ戻税ハ内國生産業者ヲシテ外國生産業者ト同一立場ニ立タシメントスモノニ外ナラズ、從テ其意義ハ漸次擴張セラレ輸出品ニ對スル内國稅ノ免除ヲモ包含スルニ至レリ。而シテ之等消費稅ハ内國稅ニシテ本來稅務署ノ所管ニ屬スレドモ其輸入ヲナス場合ニ於テ稅關ガ其所管事務ノ一トシテ賦課徵收ヲ行フモノトス、戻税ハ之ヲ輸入稅ノ拂戻及ビ内國稅ノ拂戻又ハ免除ノ二ニ分ツコトヲ得ベシ。

第一、輸入稅ノ拂戻、之ニ左ノ二種アリ。

(a) 輸出戻税 (b) 製造戻税

前者ハ外國原料ヲ用ヒタル貨物ヲ輸出スルニ當リ、後者ハ外國原料ヲ用ヒ製造セル際ニ於テ夫レ夫レ其原料輸入稅ヲ返戻スルモノトス、例ヘバ硝子、鏡、掛時計、又ハ置時計、飲食物、衣服等ヲ製造シ之ヲ輸出シタル場合其原料品輸入稅ヲ拂戻スガ如シ、(大正十年五月三十日勅令第二三八號關稅定率法第九條第一項ニヨル命令ノ件)。

斯ノ如キ輸入稅ノ拂戻ニ當リテ其輸入原料ト製品トノ關係ノ立證ハ頗ル困難ナリ、蓋シ其輸入セラレ製造セララル迄ノ間ニ於テ各種商人ノ間ニ轉々賣買セラルルヲ常トスルカ故ナリ、其製品ニ於テモ亦同様ノ過程ヲ經ルモノトス故ニ此立證ノ責ヲ峻嚴ナラシメンカ此制度ハ實效ナキニ至ラン。

歐洲諸國ハ此點ニ關シテハ甚ダ寛大ナリ、即チ輸出者ハ只單ニ輸入稅納付ノ事實ヲ證明スレハ一定量ノ製品ニ對シ法定歩合ニヨル原料ノ戻税ヲ受ケ得ルコトトセリ、其實行方法ニ二種アリ其一ハ加工製造品ヲ輸出スル場合一定ノ輸出證ヲ與ヘ置キ此製品ニ對シテ法定歩合ニヨル原料數量ノ輸入稅ヲ免除スルモノニシテ他ハ外國原料ヲ輸入シ輸入稅納付ノ際輸入稅納付證ノ交付ヲ受ケ其製品ノ輸出ニ當リテ之ヲ以テ拂戻ヲ受クルモノ之ナリ、我邦ハ後者ヲ採レリ。

第二、内國稅ノ拂戻又ハ免除、酒類、清涼飲料水、砂糖、織物等ヲ輸出シタルトキ之等ニ對スル内國稅ヲ拂戻シ又免除スルモノニシテ即チ次ノ如シ。

(1) 造石稅若クハ出港稅ヲ課セラレタル酒類、酒精、若クハ酒精含有飲料又ハ麥酒稅ヲ課シタル麥酒ヲ外國ニ輸出シタル者ハ造石稅、若クハ出港稅又ハ麥酒稅ニ相當スル金額ノ下附ヲ政府ニ請求スルコトヲ得ルモ輸出後一年ヲ經過シタルトキハ右ノ請求權ヲ失フモノトス、尙ホ其下附請求ニ當リテハ納稅濟證明書輸出免狀、外國ニ陸揚シタルコトヲ證スベキ書類(但シ命令ヲ以テ之ヲ限定スルコトヲ得)ヲ申請書ニ添附シテ政府ニ提出スルコトヲ要ストセリ、又納稅未濟ノ酒類又ハ酒精其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ヲ輸出シタル者ハ稅額相當ノ擔保ヲ提供シタルコトヲ證スベキ書類ヲ以テ前記納稅濟證明書ニ代フルコトヲ得トセリ(明治三十四年三月法律第十號)。



イ 酒類造石税(酒造税法)明治二九年三月法律第二八號大正十五年三月法律第十三號改正)

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其造石數ニ應ジ左ノ割合ヲ以テ造石税ヲ課ス

第一種 酒精分二十三度以下ノ濁酒 一石ニ付 三十六圓

第二種 酒精分二十三度以下ノ清酒、白酒及酒精分三十度以下ノ味淋、燒酎 一石ニ付 四十圓

第三種 酒精分三十度ヲ超ヘ四十五度以下ノ燒酎 一石ニ付前號ノ金額ニ酒精分三十度ヲ超ユル一度毎ニ一圓五十錢ヲ加ヘタル金額

第四種 酒精分二十三度ヲ超ユル清酒、濁酒、白酒、酒精分三十度ヲ超ユル味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎 一石ニ付酒精分一度毎ニ一圓八十錢

前項ニ於テ酒精分ト稱スルハ攝氏檢温器十五度ノトキニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇・七九四九ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量トス

ロ 清涼飲料税(清涼飲料税法)大正十五年三月法律第一六號)

第二條 清涼飲料ニハ左ノ區分ニ依ル清涼飲料税ヲ課ス

第一種 玉ラムネ、壘詰ノモノ 一石ニ付 七圓

第二種 其ノ他ノ壘詰ノモノ 一石ニ付 十圓

第三種 壘詰以外ノモノ、炭酸瓦斯使用量 一石ニ付 三圓

ハ 麥酒税(明治三四年三月法律第十二號大正十五年三月法律第十五號改正) 一石ニ付 貳拾五圓

ニ 酒精及酒精含有飲料税(明治三四年三月法律第八號爾後數次改正)

一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ 一圓八拾錢

但シ一石ニ付四拾貳圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ズ

工業用酒精、酒類、其他酒精含有飲料戻税法(明治三九年四月勅令第八六號其後大正元年及六年改正)ニヨリテ拂戻サルモノアリ。

(甲) 造石税納付済ノ酒精ヲ工業用ニ供スルモノハ政府ノ承認ヲ得テ毎回一石以上ヲ使用スル場合ニ限り造石税ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求シ得ルコトトセリ、之ハ次ノ如キ物品ノ製造用ニ供シタル場合ヲ指スモノトス。

(a) 之ヲ製造又ハ使用シタル場合ニシテ輸出カ否カチ問ハズ

1 火藥、瓦斯、依的兒、石鹼、單寧酸、龍腦、食醋、セルロイド、コロサオン(瓦斯マントル、寫眞材料、寫眞製版、擬革、又ハ帽子ノ製造用ニ供スルモノニ限ル)パラフェニレンジアミン(パラミン)

2 燃料用變性酒精(政府ノ定ムル方法ニ依リ酒精ヲ變性シタルモノ)蒸汽汽罐燃料、セルロイド加工用、樟腦精製用

(b) 外國へ輸出スル物ノ製造ニ使用シタル場合 香水其ノ他ノ化粧液、擬眞珠

(乙) 造石税納付済ノ酒精、酒類、其ノ他、酒精含有飲料ヲ政府ノ工業用ニ供スル者ハ亦毎回一石以上ノ供給ヲナス場合ニ限り税金額ニ相當スル金額ノ下附請求ヲナシ得ルコトトセリ。

兩者共ニ使用又ハ供給後一年ヲ經ルトキハ其請求權ヲ失フモノトス。



## (2) 消費稅ノ免除及拂戻

前述セル如ク消費稅ハ内國産品ナルカ外國輸入品ナルカヲ問ハズ共ニ賦課セラルルガ故ニ純粹ナル内國稅ト稱シガタシ、又必然的ニ拂戻サルルモノニ非ザレドモ尙ホ左ノ如キ場合ニハ拂戻サルルモノトス。

イ、砂糖消費稅(明治三四年三月法律第  
十三號其後數回改正)

政府ノ承認ヲ受ケ外國輸出ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニハ消費稅ヲ課セズ、此際必要アリト認ムルトキハ其消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得。而シテ其引取後六ヶ月以内ニ外國ニ輸出セル證明ナキモノハ内地消費ニ供セラレタルモノト看做シ消費稅ヲ徵收ス。但シ天災其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此限ニ非ズトセリ(第五條)

菓子及糖果ノ戻稅(明治四二年三月法律第十八號輸出  
菓子、糖果原料、砂糖戻稅其後改正)

消費稅ヲ課セラレタル砂糖ヲ用キ製造シタル菓子又ハ糖果ヲ外國へ輸出シタルモノハ其使用セル砂糖ニ對シ消費稅相當金額以下ノ金額ノ下附ヲ政府ニ請求スルコトヲ得トシ只左ノ如キ制限ヲ設ケタリ。

## a 輸出菓子及糖果ハ一回三百斤以上ニ限リ

## b 輸出港ハ横濱、神戸、大阪、長崎、門司ノ五港ニ限リ

## c 輸出後一年ヲ經過シタルトキハ請求ヲ爲スコトヲ得ズトセリ

## 戻稅率 含有甘蔗糖 百斤ニ付 金五圓

但シ假置場ニ於テ砂糖製造場ヨリ直接引取リタル砂糖ヲ以テ製造シタル菓子又ハ糖果ニ付テハ其ノ原料砂糖ニ對スル消費稅ニ相當スル金額トス。

煉乳ノ戻稅(明治四一年三月法律第二七號  
煉乳原料砂糖戻稅其後改正)

政府ノ承認ヲ得テ和蘭標本第十五號以上ノ砂糖ヲ以テ煉乳ヲ製造シタル者ハ消費稅ニ相當スル金額ノ下附ヲ請求スルコトヲ得但シ(a)毎回五百斤以上(b)使用後一年以内ニ限レリ。

ロ、織物消費稅(明治四三年三月法律第七號「織物消費稅」  
法」大正十五年三月法律第二二號改正)

綿織物以外ノ織物ニハ價格ノ一割ヲ消費稅トシテ賦課スルヲ原則トナセトモ外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セントスル織物竝ニ自家用ノ爲メニ製造シタルモノニハ之ヲ免除ス又消費稅ヲ既ニ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ消費稅額ニ相當スル金額ノ交付ヲ請求シ得ルコトトセリ。



ハ、骨牌稅(明治三五年四月法律第四四號「骨牌稅」  
法大正十五年三月法律第二〇號改正)

外國ニ輸出スル骨牌又ハ其見本ニハ骨牌稅(一組毎ニ麻雀ニ在リテハ三圓其ノ他ニ在リテハ五十錢)ヲ免除ス。

但シ免除ヲ得ンニハ(a)製造ノ際收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ骨牌ト區別シテ藏置シ、(b)之ヲ運搬セントスルトキハ運搬線路及運搬先又ハ輸出港ヲ定メ官吏ノ承認ヲ受ケ、(c)六ヶ月以内ニ輸出セサルヘカラストセリ。

(3) 政府專賣品ノ輸出

本邦政府專賣品ハ煙草、鹽及樟腦ノ三種ナリ。從前ハ專賣法施行地ニ於テ製造シタル煙草ヲ外國ニ輸出セル者ニ對シテハ輸出申告價格ノ二割ヲ交付シ又輸出向ノ鹽ハ低廉ナル特別定價ニ依リ賣渡シ、一般定價ニ依リテ賣渡シタルモノヲ輸出スルトキハ交付金ヲ支拂フコトトシ、只樟腦ノミニ付テハ世界的供給獨占品ナルカ故カ何等特別ノ規定ヲ有セザリキ。然ルニ其後煙草ニ就テモ輸出ノ場合ニハ特別定價ニテ賣渡スコトト改メタルカ故ニ現今ニ於テハ輸出交付金ト稱スヘキモノ全然存在セズ。國內消費ノ爲メ生産費以上相當高價ニテ賣渡スハ一種ノ消費稅ヲ六賦課スルト同様ナルガ故ニ輸出向ノ之等ノモノニ對シテ與フル交付金ハ勿論特別廉價販賣ヲナスモ亦一種ノ戻稅若クハ免稅制度ニ該當スルモノナリト云フベシ。

イ、煙草(明治三七年四月法律第十四號「煙草專賣法」其後改正)

政府又ハ其命令ヲ受ケタル者ニ非ザレバ煙草ヲ輸入スルコトヲ得ズ、又内地ニ於ケル耕作者ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ限り其收穫葉煙草ヲ買上ゲ之ヲ製造シ一定ノ代價ニ依リ元賣捌人ニ賣渡スコトトセリ、葉煙草又ハ製造煙草ヲ輸出ノ爲メ買受ケントスル者ニ對シテハ特定メタル低價ニテ賣渡シ又葉煙草ヲ買受ケ輸出ノ爲メニ製造セントスル者ハ特許ヲ得タル上一定地域ニ於テ煙草自由倉庫ヲ設ケ得ルコトトス。斯ク輸出ノ爲メ煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ帳簿ヲ作り必要ノ事項ヲ記入シ專賣局長官ノ指定シタル期間内ニ輸出免狀並ニ外國陸揚港ニ到着シタルコトヲ證明スベキ書類ヲ專賣局ニ差出スベキモノトス。輸出前他ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ禁ジタリ。若シ輸出ヲ中止スルトキ又ハ買受ノ日ヨリ一箇年ヲ過ギ輸出セザルトキハ使用ニ適スルモノニ限り賣渡價格以下ノ賠償金ヲ交付シテ政府之ヲ收納シ其他ハ之ヲ廢棄セシムルコトトセリ。

ロ、鹽(明治三八年一月法律第十一號「鹽專賣法」其後數次改正)

政府ガ賣渡ス鹽ノ代價ニ二種アリ。

- (1) 特別定價——外國輸出ノ場合
- (2) 一般定價——製造用、農業、鑛業、漁業用



一般人ガ一回一萬斤以上ノ大口ニテ買入ルル場合、元賣捌人ガ制限内ノ代價ニテ賣渡サルル場合等之ナリ。

一般定價ニテ買入レタル鹽ヲ輸出シ又ハ一定ノ原料用ニ供スルトキハ戻稅ニ類似スル次ノ如キ交付金ヲ支拂フモノトセリ。

一、内地產ノ輸出鹽

百斤ニ付 一圓十三錢

二、特定商品ノ製造用、獸皮保存用、鑛業用、鮭、鱒等ノ鹽藏用

同 一圓十三錢

三、其鹽ヲ以テ鹽藏シタル鯨、鯖、乾鰯、鰻又ハ乾鮑ヲ輸出シ又ハ專賣法ヲ施行セサル地ニ移出シタルトキ

同 一圓十三錢

(右三種ノ場合トモ臺灣鹽並ニ關東洲鹽ノ賣渡代價ハ前記ノ代價ヨリ三十錢乃至三十二錢高シ)

四、其鹽ヲ以テ製成シタル醬油ヲ輸出シタルトキ

一石ニ付 五十六錢

(但シ假置場ニ於テ製成シタルモノハ使用鹽數量ノ割合ニ依ル)

鹽ヲ外國ニ輸出セント欲スル者ニ對シ專賣局ハ一般定價ト特別定價ノ差額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得。輸出者ガ輸出ノ目的ニテ買受ケタル鹽ヲ輸出以外ノ用途ニ供シ又ハ供スル者ニ讓渡ス許可ヲ受ケタルトキハ專賣局ハ賣渡當時ノ數量ニ依リ一般定價ト特別定價トノ差額及其五分ノ一ニ相當スル金額ヲ追徵ス。輸出ノ爲メニ鹽ヲ買受ケタル者ハ買受ケノ日ヨリ六ヶ月以内

ニ輸出免狀又ハ輸出セルコトヲ證明スベキ書類、外國ニ陸揚シタルコトヲ證明スベキ書類ヲ賣渡

鹽專賣官署ニ提出スベキモノトス。明治三八年五月勅令

(第一五七號「專賣鹽特別定價賣渡及交付金下附規則」參照)

戻稅ニハ免稅制度ニ於ケル如ク脫稅ノ惧無ク外國製造業者ト同一地位ニ立タシメ其競争能力ヲ増加スレドモ亦種々ノ短所アリ、(イ)關稅行政上ノ困難、特ニ輸入原料品ヲ用キテ製造又ハ加工セルモノヲ輸出スル場合其輸出製品ニ對スル戻稅ヲ原料品ノ輸入稅ト合致セシムルコト頗困難ナリ。殊ニ製造技術上ノ進歩ハ一定量ノ原料品ニ對スル製品量ヲ絶エズ増加セシムル傾向アリ。從テ過當ノ戻稅ヲ下附スルコトトナリ。徒ラニ國庫ノ負擔ヲ大ナラシメ一種ノ隱匿輸出獎勵金タラシムルノ缺點アリ。内國產原料ヲ混用セシムルトキハ更ニ困難トナルベシ。(ロ)戻稅品選定ノ困難、外國產原料品ニ依ル輸出製造品ハ悉ク免稅若クハ戻稅ヲ爲スベキカ、特定種類ノミニ限ルベキカ全部ニ之ヲ許サバ行政上ノ煩ヲ多カラシメ一部ノミニ許サバ公平ヲ得ガタキ嫌アリ。内國稅ノ拂戻亦同様ナリトス。(ハ)戻稅ノ拂戻アル迄稅金額固定スル結果トナリ其レ丈ケ產業ノ發達ヲ阻害スベシ。要之戻稅ニ於テハ其品目ノ選定ヲ忽ガセニスルコトナク其原料ト製品トノ間ノ數量測定ヲ時々變改スルノ必要アリ。



## 第二節 輸出獎勵金 Export Bounties.

輸出獎勵ノ目的ヲ以テ一定貨物ノ輸出ニ當リ之ニ與フル補助金ヲ輸出獎勵金ト云フ、各種輸出獎勵方法中最高直接ナルモノナリ。蓋シ輸出セラルル商品ニ對シ一定ノ輸出獎勵金ヲ與フルトキハ夫レ丈ケ外國市場ニ於ケル競争力ヲ強メ他國競争品ヲ壓倒シ以テ輸出ヲ増加セシメ得ベケレバナリ。而シテ其結果ヨリ見ルトキハ輸出獎勵金ハ彼ノ輸出税ト全ク相反ス、何トナレバ輸出税ハ國庫ノ增收ヲ來スモ其レ丈ケ輸出品ノ價格ヲ高カラシメ輸出ヲ阻害スルコトナル、之ニ反シテ輸出獎勵金ハ國庫ノ負擔増加ヲ來セドモ以テ輸出ヲ増進シ得ベケレバナリ。然シ乍ラ此制度ヲ採用スルニ當リテハ同種輸入商品ニ對シテモ輸出獎勵金ト同額以上ノ輸入税ヲ賦課セザルベカラズ、然ラザレハ一旦獎勵金ヲ得テ輸出セラレタル商品逆輸入ガ頻繁ニ行ハルルニ至リ其效果絶無ニシテ只徒ラニ國庫支出ノ空費ニ終ルベケレバナリ。

抑モ斯ノ如キ獎勵金ノ沿革ヲ按ズルニ往時輸入ニ對スル獎勵金ガ行ハレタル時代アリシモ重商主義ノ勃興ニ伴レ各國共輸出ノ増進ニ腐心スルヲ原則トシ從テ輸出税ヲ賦課スルモノ稀ナルニ至レルト同時ニ輸入獎勵金ハ漸次行ハレザルニ至リ貿易上ノ獎勵金ト云ヘバ即チ輸出獎勵金ヲ意味スルニ至レリ。

輸出獎勵金ニモ二種ノ制度アリ、即チ其方法ニヨル區別ニシテ一ハ直接輸出獎勵金ニシテ他ハ間接輸出獎勵金之レナリ。前者ハ一定ノ輸出品ニ對シ直接ニ付與セララルモノナリ。往時重商主義旺盛ニシテ各國共ニ輸出獎勵ニ腐心熱中セル時代ニ盛ニ行ハレタリ。然シ乍ラ輸出獎勵金モ一國政府ガ直接付與スル此制度ニアリテハ、外、其對手國ノ反感ヲ招キ之レガ對應策ヲ講ゼシムルニ至リ其實效ヲ失フベク、内、一般國民ノ租稅及其他ノ國家收入ヲ以テ獨リ輸出業者ノミヲ利スル結果トナリ公正ヲ失スル嫌アルガ故ニ現今ニ於テハ殆ド行ハレズ、間接獎勵金トハ戻稅ノ名義ノ下ニ曩キニ徵收セル稅金以上ノ金額ヲ付與スルモノヲ云フ、前者ノ如ク外面ニ表ハレザルガ故ニ對手國ノ感情ヲ害スル虞ナク而カモ輸出獎勵ノ實ヲ收メントスルモノナリ、故ニ或ハ隱匿輸出獎勵金トモ稱セラレ。

更ニ又其付與者ノ區別ヨリ公的輸出獎勵金私的輸出獎勵金ニ分カタル。公的輸出獎勵金トハ一國政府ガ付與スルモノニシテ私的輸出獎勵金トハ「カルテル」其他同種企業ノ聯合等ガ其釀金中ヨリ付與スルモノヲ云フ、而シテ此兩者ノ行ハルル範圍ニハ自ラ區別アリ。即チ一般ニ幼稚產業生産品ノ販路開拓ニ關シテハ專ラ前者ガ行ハレ既成產業ノ過剩生産品處分ニ關シテハ主トシテ後者ガ行ハル



ルモノトス、我國ニ於テハ私的輸出獎勵金ノ行ハレタル例稀ナラズ明治二十三年以來大日本綿絲紡績聯合會ガ數次行ベル如キハ此實例ナリ。之ニ反シテ公的輸出獎勵金ノ制度ハ殆存在セズ、然シ政府專賣ヲ行ヘル煙草、鹽及鹽藏セル一定ノ魚類ノ輸出ニ當リテハ煙草專賣法、鹽專賣法ニヨリ其一定量ニ對シテ一定額ノ交附金ヲ受クルコトヲ規定ス、之等ハ恰モ一種ノ輸出獎勵金ノ如ク見ユレドモ之等ハ寧ロ戻稅ノ一種トナスヲ適當トナスベシ。蓋シ之等政府專賣品ノ一般定價ハ既ニ消費稅ヲ包含セルモノト看做スベケレバナリ。

之ヲ要スルニ輸出獎勵金ハ一面ニ於テ輸出ヲ促進シ以テ産業ヲ救濟シ若クハ之ヲ發達セシムル效果アルコト明カナレドモ他面ニ於テ各種ノ弊害アルヲ免レズ。例ヘバ我國綿絲輸出聯合會ガ行ヘル私的輸出獎勵金ノ如キ最初ヨリ四回迄ノモノハ或ハ輸出運賃ノ割引ニヨリ、或ハ低利爲替資金ノ給付ニヨリ、或ハ綿絲運賃割戻ノ利用等ニ待チタルガ故ニ內國消費者一般ニ對シテ之ヲ轉嫁スルガ如キコトナカリシガ第五回ノ方法ノ如キ如何ニモ表面上ハ各紡績會社ノ釀金ニヨリ輸出獎勵資金ヲ供シタリシモ其實際ニ於テハ各紡績會社ノ每捆五十錢乃至七十五錢ノ負擔ハ結局内地用綿絲ノ値上ゲニヨリテ補填セシガ故ニ其結果ニ於テハ一般內國消費者ニ損失ヲ與ヘ以テ獨リ自己ノ利益増進ヲ計ラントセルモノナル點ニ於テ彼ノ各自由市場ニ於テ屢々行ハルル Dumping ト更ニ選ブ所ナキナ

リ。當時本邦綿絲產額ハ約百萬捆ニシテ此內輸出向約二十三萬捆ナリシガ故ニ恰カモ五分ノ一ノ外國消費者ノ利益ノ爲メニ五分ノ四ニ當ル一般內國消費者ノ利益ヲ犧牲ニ供シタルモノナリトノ批難ヲ免レズ。斯ノ如キ私的輸出獎勵金ハ重大ナル社會問題ヲ惹起ス惧アリ。

私的輸出獎勵金ニシテ上述ノ如キ缺點アリ、況ヤ公的ノモノニ於テハ更ニ著シキモノアリ。彼ノ有名ナル砂糖獎勵金ノ如キハ此適例ト云フベシ。十九世紀初頭ニ於テハ歐洲ニ砂糖ノ產出ナク獨リ英國ガ亞弗利加及亞細亞ノ植民地ヨリ甘蔗糖ヲ輸入シ之ヲ精製スルノミナリシガ故ニ頗ル高價ナリキ、然ルニ一七四七年獨人 Mangrat ガ北歐產ノ甜菜中ニ糖分アルヲ發見シ漸次其搾取法ノ完成ヲ見ルニ至レリ。英佛戰爭中砂糖獨占ノ英國ヲ困ラシメントシテ佛國ガ甜菜糖業ヲ獎勵シ其勃興スルニ至ルヤ獨塊亦之ニ倣ヒ產額頗ル増加シ盛ニ輸出セララルニ至リシガ當時各國ノ戻稅制度不備ナリシ爲メ圖ラズシテ間接輸出獎勵ノ實ヲ舉グルニ至レリ。此結果一八五〇年ニ於ケル歐洲ノ甜菜糖ノ產額二十萬噸ニ過ギザリシモノ一九〇〇年ニハ六百萬噸ニ達シ世界砂糖產額ノ六八%ヲ占ムルニ至レリ、從來ノ甘蔗糖ハ大陸地方ニ於テノミナラズ海外市場ニ於テモ驅逐セララルニ至リタリ。茲ニ於テカ之等大陸諸國ハ、外英米ノ反抗ニ逢ヒ輸入稅ノ外ニ又相殺關稅ノ脅威ヲ受ケ、內國內消費者ハ外國消費者ヨリモ高價品供給ニ對スル反對論ヲ唱ヘ其ノ沸騰ヲ見ルニ至リ、同時ニ各國共國庫ノ負



擔益々重キヲ加フルニ至リタルガ故ニ遂ニ一八三六年ノ巴里會議以降十回ノ會議ヲ重ネ終ニ一九〇一年ノ「ブラッセル」會議ニ於テ所謂「國際砂糖條約」ノ締結トナリ一九〇三年九月一日以降直接タルト間接タルトヲ問ハズ一切ノ砂糖ニ對スル輸出獎勵金全廢ノ實施ヲ見ルニ至レリ。

結局スルニ輸出獎勵金ハ稍モスレバ自國一般消費者ノ利益ヲ害スル虞アリ特ニ過剩生産處分ノ場合ノ如キ一時的ニハ奏效ノ場合モアランガ稍長期ニ互ルヤ對手國ニ於テ忽チ相殺關稅ノ手段ニヨリ其效力ヲ相殺セラルル虞アリ。我國又關稅定率法第五條ニ於テ相殺條項ヲ設ケ豫メ對手國ノ輸出獎勵金付與ヲ防止セリ。而カノミナラズ近時ノ通商條約ニ於テハ輸出獎勵金ヲ制限シ或ハ之ヲ禁止シ或ハ其金額ノ當該貨物ニ對スル消費稅又ハ輸入稅ヲ超過スルヲ禁止スルヲ常トシ又輸出獎勵金又ハ戻稅交附ニ當リテハ内外人間ニ區別ヲ設クベカラスト約定セルモノ多ク、從テ輸出獎勵金ノ奏效スベキ場合極メテ稀ナルニ至レリト云ハザルベカラズ。

## 第十章 貨物輸入手續

### 第一節 貨物ノ意義及種類

一、輸入手續上ノ區別——輸入手續上ヨリ貨物ヲ外國貨物ト内國貨物トニ分ツ、之ハ其生産地等ニ

關係ナク、全ク輸入手續ノ完了セルカ否ヤノ區別ニシテ通常ノ意義ト異ル、苟モ輸入手續未済ノ貨物ハ悉ク之ヲ外國貨物ト稱シ例ヘ外國產ニテモ手續完了シタル貨物ハ皆内國貨物ト稱セラル。

(關稅法第(二九條))斯ノ如キ意義ニ於ケル外國貨物ハ無稅品ナルカ有稅品ナルカヲ問ハズ總ベテ稅關ニ對シテ輸入ノ手續ヲナサザルベカラズ、即チ稅關ニ申告シ貨物ノ檢査ヲ受ケテ輸入免狀ヲ得ザルベカラザルナリ。若シ此手續ヲナサズシテ貨物ヲ輸入シ又ハ輸入セントスルモノハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處セラル(關稅法第(七四條))、又關稅ノ通脫ヲ圖リ又ハ通脫シタル者モ稅金三倍相當ノ罰金又ハ科料ニ處シ貨物ヲ沒收セラル。其貨物ヲ運送、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタルモノハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處セラル(關稅法第(七五條))、故ニ密輸入ヲ爲スベカラザルヤ勿論ニシテ其嫌疑ヲモ受クルコト無キ様充分ノ注意ヲナサザルベカラザルナリ。外國貨物輸入ハ原則トシテ開港ニ限ル。只例外トシテ左ノ如キ海難ノ場合ニ限り不開港ヘ輸入スルコトヲ得。即チ

(イ) 遭難船舶ノ修繕、救援、又ハ救助ノ費用其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨センガ爲メ貨物ヲ賣却スルコト。

(ロ) 遭難船舶ニ積載セル損傷貨物又ハ腐敗シ易キ貨物ヲ讓渡スルトキ。

(ハ) 遭難船舶又ハ難破貨物ヲ輸入スルトキ。



(ニ) 遭難船舶ヨリ上陸シタル旅客ノ携帶品ヲ輸入スルトキ。

ニシテ此場合稅關官吏現場ニ在ラザルトキハ收稅官吏ニ申告シテ其檢査及免許ヲ受クベキコト

トセリ(關稅法第  
三一條)。

二、輸入目的上ヨリ左ノ如ク區別ス。

(イ) 消費輸入——内國ニ於ケル使用又ハ消費ヲ目的トスル輸入ニシテ其範圍最モ廣シ、此中ニハ有稅品アリ。無稅品アリ。同ジク有稅品ト云フモ國定稅率ノ適用ヲ受クルモノト協定稅率ノ適用ヲ受クルモノトアリ。無稅品ノ外免稅品モ亦大部分之ニ屬ス。

(ロ) 再輸入品——輸出後五ケ年以内ニ原形ノ儘輸入セラルル普通商品、輸出貨物ノ容器及難破船ニヨル積戻品等ナリ。

(ハ) 再輸出向輸入品——加工又ハ修繕ノ爲メニ一時輸入セラレ將來再ビ輸出セラルベキ性質ノモノナリ。

三、貨物ノ性質上左ノ如ク區別セラル。

(イ) 狀別貨物——(1)旅客携帶品、(2)小包郵便物、(3)畜牛、(4)植物、(5)火藥ノ如キ特別ノ手續ヲ要スルモノヲ云フ。

(ロ) 普通貨物——前述特別貨物ヲ除キタル一般貨物ヲ云フ、從テ之ニハ消費稅ノ賦課セラルル

モノト然ラザルモノトアリ。

以下主トシテ普通貨物ニ就テ説述セントス。

## 第二節 荷卸及陸揚

一、本船入港——輸入スベキ貨物ヲ積載セル外國貿易船ガ入港シタル後ニ非ザレバ手續ヲ開始スルコト能ハズ、本船入港シタル時ハ船長ハ先ヅ以テ入港ノ時ヨリ二十四日時間以内ニ稅關へ入港届ヲナシ、積荷目錄、艙口申告書、船用品目錄及ビ旅客氏名表ヲ差出シ、同時ニ船舶國籍證書及ビ仕出港ノ出港免狀又ハ之ニ代ハルベキ書類ヲ提出セザルベカラズ(關稅法第  
一〇條)、一般ニ外國貨物ヲ積載セル船舶ハ稅關長ノ許可ヲ得タル場合ノ外積荷目錄又ハ運送目錄ヲ提出シタル後ニ非ザレバ貨物ノ積卸ヲナシ得ザルモノトセリ。只旅客ノ携帶品及郵便物ヲ除外セルノミ。輸入貨物ノ荷受主ハ豫メ荷主ヨリ船積案内ヲ受クルノミナラズ、直接又ハ間接ニ船積書類ノ送附ヲ受クベシ。船會社モ本船入港ト同時ニ其旨ノ通知ヲ發スルヲ常トス。荷受主ハ之ニヨリテ直ニ輸入手續ヲ開始シ得ベシ。尤モ直接之ヲ行ハズ取扱回漕店又ハ稅關貨物取扱人ニ依頼スル荷受主ハ船積書類ニ裏書



ノ上貨物輸入ニ關スル手續一切ヲ委託スベキモノトス。

二、荷卸——本船ガ稅關ノ棧橋又ハ岸壁ニ横着セラルル場合ニハ本船備附ノ「ウキンチ」ヲ以テナシ得ルガ故ニ其荷卸ハ最簡易安全ナリ。之ニ反シテ本船ガ「沖繫カリ」即チ沖合ニ碇泊セル場合ニハ先ヅ舢舨ニ移シタル後陸揚ゲヲナサザルベカラズ。之ヲ俗ニ「舢舨取り」或ハ「沖取り」トモ云フ。此場合ニハ稅關ヨリ本船ヘ派出セラレタル仕役稅關吏ニ舢舨ニ積込ミタル貨物ノ個數、記號、番號、品種等ヲ記載セル船票 Boat Note ヲ呈示シテ貨物ノ記號、個數、數量、仕向地及ヒ取扱人ノ氏名等ヲ記載セル陸揚傳票 Landing Slip ヲ受取り、舢舨夫ヲシテ之ヲ陸揚場ニ於ケル檢査課ノ官吏ニ提出セシムベシ。然ルトキハ同官吏、舢舨ニツキ調査シタル上陸揚場所ノ指定ヲナスベキヲ以テ其場所ヨリ陸揚ヲナスベキモノトス。

但シ爆發物、燃燒質ノモノ、石炭等ニアリテハ棧橋又ハ岸壁ヲ使用スルコトヲ得ズ。又揮發油、爆發物其他ノ危險物ハ特ニ指定セル場所以外ニハ陸揚ヲ許サズ。船卸陸揚ハ共ニ日出ヨリ日没マデノ間ニ限リ又稅關ノ休日ニハ特許料ヲ納メ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外之ヲ行フコトヲ得ザルコトトナセリ。

汽船會社ハ一般ニ各自專屬ノ陸揚代理人 Landing Agent ヲ選定シ置キ之等ハ亦夫レ夫レ專屬ノ

常雇荷扱人夫ヲ有スルガ故ニ荷主ノ直接「沖取り」ハ他種貨物ト混荷ノ虞アリトノ理由ニテ嫌フヲ常トス。而シテ汽船會社ハ船荷證券ト積荷目錄ト對照ノ上荷印ヲ初メ品目、數量等ニ誤ナシト認メタルトキハ、之ト引換ヘニ荷渡指圖書 Delivery Order: D/O ヲ交付シ荷受主ハ之ヲ本船ニ提供シテ解取リヲナシ得ベシ。

### 第三節 輸入手續ノ順序

一、輸入申告——貨物輸入ニ當リテハ稅關構内販賣ノ輸入申告書 Declaration for Importation 書式ニ個數、品名、品質、用途、數量、價格、署名等必要ナル事項ヲ記載シ、之ニ仕入書 Invoice (明細書 Specification アラバ更ニ檢査ヲ容易ナラシム) ヲ添附シテ總務課申告係ニ差出シ、其指揮ニ從フベキモノトス。又協定稅率ノ適用ヲ受ケントスルトキハ別ニ製産原地證明書 (Certificate of Origin) ヲ添附セザルベカラズ。但シ小包郵便ナルトキ若クハ課稅價格百圓未滿ナルトキハ添附ヲ要セズ。

仕入書ヲ添附セザレバ後日ニ至リ稅關官吏ノ鑑定價格ニ不服アルモ稅關長ニ異議ヲ申立テ又ハ大藏大臣ニ訴願ヲナスコトヲ得ザルモノトス。但シ之ヲ添附シガタキ特別ノ理由ヲ認メタル場合ヲ



除外セリ。

二、検査——右申告ヲ輸入係ガ受理セルトキハ船長ヨリ豫ネテ提出セル積荷目録 Manifest ト照合ノ上相違ナケレバ輸入申告簿ニ申告事項ヲ登録シ申告番號ヲ附シ同時ニ申告書添附ノ符箋ニモ同一番號ヲ記載スル外、検査スベキ貨物ノ個數又ハ番號ヲ指定シテ申告者ニ之ヲ交付シ申告書ハ直ニ検査課ヘ廻付スルモノトス。申告者ハ交付ヲ受ケタル此符箋ニヨリ申告書番號竝ニ検査ヲ受クベキ貨物ノ指定番號及個數ヲ知り直ニ上屋其他貨物所在地ニアル指定貨物ヲ取纏メテ検査場ヘ搬入シ検査官吏ニ番號ヲ告ゲテ其検査ヲ受ケザルベカラズ。

一旦検査開始後ハ如何ナル理由アルモ申告書ノ訂正増補ハ許サレザルガ故ニ豫メ提出ノ際充分調査照合シ置クコトヲ要ス。關稅法第 二五條萬一検査官吏ニ誤謬ヲ發見セラルコトアラバ或ハ關稅通脫ノ嫌疑ヲ招クコトナシト云フベカラズ。關稅法第 七五條斯カル際ハ手續更ニ煩雜ナルベシ。

検査課ニ於テハ輸入係ヨリ廻附セラレタル申告書ニヨリ検査場内搬入ノ貨物ノミニヨリテ検査ヲナス事ガ原則ナレトモ必要ト認ムルトキハ、指定セザルモノヲ検査スルコトアリ。然シ乍ラ貨物ノ種類ニヨリテハ搬入又ハ陸揚困難ナル場合ナキニ非ズ。例ヘバ散荷ノ鐵、鑛石、石炭ノ如キモノ又ハ容積、重量著シク大ナル物ナル時ハ船内又ハ舢舨内ニテ検査ヲナスコトアリ、又荷主ノ希望ニヨ

リテ稅關構外又ハ指定地外ニ陸揚ゲセントスル時ハ其場所ヘ出張検査ヲナスコトアリ。

其貨物ガ重量稅品ナル時ハ申告書記載ノ重量、容積又ハ尺度數ト現品トヲ照合検査ヲナス、此ノ際價格ノ鑑定ニハ重キヲ置カズシテ、只輸入貿易統計上ノ資料タラシムルニ止マル、之ニ反シテ從價稅品ニアリテハ價格鑑定ノ點ニ重キヲ置キ萬一仕入書無キカ或ハ疑アル時又ハ申告價格不當ナリト認ムル時ハ検査遷延スルコト通常ナリ。又稅率適用ニ當リテ分析ヲ要スルモノ例ヘバ酒精含有飲料、交織物ノ如キハ相當時日ヲ要スル事勿論タルナリ。

三、納稅及引取——検査課ニテ検査終了セル時ハ貨物ニ検査済ノ印ヲナシ検査ノ實績ヲ申告書裏面ニ記載シ總務課審査係ヘ廻附ス、同係ニテハ検査鑑定ノ結果及ビ稅率適用ニ付キ照合調査ヲナ尙仕入書、製産原地證明書、其他ノ附屬書類ノ全般ニツキ一切ノ審査ヲ了シ免稅品ニ對シテハ直ニ免狀交付ノ手續ヲナス。

有稅品ニ就キテハ之ヲ同課徵收課ヘ廻附ス、同係ニテハ申告書記載ノ價格又ハ數量ニヨリ稅金額ヲ査定シ、然ル後測定原簿ニ記載シ直ニ納稅告知書ヲ申告者ニ對シ發スルモノトス。

萬一検査ノ結果ト仕入書及ビ申告書記載ノ事項ト符合セザル時ハ其旨ヲ申告書ノ裏面ニ記載シ且ツ申告者ニ通知スベキガ故ニ申告者ハ之ニ對シテ辯明セザルベカラズ。既ニ納稅告知書ヲ受取リタ



ル申告者ハ其稅額ヲ稅關構内ノ日本銀行派出所ヘ納付ノ上領收證ヲ得テ徵收係ヘ差出ス時ハ引換ヘニ輸入免狀ノ交付ヲ受クルモノトス。右輸入免狀ノ交付ヲ受ケタル申告者ハ通關申告書ニ必要事項ヲ記入シ上屋使用料相當ノ收入印紙ヲ貼付シ消印スル事ナク免狀ト共ニ監視部貨物係ヘ差出シテ通關許可證ノ交付ヲ受ケ、初メテ引取ノ手續ヲナシ得ベシ。

斯クテ免狀記載事項ト現品ヲ對照シテ相違無シト認メタル時ハ貨物係ハ稅關吏ヲシテ貨物ニ檢印ヲナサシメ、只其貨物ガ鐵管、軌條、木材、動物等ノ如ク檢印シ難キモノナル場合ニハ檢印證ヲ交付スルモノトス。

無稅品ノ場合モ免稅品ト同様、審査係及輸入係ガ一應調査シタルノミニテ輸入係ヨリ直チニ輸入免狀ヲ交付ス。

四、減稅——海難ノ爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ途中損傷ヲ被リタル貨物ハ其程度ニ應ジテ減稅ヲ請求シ得レドモ一旦納稅ヲ了シ輸入免狀ヲ得タル貨物ニ對シテハ絶對ニ之ヲ許サズ。サレバ豫メ現品ニツキ損傷ノ有無ヲ調査シタル上輸入申告ヲナスベキモノトス。

五、返稅——納稅後正當ノ理由ニヨリ稅金ヲ返戻スル場合アリ。左ノ如シ。

(1) 過誤納 賦課稅率ノ適用ニ誤アリ過納セルコトヲ發見シタル時ハ其旨ヲ申告シ過納金ノ返付

ヲ請求スル事ヲ得、時効二ケ年ナリ(關稅法第八條)。

(2) 不着返稅 輸入申告納稅濟ノ貨物ノ一部ガ未着ノ場合ニハ輸入免狀ニ監視部倉庫係ノ證明ヲ受ケタル上其稅金ノ返還ヲ請求スルコトヲ得。

斯カル返稅ニ關シテハ一定書式ナキガ故ニ輸入免狀ニ關係書類ヲ添附セル請求書ヲ總務課免稅係ヘ提出スベキモノトス。

六、免許前ノ引取——一般ニ輸入貨物ハ免許ヲ得タル後初メテ引取り得ベキコト前述ノ如シ。然シ乍ラ輸入者、納稅其他ノ手續ノ爲メ商機ヲ逸セザランガ爲ニ、或ハ課稅處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲シタルモ、他方急遽貨物引取ノ必要アル場合ニハ「輸入免許前引取申請書」ヲ總務課免稅係ニ提出シ同時ニ稅金相當ノ金錢ヲ擔保トシテ金庫ニ供託シ其受領證ヲ同係ニ差出シ「假免許」ヲ得タル上其引取ヲナスベキモノトス。貨物ノ一部分ノミヲ分割引取ノ場合モ之ニ準ズ。又製産原地證明書ガ已ムナキ事由ニヨリ未着ナル場合ニモ亦國定稅率相當金額ヲ供託シタル上免許前ノ引取ヲ許ス。而シテ相當期間内ニ右證明書到着ノ上初メテ正式ノ課稅ヲ受ケ然ル後供託金ノ返還ヲ請求シ得ルナリ。



#### 第四節 輸入申告書ト附屬書類

##### 一、輸入申告書 Declaration for Importation

夫レ夫レ相當欄ニ必要事項ヲ記入スベキモノニシテ、異式又ハ不備ノモノハ受理セズ、從テ通關遲延ス可キガ故ニ記載事項ニ誤謬遺漏ナキ様注意スベシ。

(1) 員數——貨物ノ種類ニヨリ、荷造ニヨリ夫レ夫レ別口トシテ申告スルヲ可トス。勿論種類異リ荷造不同ノモノヲ一葉ノ申告書ヲ以テ申告スルコトヲ得レドモ、斯克テハ萬一其一部陸揚未濟ノ場合ノ如キハ他品モ亦同時ニ検査ヲ受クルコト能ハザルベク、又種類、荷造ノ相違ニヨリ一部検査遲延スル爲メ全部ノ手續遲延スル如キ惧アレバナリ。

(2) 要件——輸入申告書用紙ハ稅關構内ニテ販賣セルモノヲ用フレバ可ナリ。之ニ記載ス可キ法定要件ハ積載船舶名稱、國籍、船荷證券番號、積出地、仕入地、産出地又ハ製造地、荷造外面ノ記號番號、包裝ノ種類及個數、品名、數量、價格ナリ。尙右ノ内重要ナルモノノ要點ハ左ノ如シ(關稅法施行規則第三七條)。

(イ) 品名——相當稅率ノ適用ヲ受ケンガ爲メニ且ツ稅關ニ於ケル貿易統計ノ便宜ヲ計ル必要

上輸入稅率表ノ分類ニ應ジタル記入ヲナサザルベカラズ。然ラザレバ検査上ノ手數多ク手續遲延ノ惧アリ。而シテ品名ノミニテ其品質明カナラザルモノハ細別ヲ要ス。例ヘバ礦油、菜種油、魚油ニテモ只理學品トセズ。其比重、濃度等ヲ記載スルガ如シ。布帛——綿製、絹製、毛織又ハ綿毛交織等トナシ。金屬——鐵製、鋼製、銅製トシ。砂糖——蘭標番號及ビ其種類、落花生——穀附カ脫穀セルモノカノ區別ヲナスガ如シ。

又同一品種ニテモ用途ニヨリ稅率ノ適用ヲ異ニスルモノアリ。サレバ「インク」ニテモ印刷用石版用、筆記用トシ、機械部分品——紡績機械部分品、印刷機械部分品ト區別スルガ如シ。斯カル注意ハ輸入手續ヲ容易迅速ナラシムルモノナリ。

(ロ) 數量——ハ從量稅ノ基準トナルノミナラズ。又其性質及ビ種類ヲモ明白ナラシムル資料タリ。商慣習上ノ單位併記ヲ妨ゲザレドモ關稅定率所定ノ單位ハ必ず記載スベキモノトス。例ヘバ毎斤、又ハ毎百斤ガ課稅單位タル物ハ斤ヲ以テ記載シ「リートル」ガ課稅標準タルモノハ「リートル」ヲ以テ記載シ、毎百「ガロン」ヲ標準トスル物ハ「ガロン」ヲ以テシ「打」ヲ課稅單位トスルモノハ「打」ヲ以テ示スガ如シ。硝子板ノ如ク毎百平方「メートル」ヲ單位トスルモノハ長サ及幅ヲ表示シ同時ニ平方「メートル」ヲモ併記スルヲ可トス。尙換算ス



ベキモノハ度量衡法規ノ率ニヨリ、之ナキモノハ商慣習上ノ率ニヨルベキモノトス。

(ハ) 價格——輸入ノ際ニ於ケル時價ニヨリ一定ノ爲替相場ヲ以テ換算セル邦貨額ヲ記入スベシ。

(3) 署名——申告書ニハ申告者自身署名スベキモノナレドモ署名シ得ザル場合ニハ捺印ヲ以テ之ニ換ヘ得ベシ。而シテ常ニ稅關手續ヲナス者ニアリテハ其印鑑ヲ届ケ出ヅベク代理申告ノ場合ニハ會社ハ其代理者、個人ノ場合ハ其代理人ノ氏名ヲ届ケ置キ又常ニ通關事務ニ當ラシムベキ使用人ヲ定メタル時又ハ解雇シタル時モ届出ヅル事ヲ要ス。

## 二、仕入書

(1) 意義——輸入申告者ハ必ず仕入書ヲ添附セザルベカラズトセリ(關稅法第(三二條))。但シ稅關官吏ガ之ヲ附シ得ザル正當ノ理由アリト認メタル時ハ仕入書ヲ附セザルコトヲ得ルコトトシ、之以外ノ場合ニ缺如セル時ハ後日異議ノ申立ヲ爲スコト能ハザルコトハ前述ノ如シ。茲ニ所謂仕入書トハ一般商業送狀ニ相當スレドモ關稅法施行規則第三七條ニハ「輸入申告書ニ添附スベキ仕入書ハ貨物ノ仕入國ニ於テ作成シ貨物ノ賣渡人ノ署名アルモノナルコトヲ要ス」トアリ、抑仕入書トハ貨物ノ賣人ガ作成シ買人ニ交付スル一種ノ形式證書面ナレドモ法律上必シモ作成交付ヲ強

制セラルルモノニ非ズ。然シ乍ラ實際上所謂仕入書ハ荷送人ガ荷受人ニ宛テテ發行スルヲ常トス。從テ其荷送人ハ賣人タルコトアリ、仲立人タルコトアリ、問屋ナル事アリ、支店又ハ代理人タルコトアリ。然ルニ「現行關稅法第三七條ノ二」ニハ「輸入申告書ニ添附スベキ仕入書ハ貨物ノ仕入國ニ於テ作成シ貨物ノ賣渡人ノ署名アルモノナルコトヲ要ス」トアリ。要スルニ賣渡送狀ノミガ仕入書トシテ有效ニシテ前述本支店間ノ送狀、委託販賣送狀ノ如キハ嚴密ニ云ハバ仕入書トナシ得ザルモノナリ。從テ斯カル際ニハ別ニ原生産者若クハ原販賣者ノ送狀 (Maker's Invoice: Original Invoice) ヲ添附スベキモノトス。而シテ 渡人ノ署名トアルハ完全ナル署名ヲ意味シ會社ナラバ其代理者ノ署名ヲ要トシ略署名ニテハ不可ナリ。

(2) 仕入書記載事項——法定ノ要件タル仕入地名及ビ賣渡人ノ署名ノ外、品名、數量、記號、價格、仕入地、發送月日、諸掛、船名、宛名等ノ外、商慣習ニヨリ必要ナル事項ノ記載アルヲ常トス。就中、數量及價格ハ課稅ノ基準タルベキモノナルガ故ニ特ニ明確ナルヲ要スルノミナラズ、稅率表記載ノ品質及ビ數量ニ準據シテ記載スルコト最モ便利ナリ。蓋シ稅率表ノ數量ト合致セザル數量、品質ニヨリテ表示セラルル時ハ全部開裝検査ヲ爲スコトアリ、爲メニ通關手續ノ著シキ遅延ヲ來スコトアレバナリ。



(3) 仕入書添附ノ目的——稅關ガ輸入商ヲシテ申告書ニ仕入書及ビ其他ノ書類ノ添附ヲナサシムル所以ハ虛偽申告ノ防止ニアリ。然シ實際ニ於テハ特別ニ通關用送狀ヲ作成添附スル場合少カラズ。而カモ我邦關稅法ハ虛偽ノ申告又ハ虛偽ノ書類添附ニ對シテモ別段ノ制裁規定ナシ。今主タル外國ノ規定ヲ舉グレバ、英國ニテハ稅關ハ申告ノ際輸入商ヲシテ船荷證券、送狀若クハ其他ノ關係書類ヲ提出セシメ得ルコトトシ、又申告後十二箇月以内ハ何時ニテモ之等ノ書類ヲ要求シ得ト規定セリ。又虛偽ノ申告ヲナシ虛偽ノ書類ニ署名シ、尋問ニ對シ不誠實ナル答辯ヲナシ虛偽ノ書類ヲ作成シ且ツ之ヲ使用セル者ハ百磅ノ科料ニ處ストセリ。米國ニテハ價格米貨百弗以上ノ貨物ニハ常ニ之ヲ添附セシメ、且ツ輸出國駐在ノ米國領事ノ證明ヲ要スルモノトシ虛偽申告ノ場合ニハ五千弗以内ノ科料及ビ二年以内ノ禁錮ニ處シ且ツ商品ヲ沒收スルコトトセリ。但シ一九三〇年八月十六日新關稅法實施以來生絲、綠茶ノ如キ無稅品及簡易扱ノ検査ヲ受クルモノ、竝ニ重量稅ニヨルモノハ領事證明送狀添附ヲ要セザルコトトナリタリ。南米諸國中ニモ領事證明送狀ヲ提出セシムルモノアリ。然シ斯ク領事ノ證明ヲナサシムルモ領事館ノ書記生ハ商品ニ關シテハ門外漢タルヲ常トシ、商人ノ申告ニ從ヒ其儘證明スルコト通常ニシテ實效乏シキモノトス。サレバ之ニ對シテ改正案ヲ唱フルモノアリ、即チ稅關ノ評價方法ノ改正、

輸入商ノ帳簿及ビ其他書類ノ隨時検査及ビ違反者ニ對スル制裁ヲ峻嚴ナラシメ、以テ商人ノ申告ノミニヨルベシトナスモノ之ナリ。然シ乍ラ之モ實行ニハ種々ノ不便アリ、結局ハ一般商業道德ノ進展ニ待タザルベカラザルモノトス。明細書、申告書添附ノ仕入書ノ記載ガ詳密ナルトキハ其必要ナケレドモ貨物ノ性質上仕入書ノミニテ不充分ナルトキハ明細書ヲ添附スルヲ便宜トス。蓋シ豫メ指定セル貨物ノ開裝検査ヲナスニ當リ明細書記載ト合致スレバ検査容易ニ終了スベケレバナリ。

### 三、製產原地證明書 Certificate of Origin

輸入有稅品中協定稅率ノ恩典ニ浴セントスルモノハ必ズ其添附ヲ要ス。但シ郵便物竝ニ價格百圓以下ノモノハ此限ニ非ズトシテ除外セルノミ、協定稅率ノ適用ヲ受クベキ地域ハ一定セリ。從テ輸入貨物が其地域内ノ生産品又ハ製造品ナルコトヲ證明セザルベカラズ。而シテ其證明書ハ相當權限アル者ノ作成セルモノナルコトヲ要ス。即チ生産地、製造地、仕入地若クハ積出地ノ帝國領事館若クハ貿易事務官（之等ノモノ無キトキハ其地ノ稅關其他ノ官署、公署又ハ商工業會議所）ノ作成セル證明書ナルコトヲ要ス。其記載事項ハ貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量及ビ產出又ハ製造ノ地域ナリトス（關稅法施行規則（第一條第二條））。協定稅率アル國ノ生産品ニテモ製產原地證明書ナキカ、



之アルモ其記載事項不備ナルカ、若クハ稅關ニ於テ不正當ト認ムルトキハ協定稅率適用ノ利益ヲ享クルコト能ハザルナリ。前記規定ニヨリ本邦領事館若クハ商務書記官駐在地ニアリテハ其他ノ稅關又ハ商工業會議所ノ證明書ハ效力無ク、又名譽領事若クハ公證役場ハ證明ノ資格ナキモノトス。尙價格百圓以内ノモノハ不要トナスモ同一船舶積トシテ同一地方ヨリ同一種類ノ貨物ヲ輸入スル時ハ各口ノ合計額百圓以上ナラバ製產原地證明書ヲ要トス。即同一貨物ヲ數口ニ分割スルモ此手數ヲ免ルルコト能ハザルナリ。又一包裝中ニ協定稅品ト然ラザルモノトアルトキハ其協定稅品ノミノ合計額ヲ意味スルモノトス。英領殖民地ハ母國ニ對スル特惠稅率ノ適用アル場合ニノミ之ヲ要ストシ、伊太利ハ我邦同様ノ規定ヲ有シ、佛國ハ最低稅率適用品中ノ特種品、例へバ銅線、鋼、銑鐵、牛、馬、油脂及ビ殖民地產物等ニ對シテノミ之ヲ要スト定メタリ。

#### 四、其他各種ノ注意

(イ) 輸入稅ハ一口一口現金ニテ納付セズ、豫メ國庫金取扱銀行又ハ其取引銀行ニ預託シ置キ其引出ノ形式ニヨリ納ムル方手續簡易迅速ナリ。

(ロ) 上屋使用料ハ納稅告知書發行前豫メ計算シ置キ輸入免狀ノ交付アルト同時ニ納入スベキモノトス。

(ハ) 納稅終ラバ直ニ貨物ノ引取ヲナスベシ。然スレバ以テ上屋使用料ヲ節約シ得ベク又陸揚後七日ヲ經過スルトキハ貨主ノ費用及危險ヲ以テ收容スルコトヲ得ル旨ノ規定アリ(關稅法第四六條)。之ニ對シテ其適用ヲ免レ得ベシ。

而シテ之ガ爲ニハ申告書及附屬書類ヲ豫メ整然トシテ準備シ置キ本船ガ稅關へ入港届ヲ提出スルト同時ニ申告ヲナシ貨物ノ陸揚ニ注意シ陸揚ガ終リタル後直ニ指定貨物ヲ検査所へ搬入シテ其検査ヲ受ケ納稅ノ上免許ヲ得ベキモノトス。

### 第五節 旅客携帶品及郵便物

一、旅客携帶品——ニ限リ口頭申告ヲナシ得ベシ。又船長ガ稅關へ積荷目錄ヲ提出セザル以前ニ於テモ船卸ヲ爲シ得ルモノトス。尤モ旅客用品ニテモ自ラ携帶セズ、他船舶ニ積載セラレ其到達期遅ルル場合ニハ此特典ニ浴セザルコトアリ。

旅客携帶品ハ總ベテ監視部旅具検査場ニ於テ當該官吏立會ノ上必要ニ應ジテ開裝検査ヲナシ有稅品ニ對シテハ直ニ稅金ヲ徵收シテ領收書ヲ交付スルト同時ニ貨物ニハ白墨ヲ以テ検査終了ノ符號ヲ記シ之ヲ門鑑吏ニ示シテ引取り得ルモノトス。



旅客携帶品トハ(イ)旅客用品、及ヒ(ロ)旅客ノ職業上必要ナル器具ノ二種ヲ云ヒ旅客ノ地位相當品ニ限リ免稅セラル。サレバ稅關ニテハ其品種、數量等ヲ内規ニテ一定セリ。神戸稅關ノ内規ニヨレバ、

(イ) 衣服、襪衣、手套、靴下、帽子、靴、手巾、其他ノ類似品

(ロ) 懷中時計、傘、杖、腕飾、指輪、髮飾、煙草入、手拭、机掛、文房具、自動車、短銃、獵銃、樂器、玩具等。

(ハ) 化粧具、寫真器、望遠鏡、雙眼鏡、船用椅子、食料籠、食器、旅用藥材、皮櫃、毛皮等。

(ニ) 食物、飲料、各種ノ酒類(但シ各種類ニ「バイント」以下) 煙草(但シ刻煙草十三「オンズ」以下) 葉卷煙草(五十本以下) 紙卷煙草(百本以下) 嚙奴草(三十匁以下)

トナスカ如シ。

二、小包郵便物——郵便局官吏ハ本船入港ト同時ニ小蒸汽船ヲ以テ本船ニ至リ小包貨物ヲ受取り郵便局ヘ之ヲ護送シタル上稅關ヘ通知シテ検査官吏ノ出張ヲ求メ立會ノ上検査ヲナシ有稅品ナルトキハ品名、數量、價格、稅率及ヒ課稅金額等ヲ記入シタル通知書ヲ作り同郵便局ヘ交付ス。同局ニテハ之ニヨリ別ニ輸入稅金額及ヒ消費稅アルモノニ付テハ之ヲモ記入セル小包到着通知書ヲ名

宛人ニ發送スヘシ。名宛人ハ通知ノ日ヨリ二十日以内ニ稅額相當ノ收入印紙ヲ該通知書ニ貼付シテ同郵便局ヘ差出シ其小包ヲ受取ルベキモノトス。外國小包郵便ノ手續ハカク簡單ナレバ逐年増加シツツアリ。此場合若シ稅額ニ不服アラバ稅關ニ對シテ先ヅ異議ノ申立ヲナシ然ル後其旨ヲ關係郵便局ヘ届出デ判定アリタル時ハ其書類ヲモ呈示スベシ。訴願又ハ行政訴訟ノ場合モ略同ジ。小包ハ郵便局ナル他ノ官廳ニヨリテ行ハレ其處理急ヲ要スル場合アルガ故ニ其取扱通常貨物ト異ル點アリ。即チ郵便局ハ通常ノ規定ニヨラズ本船入港スルトキハ積荷目錄提出前ト雖モ積卸ヲナシ得ベク、又製產原地證明書ナクトモ協定稅率ノ利益ニ浴スルコトヲ得ベシ。自用品又ハ寄贈品ナルトキモ免稅セラレズ、又返送品ナルトキハ輸出免狀其他ノ證明書ヲ當該検査官吏ニ提出シ其認可ヲ得テ免稅セラルルモノトス。

### 第六節 其他ノ特別貨物

#### 一、動物、植物、火藥ノ輸入

(1) 畜牛——外國ヨリ輸入又ハ朝鮮ヨリ移入スル畜牛ニ對スル結核病検査ハ横濱、神戸、長崎、大阪、門司、函館、敦賀其他ノ諸港ニ於テ稅關ガ之ヲ行フ。法規改正前(大正十三年十二月)ハ府縣港務部又ハ



臨時海港検査所ニ於テ検査事務ヲ行ヒ、申告者ハ之等ノ發行セル検査證明書ヲ申告書ニ添付シテ輸入手續ヲナシタリ。

(2) 植物——栽植、培養ノ用ニ供スルモノ種子、地下莖、及根ニシテ繁殖ノ用ニ供スルモノ、柑橘ノ果實、馬鈴薯ヲ輸入スル場合、税關植物検査官吏ノ検査ヲ受ケザルベカラズ。又米國ヘ向ケ輸出セラルル之等ノ或ルモノニ就テハ同官吏ノ證明書ヲ要ス。

(3) 火藥——銃砲及火藥類ハ行政廳ノ委任若クハ許可ヲ受ケタル者ニ非ザレバ輸入スルコト能ハザレドモ火藥商ハ之ガ輸入ヲ爲ノ得ベシ。但シ行政官廳ハ保安軍事及外交上ノ必要アル時ハ何時ニテモ其輸入(又ハ輸出)ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得ルモノトス。而シテカカル許可ヲ受ケントスル者ハ輸入港管轄ノ地方長官ニ申請シ、軍用ノモノニアリテハ上述地方長官ヲ經由シテ更ニ内務大臣及ビ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ申請スベキモノトス。

## 二、免稅品ノ輸入

(1) 再輸入品——タルモノハ、(一)輸出シタル物品ニシテ五ヶ年以内ニ原狀ノママ輸入スルモノ、但シ原狀ノママニ非ズシテ修繕ノ爲メ輸出シタルモノヲ五ヶ年以内ニ輸入シ免稅ノ特典ニ浴セントスルニハ輸出ノ際其申告書ノ備考欄ニ輸出ノ目的、再輸入ノ場所及期限ヲ記入シ、申告書ノ外

貨物ノ寫眞、見本「スケッチ」等ヲ税關ニ提出シ置クコトヲ要ス(關稅法施行規則第三四條) (二)輸出貨物ノ容器

中特ニ指定シタルモノ。(三)本邦ヨリ出港セル船舶ニ搭載シタル難破貨物、ノ三種タルコトハ既

ニ第十章第一節ニ述ベタルトコロナリ。之等ノ貨物輸入ニ當リ免稅ノ特典ヲ得ントスルトキハ、輸入申告ノ際、輸出免狀又ハ之ニ代ハルベキ税關ノ證明書ヲ提出セザルベカラズ、但シ税關ニ於テ是等ノ書類ヲ提出スルコト能ハザル相當ノ理由アリト認ムルモノニ限り他ノ證憑書類ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ルモノトセリ(關稅法施行規則第三九條)。

若シ前記(一)ノ免稅ヲ得ントスル貨物ガ外國產ナルトキハ輸出ノ際申告書ニ輸出ノ目的再ビ積戻スコト及ビ再輸入ノ場所ヲモ記載ス可キモノトス其後再輸入ノ場所ヲ變更シタルトキハ之ヲ輸出シタル税關ニ届出デザルベカラズ(關稅法施行規則第三四條一、二、三項)。

(2) 再輸出品——關稅定率法第八條第二號乃至八號規定ノ貨物即チ輸出貨物ノ容器、修繕、學術研究ノ爲メニ輸入スル物品、試験品、見本品トシテ輸入シ一年以内ニ輸出セントスル者ハ輸入申告書ニ輸入ノ目的及輸入港名ヲ記載シ、明細書アラバ之ヲ添付シテ提出スベシ、カクテ申告書受理セラレタルトキハ普通貨物ト同様ノ順序ヲ以テ再ビ總務課ニ廻付セラレ、同課ニテ書類ヲ調査シタル上擔保金額ヲ輸入者ニ告示スベシ。輸入者ハ之ヲ國庫金取扱銀行ニ供託シ其受領證ヲ同課免



許係へ差出シ輸入免狀ノ交付ヲ受クルモノトス。貨物引取ノ手續モ亦普通貨物ト異ラズ右貨物ノ輸出ニ當リ輸入申告書記載港(通常ハ輸入セル港)ヲ變更セントスルトキハ其旨書面ニテ輸入港稅關ニ届出テ輸入港稅關ヨリ輸出港稅關へ擔保受領證其他ノ書類ヲ送付シ得シメザルベカラズ。然ラザレバ輸出港稅關ニテハ其輸入ノ目的不明ナルノミナラズ亦擔保受領證モナキガ故ニ擔保ノ拂戻ヲ受クルコト能ハザルベシ。

(3) 加工輸入品——トシテ織物等ヲ輸入セントスル者ハ輸入申告書品名欄ニ輸入ノ目的、加工ノ種類、加工者ノ氏名ヲ附記シ且ツ仕入書及ビ明細書ヲ添付スルヲ可トス擔保ヲ供託セシムルコトハ前掲再輸出品ト異ルコトナシ。而シテ其加工後之ヲ輸出センニハ必ズ輸入シタル開港ヨリスベク乙號輸出申告書ニ加工者ノ作りシ加工證明書、輸入ノ際提出セル仕入書竝ニ明細書ヲ差出シ、檢査ヲ受ケ輸出免狀ヲ得タルトキハ本船仕役官吏ヨリ船積ノ裏書ヲ得テ之ヲ總務課ニ提出シ擔保解除ノ請求ヲナスベキモノトス。

(4) 免稅品——輸入ニ當リテハ其旨ヲ申告書ニ記入スベク、且ツ稅關認定ノ資料トシテ相當ナル證明書ヲ要求セラルル場合アリ。其準備ヲナシ置クコトヲ要ス。

### 三、消費稅ノ納付

(1) 織物消費稅——織物ヲ外國ヨリ輸入セントスル者ハ消費稅免除ノ場合ノ外ハ織物引取申告書ニ記入シ之ヲ輸入シ之ヲ輸入申告書ニ添へ通常ノ如キ輸入手續ヲ經ルモノトス。輸入稅納稅告知書ト消費稅告知書ヲ受取り、之等ノ領收證ヲ稅關總務課へ提出シ免狀ノ交付ヲ受タルモノトス。但シ消費稅相當額ノ擔保ヲ差出ストキハ三ヶ月間納稅猶豫ノ特典アリ。擔保タリ得ルモノハ金錢又ハ稅關ニ於テ確實ト認ムル有價證券ニ限レリ。

(2) 砂糖消費稅——砂糖引取申告書ニ添付シテ差出シ納稅濟ノ上引取ルベキモノトス。納稅猶豫期間ハ六ヶ月ナリトス。

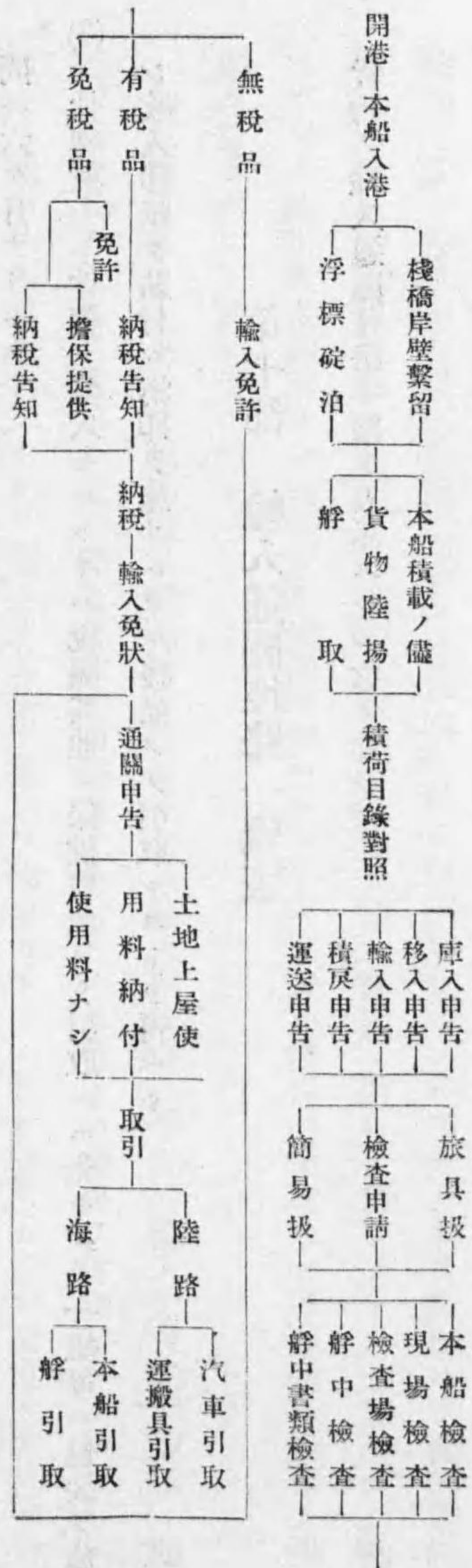
(3) 骨牌稅——骨牌ヲ輸入セルトキハ稅關其他ノ保稅地域ヨリ引取ルニ先キダチ一組毎ニ包裝ヲ施シ收入印紙ヲ貼付シ消印ヲ施サレタル後始メテ引取ルコトヲ得ベシ。

## 第七節 輸入通關徑路一覽表

貨物ノ輸入通關徑路手續ヲ表示スレバ次ノ如シ。



◎通關系路略圖



第十一章 貨物輸出手續

第一節 輸出手續ノ順序

一、免許——小包郵便及旅客ノ携帶品以外ノ物ニアリテハ輸出申告書ヲ提出シ免許ヲ得タル後ニ非  
 サレバ輸出スルコト能ハズ若シ輸出ノ免許ヲ得ズシテ貨物ノ輸出ヲナシ又ハ爲サントスル者ハ千  
 圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處セラル(關稅法)。(三一條)。

斯ノ如キ免許ヲ得ントスル者ハ輸出申告書甲號ヲ總務課免許係ヘ差出シタル上稅關構内若クハ指  
 定地ニ於テ輸出検査官吏ノ検査ヲ受クベク、検査終了ノ上、總務課免許係ヨリ輸出免狀 Export  
 Permit ノ交付ヲ得テ輸出スベキモノトス。

二、船積——貨物ノ船積ハ稅關構内及ビ特ニ許可ヲ得タル場所ヨリナスベク、他ノ地ヨリナスコト  
 ヲ得ズトセリ、輸出貨物ヲ解船ヲ以テ船積スル場合ニハ其船舶ニ在ル仕役官吏ノ検査ヲ得テナス  
 ベキコト輸入ノ場合ト同ジ、又船積ノ爲ニ稅關構内ニ送致セル貨物ハ七日以内ニ船積ヲナスベク  
 然ラザレバ收容セラルベシ。稅關構内ヘノ送致及船積ハ日曜、大祭日以外ノ晝間ニ限り若シ此時  
 間外ノ荷役ヲ爲サンニハ別ニ手数料ヲ納メテ特許ヲ得ザルベカラズ。  
 又船積ノ時ニ關シテモ船卸ノ場合ト同様ノ制限アリ。即チ船舶入港ノ上積荷目録ヲ差出シ其受領  
 證ヲ仕役官吏ニ示シタル後ニアラザレバ許可セラレズ、但シ目録提出前船積ノ特別ナル許可ヲ得  
 タル場合ハ此限リニ非ズ。

船積ヲナス場合モ陸揚ト同ジク荷主ガ自ラ之ヲナサズ、回漕店又ハ稅關貨物取扱人ヲシテ之ニ當  
 ラシムルコト多シ、其手續ハ次ノ如シ。荷主又ハ荷主ノ代理人ハ豫約アラバ之ニ從ヒ、ナケレバ  
 船積ニ關シテ運賃其他ノ條件ヲ船會社ト交渉シ船積申込書ヲ作成シテ申込ヲナシ船積指圖書



Shipping Order ヲ受取ル、而シテ通關手續終了ノ上ハ當該船會社備付ノ特定航路用 荷證券用紙ニ適當ノ記入ヲナシ船會社へ交付シ置キ、本船へ當該貨物ヲ船積指圖書ト共ニ引渡ス、本船ニアリテハ此兩者ヲ照合シテ相違ナケレバ積取り船積指圖書連接ノ船員受領書 Mate's Receipt 必要事項ヲ記載シ責任者ガ署名ノ上、荷主又ハ其代理者ニ交付ス、此際若シ荷物ニ故障アラバ所謂摘要付トナル、完全船員受領書ヲ得タルトキハ之ト引換ヘニ完全船荷證券ヲ受取ル、勿論運賃前拂ナラバ受領書ト共ニ運賃ヲ支拂フモノトス、荷物ニシテ若シ船積運賃ヲ課セラルベキモノナラバ積込前ニ計量セザルベカラズ。此場合ニハ船會社專屬ノ檢量人 Surveyor ヲ派出スルヲ常トス。若シ本船「沖繫リ」ノ場合ニハ海上保險契約ガ此積込船積危險ヲ包含セバ可ナレドモ然ラザル場合ニハ特ニ船積危險ニ對シテ附保セザルベカラズ。若シ加工修繕等ノ爲メニ輸入シタルモノノ（一年以内ナルヲ要ス）再輸出ナル場合ニハ加工證明書輸入免狀、又ハ之ニ代ルベキ稅關ノ證明書等ヲ輸出申告書ニ添付スベキモノトス。

## 第二節 輸出申告書

輸出申告書ノ記載事項ハ可及的詳密ナルヲ可トス、蓋シ其記載ガ不備又ハ粗雜ナルトキハ輸出統

計ヲ不正確ナラシメ同時ニ之ガ通關手續ノ遲延ヲ來サシムル原因トナリ不利ヲ免レザルベシ。例ヘバ一包裝内部ニ他種品ノ見本又ハ他種貨物ヲ混合包裝セル場合ニ其記載ヲ省略スルガ如キコトアラバ檢査ヲ受クルニ當リ發見セラルル時ハ犯則トナルノミナラズ、又五年以内ニ積戻シアリタル時ト雖、關稅免除ノ特典ニ浴スルコト能ハザルベシ、送狀ヲ要スル國向ケ輸出貨物ニハ誠實明細ニ記入シ添付スルヲ要ス、之ハ一般ニ英文ニテ認ムルヲ便トス。

輸出申告書ノ各要項ニ就テ注意スベキ點ハ輸入申告書ト略同様ナルガ其特異ノ點ハ左ノ如シ。

- (イ) 仕向地 Place of Final Destination. — 輸出貨物ノ仕向地トハ實際其貨物ノ仕向ケラルベキ地名ニシテ通常包裝面記載ノ地名ト合致ス、陸揚港 Port of arrival ト合致スルコトモアレドモ其意義ハ異ル、兩者區別セザルベカラズ。各國共ニ統計上必須ナル要點ナリトス。
- (ロ) 生産地 Home Origin or Foreign Origin. — 內國產ト外國產トニ區別ス。外國產ハ其ノ產出國名ヲ記載スベシ。從テ此區別ハ輸入手續ノ完了カ否ヤニヨル區別トハ全然異ル。
- (ハ) 價格 — ヲ記載スベキ欄ニハ輸出スベキ貨物ノ輸出港ニ於ケル F、O、B 價格ヲ邦貨ニテ表示スベキモノトス。

(ニ) 數量單位 — 輸出申告書ニ於ケル品名及數量單位ニハ法規上ノ制限ハナケレドモ之ヲ輸出



統計作成ノ資料トナスガ故ニ統計年鑑ニ掲グル品名及單位ニ據ルヲ可トス。

### 第三節 旅客携帶品、郵便物及ビ其他ノ特別貨物

- 一、旅客携帶品——單ニ旅具検査所ニ於テ一應ノ検査ヲ受クレバ直ニ本船ニ積込ミ得ルモノトス。若シ本邦開港間ヲ外國貿易船ニテ往來スル場合ニ到達港税關ニ於テ旅客ガ旅具及ビ自用品ニ關シ簡易ナル取扱ヲ受ケントスル時ハ出發地税關ノ旅具検査場ニ申告ノ上其包装ニ検査證ノ貼付ヲ得テ到達港税關ニ於ケル検査手續ノ省略ヲ計リ得ベシ。但シ中途一旦他ノ外國港ニ寄港シタル場合ニハ検査證アリテモ検査ヲ免レ得ザルモノトス。
- 二、小包郵便物——輸出小包郵便ニ關シテハ佛、獨其他七十餘箇包トノ間ニ締結セラレタル萬國聯合小包約定、米國、英國、支那、其他トノ間ニ別々ニ締結セル日米、日英、日支、日加、日墨、日濠、日海及日香小包約定等ニ依リ其料金、扱方等ハ條約及遞送線路ノ異ルニ從ヒ種々相違セリ。サレバ之等約定ニ違反セザル様包装セラレタル貨物ニ税關告知書及送狀（米國ヲ除ク。其ニ要式ハ郵便局ニ備付アリ）ヲ添ヘテ郵便局ニ差出ス、税關ニテハ検査手續ヲ省略シ、郵便局ヨリ本船ヘ直チニ輸送セシメ、郵便局ヨリハ單ニ品種及數量等ヲ税關ニ報告スルノミ。

外國小包郵便ノ要項左ノ如シ。

- 一、小包郵便ノ禁制品——（イ）内國郵便禁制品、（ロ）法令ニ依リ輸出入ヲ禁ズル物品、（ハ）阿片、「モルヒネ」、「コカイン」其他ノ麻醉劑、但シ醫術上ノ目的ニテ輸入スルコトヲ許ス國ニ宛テタルモノハ此限リニ非ズ、尙郵便局ニ照合スルヲ可トス。禁制品ヲ郵便トシテ差出シタル者ハ内國郵便ノ場合ト同様相當ノ罰ヲ受ケ、（ニ）外國ニ於ケル輸入禁制品ハ諸外國ノ通知ニ基キ遞信省ガ告示スレドモ往々外國ヨリノ通知ノ脱漏遲着等ノ場合アルヲ以テ豫メ名宛人ト打合ヲナスヲ安全トス。（ホ）信書又ハ通信文ノ性質ヲ有スル文書ハ小包郵便物ニ封入スルヲ得ズ尙聯合小包ニハ小包ノ名宛以外ノ名宛ヲ有スル書狀以外ノ通常郵便物ヲ封入スルコトモ禁ゼラル、但シ無封ノ案内書、送狀ノ類ハ封入スルヲ妨ゲズ（ヘ）、生存スル動物ヲ小包ニヨリ發送スルコト得ズ、但シ適當ニ構造セル箱ニ納メタル蜜蜂ハ英國、「カナダ」、海峽殖民地、香港又ハ濠洲ヘ向ケテノミ送ルコトヲ得、（ト）硬貨、金銀其他ノ貴重品ヲ價格表記ヲ許ス國ニ於テ非價格表記小包トシテ發送スルコト能ハズ。濠洲向ニハ金銀貴重品ノ郵送ハ絶對ニ許サレズ、（チ）重量、寸尺又ハ容積ノ制限其他成規ニ違反シテ差出シタル小包ハ原則トシテ差出人ニ還付ス、此場合ニハ郵便料ヲ追徴セズ、（リ）禁制品ヲ包有シタル爲メ名宛國ヨリ返送セラレタル聯合小包、支那小包又ハ海峽殖民地小包ニ對シテハ相



當返送料金ヲ徵收セラル、(ヌ)反則ノ郵便物ハ郵便法違反トシテ告發スルモノノ外ハ差出人ニ還付セラルルモノナレドモ外國小包中ニ包有セル爆發性發火性又ハ危險性ノ物品及猥褻又ハ不道德ナル物品ハ發見シタル場所ニ於テ毀損セラル、モノトス。

二、小包郵便ノ重量、容積(便宜上郵便ヲモ含メテ)

郵便物の寸尺、容積及重量制限

凡例  
括弧の數字は寸尺に在りては「センチメ  
ートル」容積は「デシメートル」重量は「キ  
ログラム」又は「ポンド」單位とす

種別	長	幅	厚	重量
書状	一尺四寸八分(四五)	一尺四寸八分(四五)	一尺四寸八分(四五)	五百三十三匁三分(一一)
葉書	卷物體のものは長二尺四寸七分(七五)直徑三寸三分(一〇)			
印刷物及業務用書類	三寸三分(一〇)以上四寸九寸(一五)以下	二寸三分(七)以上三寸四分(一〇、五)以下		
商品見本	一尺四寸八分(四五)	六寸六分(二〇)	三寸三分(一〇)	百三十三匁(〇、五)
	卷物體のものは長一尺四寸八分(四五)直徑四寸九分(一五)			

價格表記	同箱物		容積	重量
	一面の寸尺	容積		
書状	一尺四寸八分(四五)	一尺四寸八分(四五)	一尺四寸八分(四五)	五百三十三匁三分(一一)
聯合小包	卷物體のものは長二尺四寸七分(七五)直徑三寸三分(一〇)			
支那小包	九寸九分(三〇)	三寸三分(一〇)	三寸三分(一〇)	二百六十六匁(〇、一一)
「メキシコ」小包	四尺一寸二分(一二五)	一尺二寸立方(五五)	一尺二寸立方(五五)	一貫三百三十三匁(五)
「カナダ」小包	四尺一寸二分(一二五)	一尺二寸立方(五五)	一尺二寸立方(五五)	一貫三百三十三匁(五)
	西班牙宛に限り 二尺三寸(一〇〇)	汽車汽船の通ずる地は 二尺立方(二一六)		
	傘、杖、地圖又は繪圖の如き形状のものは幅及厚各六寸六分を超過せざるときは長三尺三寸			
	長二尺竝幅及厚各一尺			
	長三尺五寸竝長及横周を合して六尺			

三、宛名人ノ居所氏名——名宛國ニテ通用スル國語ニテ略字ヲ用ヒズ詳細且明瞭ニ認ムルコトヲ要シ鉛筆書ヲ許サズ、尙表書破損等ノ場合ノ用意ニ名宛人及差出人ノ居所氏名ヲ記載シタル紙片ヲ



小包ニ同封スルヲ便トス。而シテ之ハ郵便物自體又ハ之ニ確ト結附シタル票札ニ記載スルコトヲ要ス、但シ英國、香港及ビ海峽殖民地小包ニシテ貴重品ヲ包有スルモノニ限リテ必ズ郵便物自體ニ記載セザルベカラズ。

四、税關告知書及送狀——米國小包ニハ税關告知書一枚ヲ添付スルコト、米國小包以外ノ小包ニハ必要事項ヲ記入シタル送狀一枚及税關告知書ノ所要枚數(所要枚數ハ宛先國ニヨリテ異ル)(用紙ハ何レモ郵便局ニテ交付ス)

五、配達不能ノ場合ノ處分方法——ヲ聯合小包及支那小包ニアリテハ必ズ小包面及送狀ノ裏面ニ指示スルコト(送狀ノ裏面ニ列記以外ノ事項ハ請求スルヲ得ズ)其他ノ小包(南阿聯邦小包ヲ除ク)ニ付テハ差出ノ際左ノ二事項ノ中ノ一ヲ小包面及送狀ノ裏面(米國小包ニハ小包面ノミ)ニ記載シ請求スルコトヲ得。(甲)拋棄シタルモノト看做サレタシ。(乙)……ニ配達セラレタシ。右ノ請求ナキ小包ガ不能配達ト成リタルトキハ宛先國ノ内國規則ニ依ル留置期間(十五日乃至四十五日)經過ノ後差出人ノ費用ニテ返送セララルベシ。

六、普通ト書留トノ區別——米國小包ニ限リ此ノ區別アリ書留小包ハ普通小包料ノ外ニ書留料トシテ十錢ヲ要スルガ之ハ單ニ無料ニテ到達證ヲ受クルコト又ハ取調請求ヲ爲シ得ルニ止マリ所謂内國ノ書留小包トハ其性質異ル。

七、包裝方法——外國小包ハ概シテ長距離遞送ヲ要スルノミナラズ、途中船車ノ積換ヲ要スル場合多キガ故ニ之等ニ耐ヘ、且ツ外部ニ明カナル作爲ヲ加ヘザレバ採取不可能ナル如キ包裝ヲナスコトヲ要ス。米國向以外ノ小包ニハ同一ノ封蠟、封鉛又ハ其他ノ方法ニテ封緘シ且ツ其面ニ差出人ノ印影又ハ特殊ノ記號ヲ付スルコトヲ要ス。但シ非價格表記ノ支那宛小包ニハ封印ヲ省略スルコトヲ得。

米國向小包ノ包裝ノ完全ヲ要スルコト同様ナルガ特ニ強靱ナル紙包トシ、又ハ布袋ニ納メタル上、糸ニテ縛リ或ハ釘付又ハ螺釘付ノ蓋ヲ有スル木箱ニ納ムル等容易ニ包有品ヲ検査シ得ル様包裝スルコトヲ要ス。但シ罐詰類ノ如ク在中品ヲ英語ニテ標記セルモノハ其儘上記ノ木箱ニ納メ送附スルコトヲ得。封緘スルコトヲモ妨グズ。其他特種ノ物品ニ對シ特別ノ包裝ヲ要スルモノ左ノ如シ。

(イ) 郵便吏員ヲ傷害シ又ハ他ノ郵便物ヲ毀損スル虞アル物品ハ此等ノ危險ヲ防止スル様包裝スベキコト。

(ロ) 貴金屬、金屬製品又ハ重量多キ物品ヲ包有スルモノハ特ニ堅牢ナル金屬製ノ箱又ハ少クトモ「センチメートル」ノ厚ヲ有スル木製箱ヲ使用スベキコト。



- (ハ) 液體及液化シ易キモノハ二重ノ容器ニ納メ第一容器(罎「フラスコ」、壺、箱等)ト第二容器(金屬製、堅牢ナル木製、又ハ質、強靱ナル波狀板紙製ノ箱)トノ間ニハ成ルベク多クノ空隙ヲ設ケ鋸屑、糠、其ノ他總ベテノ吸收性又ハ保護性ノ物質ヲ以テ填充スルコト、尙米國向ナラバ其表面ニ「Fragile」ト記載スルコト。
- (ニ) 染料(「アニリン」等)ハ堅牢ナル鋺力製ノ期ニ納メタル上更ニ木製ノ箱ニ納メ兩容器ノ間ニ鋸屑ヲ填充スルコト。
- (ホ) 非染料ノ乾燥粉末ハ金屬製、木製、又ハ板紙製ノ箱ニ納メ更ニ布製又ハ羊皮紙製ノ袋ニ載ムルコト。
- (ヘ) 米國向ノ脂肪質ノ物品、染粉又ハ其ノ他ノ粉狀物ハ「ブリキ」製ノ罐ニ納メ封鉛ヲ施シタル上、堅牢ナル木製ノ箱ニ納メ更ニ其外部ヲ強靱ナル布ヲ以テ被覆シテ小包ノ表面ニハ其包有品ノ區別ニ從ヒ「Grease」; 「Dye in Powder」ト記載スルコト。
- (ト) 「セルロイド」及其製品(活動寫真用「フィルム」等)ヲ包有スル小包ハ包有品一個毎ニ紙包ト爲シ且各箇ノ動搖摩擦ヲ防ギ得ル様装置ヲ爲シタル上、堅固ナル木製又ハ金屬性ノ箱ニ納メ小包ノ表面ニ「Celluloid」ト朱書スベシ。但シ「アルゼンチン」ハ「セルロイド」及其製品

ノ郵便ニ依ル輸入ヲ絶對ニ許サズ。其他ノ諸國ニアリテモ特別ナル包裝及記載等ニ就テノ規定アリ。

三、其他ノ特別貨物——加工品其他ノ再輸出品及ビ再輸入品ノ輸出ニ就テハ既ニ輸入ノ手續ニ於テ之ヲ述ベタリ。

輸取出締品——貨物ノ種類ニヨリテハ輸出ニ當リテ商工大臣、農林大臣若クハ地方長官ノ許可ヲ得ベク、又材料、検査等ニ關シテハ夫レ夫レ法律、勅令、若クハ省令ノ取締法ノアル物アリ。輸出商ハ之等ニ就テハ遺漏ナキ手配ヲナサザルベカラズ。此種ノ貨物ハ次ノ如シ。

植物、花莖、生絲絹織物、飲食物、鐘詰、眞田、燐寸、硝子製品、莫大小製品、刷子、獸毛製刷子、鉛筆及ビ其心、綿織物、瑠璃鐵器、石鹼、「セルロイド」製品。戻稅品ノ輸出手續ニ就テハ次節ニ讓ル。

#### 第四節 戻稅品ノ輸出及内國稅ノ拂戻

一、輸入稅ノ拂戻——戻稅品(關稅定率法第九條)ヲ輸出セントスル者ハ輸出申告書ニ拂戻要求ノ旨ヲ記載シ、同時ニ原料ニ對スル輸入免狀又ハ之ニ代ハルベキ稅關ノ證明書及製造證明書ヲ添付スベシ。斯ノ



如キ拂戻金ノ請求ハ原料品輸入ノ日ヨリ一ケ年以内ニ限ル、製造證明書ハ製造者自身作成スベキモノニシテ、之ニハ製品ノ名稱、現在數量、製造ノ場所、製造年月日、及ビ製造者ノ氏名ヲ記載スベキモノトス。其手續ハ製品輸出港ノ稅關ニ對シ、拂戻請求書ニ仕役官吏ノ積込濟證印アル輸出免狀ヲ添ヘテ其ノ總務課ヘ差出スベキモノトス。此ノ場合製造者ハ豫メ原料ノ名稱、種類、數量、使用ノ目的及藏置ノ場所ヲ記載シ輸入免狀又ハ之ニ代、ルベキ稅關ノ證明書ヲ添ヘ當該官廳ニ申告シ其ノ承認ヲ受ケ置カザルベカラズ。

二、内國稅ノ拂戻——酒類、醬油等ノ内國稅拂戻及ビ其ノ他ノ消費稅ノ拂戻アリ、二者各其ノ手續ヲ異ニス。

(1) 酒類造石稅——ノ拂戻ヲ受ケンニハ豫メ輸出申告書ニ種類、數量、含有酒精ノ容量、査定ノ年月日、製造場所、仕向先、積載船舶名及其噸數、内國寄港地及ビ拂戻請求ノ旨等ヲ附記シ稅務署ノ査定證明書ヲ添フベキモノトス。斯ノ如キ造石稅拂戻ノ請求權ハ輸出後一ケ年以内ニ限レリ。其手續ハ拂戻金請求書ノ外輸出免狀、外國ヘ陸揚セルコトヲ證明スベキ書類、稅務署ノ納稅證明書ヲ添付シ稅關ノ總務課ヘ提出ス。同課ハ調査ノ上會計課ヘ廻附シ同課ヨリ決定通知書ノ交付アルモノトス。但シ酒類ノ積載船舶ハ登簿噸數二百噸以上ノ汽船ナルヲ要ス。止ムト

ヲ得ザル場合ノ外寄港地以外ノ内國沿岸ヘ寄港セルトキハ拂戻請求ノ權利ヲ失フモノトセリ。

(2) 醬油稅——ノ拂戻ハ輸出申告書ニ其釀造元、釀造年月日、造石稅拂戻請求ノ旨ヲ記載シ、輸出免狀又ハ検査官ノ證明アル検査願書、輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其證明トナルベキ書類ニ當該港在留ノ本邦領事ノ檢印ヲ受ケタルモノニ下戻請求書ヲ附シテ輸出港ノ稅關ニ差出スベキモノトス。

(3) 煙草及鹽——葉煙草又ハ製造煙草ヲ輸出ノ爲メニ買受ケタル者ハ輸出申告ノ際、專賣局交付ノ賣渡證及通知書ヲ提出シ荷造表記ノ名稱ト箱數トヲ照合シ官吏ノ捺印裏書ヲ受ケザルベカラズ。而シテ政府ノ指定期間内ニ輸出免狀及陸揚證明書ヲ提出スルモノトス。輸出口ノ鹽モ其手續略之ト同様ナリ。輸出申告書ニ數量、輸出先、積載船名、及ビ内國寄港地ヲ記載シ、之ニ專賣局ノ賣渡通知書ヲ添ヘ輸出免狀又ハ外國ヘ輸出セルコトヲ證明スベキ書類、及ビ外國ヘ陸揚シタルコトヲ證明スベキ書類ヲ賣渡シタル專賣局官署ニ提出スヘシト定メラル。其期間ハ賣渡ノ日ヨリ六ヶ月以内ナリ。

(4) 消費稅——(イ)織物消費稅ハ輸出ノ場合免除セラレ、又一旦之ヲ納付セル織物若クハ之ヲ以テ製造セル物品ヲ外國ヘ輸出シタル場合ニハ消費稅相當額ヲ交付セラルルコト前述ノ如シ。而



シテ戻稅請求ノ旨ヲ附記セル輸出申告書ニ稅務署ノ納稅證明書、若クハ輸出織物免稅承認書、若シ輸入品ナル場合ニハ輸入免狀竝ニ消費稅領收證ヲ添附シ、檢査ノ上積込ヲ了シ輸出免狀ニ仕役官吏ノ積込濟ノ證印ヲ受クルモノトス。而シテ拂戻ノ請求ニハ之ニ輸出交付金請求書ヲ添ヘテ總務課ニ提出スヘキモノトス。(ロ)消費稅納付ノ砂糖ヲ用ヒテ製造シタル菓子又ハ糖菓ヲ輸出シ、使用砂糖消費稅相當額ノ下附ヲ求ムルニハ輸出申告書ニ菓子又ハ糖菓ノ種類、各種類ノ數量、製造者ノ氏名、製造場所竝ニ成ルヘク甘蔗糖ノ含有量ヲ記載スベシ。同時ニ相當量ノ現品見本ヲ差出スヲ要ス。蓋シ其ノ種類毎ニ甘蔗糖ノ含有分量ヲ檢査スルヲ以テナリ。從テ亦相當ノ日子ヲ要スベシ。下附金請求手續ハ下附金請求書ニ輸出免狀又ハ之ニ代ハルベキモノ、竝ニ陸揚證明書ヲ添附シテ總務課ヘ差出スコト之ナリ。煉乳ノ場合ノ手續亦略同様ナリ。

(5) 消費稅ノ免除——砂糖、糖蜜ヲ輸出スルトキハ擔保ヲ提供シ消費稅ノ免除ヲ求ムルコトヲ得ベシ。擔保解除ノ請求ニ當リテハ申告書ニ輸出免狀又ハ之ニ代ハルベキ書類及ビ陸揚免狀又ハ陸揚證明書ヲ添フベキモノトス。

(6) 骨牌稅——骨牌ヲ輸出シ骨牌稅ノ免除ヲ得ンニハ稅務署ガ交付セル輸出承認書ヲ差出シ、尙ホ輸出免狀ニ檢査官吏ノ日附ノ捺印ヲ受ケテ稅務署ヘ提出シテ免稅ヲ求ムベシ。

## 第十一章 稅關貨物取扱人 Custom Broker

一、意義——稅關貨物取扱人トハ荷主ノ爲メニ自己又ハ荷主ノ名ヲ以テ稅關ニ對シ輸出入貨物ノ通關手續ノ取扱ヲ爲スヲ業トスル者ヲ云フ。荷主中ニハ前述ノ如キ複雑ナル通關手續ニ通曉セザル者アリ、又其ノ手續ヲ爲ス時間ヲ有セザル者アリ、或ハ又稅關所在地以外ニ在住シテ手續ヲ爲スニ不便ナル者アリ、斯ノ如キ荷主ニ代ハリ相當ノ手数料ヲ得テ、アラユル通關手續ヲ行フヲ營業トナスモノナリ(明治三十四年四月法律第二八號稅關貨物取扱人法及ビ同年五月大藏省令同法施行細則)。

二、免許——稅關貨物取扱人タラントスル者ハ其營業所ヲ定メ其管轄稅關長ニ出願シ其免許ヲ受ケザルベカラズ。但シ會社又ハ外國會社ノ支店ナル場合ハ定款ノ謄本ヲ添附スベシトナス(稅關貨物取扱人法第二條及同法施行細則第一條)。

斯ノ如ク免許營業トナセルハ稅關手續ハ特殊行政手續ニシテ一般ニ知ラレザルコト。其貨物ハ内外人ノ所有ニ屬スルコト。及ビ關稅ノ賦課徵收ヲ完全ナラシメントスルガ爲メナリ。而シテ稅關長ガ免許ヲ與ヘントスル時ハ本人ニ告知シ免許料ヲ納付セシメテ免許狀ヲ交付ス免許料ハ二十圓ニシテ現金又ハ收入印紙ヲ以テ納付スルコトヲ得トセリ(同施行細則第二、三條)。



三、資格——稅關貨物取扱人タリ得ル者ノ資格ニ關シテ次ノ如キ制限アリ。即チ(一)公權ヲ剝奪若クハ停止セラレタル者。(二)身代限り又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ辨濟又ハ復權確定セザル者。(三)國稅滯納處分ヲ受ケ滿一ケ年ヲ經過セザル者。(四)重禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及ビ密輸入等ヲナシテ處罰ヲ受ケ(關稅法第七四條乃至第七六條)滿三ケ年ヲ經過セザル者。ハ除外セラル。

四、身元保證金——稅關貨物取扱人ハ其ノ免許狀ヲ受ケタル日ヨリ二週間以内ニ身元保證金五千圓ヲ現金若クハ有價證券(國債ニ限ル)ニテ提供シタル後初メテ業務ニ着手シ得ベキモノトセリ。若シ之ニ違反シテ業務ヲ行フトキハ千圓以下ノ罰金ニ處セラルベシ。而シテ此現金又ハ無記名國債證券ハ之ヲ供託シ其供託受領證ヲ、登録公債ノ場合ニハ擔保ノ登録ヲ受ケ其登録濟通知書ヲ稅關ニ提出スベシ。登録公債ニシテ乙種國債登録簿ニ登録シタルモノハ尙記名國債證券ヲ供託シ其供託受領證ヲ提出スベキコトトナセリ。

稅關貨物取扱人ニシテ稅關ニ納付スベキ金錢ヲ納付セザル時ハ稅關ハ身元保證金又ハ物ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得、又稅關貨物取扱人ノ業務上ノ過失ニヨリ損害ヲ受ケタル貨主ハ其債權ニツキ他ノ債權者ニ先チ身元保證金ヨリ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス。又身元保證トシテ提出セル有價證券ノ價格ガ減少セル時ハ稅關長ハ増擔保ヲ差出サシムベク、前述ノ理由ニヨリ辨濟充當ノ結果保證金額減

少セル時ハ稅關長ハ本人ニ告知スベキガ故ニ一ケ月以内ニ其不足額相當ノ金錢又ハ國債ヲ提供スベキコトトナス。斯ノ如キ嚴重ナル保證ニヨリ關稅賦課上ノ稅關ノ利便及稅關貨物取扱人ヲ利用スル一般委託者ノ利益ヲ保護シ以テ貿易ノ助長促進ヲ計レリ。

五、料金——稅關貨物取扱人ハ取扱料ノ最高額ヲ定メ所管稅關長ノ認可ヲ受クベク、其變更ニツキテモ同様認可ヲ經ベキモノトス。之ニ背キタル時ハ亦千圓以下ノ罰金ニ處セラルベシ。

稅關貨物取扱人ハ取扱貨物ニ關シ受クベキ取扱料、税金、其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替ニ付テノミ其ノ貨物ニ對スル留置權アリ。但シ之ハ民法上ノ留置權ニシテ其債權ノ辨濟ヲ受クル迄其物ヲ留置シ得ルニ止マリ、假令同一貨主ノ貨物ナリトテ取扱ニ關係ナキ他ノ貨物ヲ留置スルコトヲ得ザルコトトシテ特ニ貨主ヲ保護セルモノナリ。其反面ニ於テハ貨物ノ受取、引渡、保管及運送ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明セザレバ取扱料ヲ請求シ得ザルコトトナス。

六、代理人——茲ニ所謂取扱人トハ免許ヲ受ケタル本人ヲ指ス。然シカカル取扱人ハ又代理人ヲ設クルコトヲ得ベシ。即チ稅關貨物取扱人ニシテ支店又ハ代理店ヲ設ケタルトキハ擔當人ヲ定メ其所在地ノ稅關又ハ稅關支署ニ届ケ出ヅベク、營業所又ハ代理店ヲ閉鎖シ又ハ移轉シ又ハ擔當人ヲ變更シタル時モ亦同様ナリ。雇人以外ノ者ヲシテ通關手續ヲ爲サシメントスルトキハ委任狀若ク



ハ代理人タルコトヲ證スルニ足ル書類ノ提出ヲ要ス。其雇人ノ氏名ハ豫メ届出ヲ要スルコトトセ  
ラレ、從テ委任狀ノ必要ナキナリ。又是等ノ代理人、雇人其他ノ從業者ガ稅關貨物取扱人法ニ違  
反シタルトキハ主人自ラ其責ニ任ズベキモノトス。

七、營業停止——稅關貨物取扱人ガ其業務ニ關スル法令ニ違反シ、又ハ稅關長ノ職權ニ基ケル命令  
ニ違反シタル時ハ稅關長ハ三ヶ月以内其營業ヲ停止シ、又ハ其免許ヲ取消スコトアルベシ。但シ  
此處分ニ不服ナルトキハ大藏大臣ニ對シテ訴願ヲ提起スルコトヲ得ベク、又之ガ爲メニ違法ニ權  
利ヲ傷害セラレタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ベキモノトス。

## 第十三章 積戻、運送及收容

### 第一節 積 戻

關稅法ニ所謂積戻トハ輸入手續未濟貨物ヲ外國ニ向ケテ積送スルコトヲ云フ。其積戻場所ガ原產  
地若クハ原仕入地以外ノ場合ヲモ包含ス。然シ乍ラ一旦輸入手續ヲ終リ内國貨物トナリタルモノヲ  
積出ス場合ハ通俗ニハ積戻ト稱スルモ關稅法ニアリテハ之ヲ寧ロ輸出ト認メ積戻トナサズ。

又過テ陸揚ゲセル場合若クハ商機上ノ關係ニヨリ其儘之ヲ他ノ内國開港ニ移送スル場合ノ如キハ

其仕向地ガ内國ナルガ故ニ關稅法ハ之ヲ區別シテ運送トナセリ。斯ノ如キ意義ノ積戻ハ次ノ三ニ區  
別シ得ベシ。

(イ) 中繼貿易ノ目的ニテ陸揚シタルモノ——ニアリテハ積戻迄ニ相當期間アルヲ常トス。而シ  
テ上屋藏置期間ハ頗短ク此期間經過後ニハ收容セラルル危險アルガ故ニ、斯カル貨物ハ假置場  
ニ藏置スルヲ便トス。尤モ積戻期間六ヶ月以上ニ及ブモノ及ビ金融關係上、倉庫證券利用ノ必  
要アラバ保稅倉庫ヲ利用スルヲ有利トス。

(ロ) 注文違ヒ又ハ商機上——輸入ヲ中止シ積戻ヲナサンガ爲メニハ納稅ヲナサザルコトヲ要シ  
一旦納付濟ノ上ハ返付セラレザルガ故ニ直チニ積戻スカ又ハ假置場、保稅倉庫等ニ藏置シ商談  
又ハ交渉ノ決定セル後積戻スヲ便トス。

(ハ) 誤リテ陸揚シタル場合——此際ハ陸揚後直チニ發見セラルルガ故ニ其儘直ニ積戻ノ手續ヲ  
ナスヲ便トス。尤モ斯カル揚ゲ違ハ貨主ニ關係ナク船員又ハ陸揚業者ノ誤ニヨルヲ常トシ、又  
從テ之等ノ者ガ手續ヲナスモノトス。

之等何レノ場合ナルカヲ問ハズ積戻ヲナサンニハ積戻申告書ニ積載船名、國籍、貨物ノ記號、番  
號、品名、個數、價格、仕向地、内外產ノ區別及ビ申告者ノ記名調印ヲナシ、之ヲ總務課申告係ニ



差出シ積戻免狀ノ交付ヲ受クル外一般輸出手續ト異ルコトナシ。積戻免狀ヲ監視部倉庫係ニ提示シ上屋其他ノ使用アルトキハ使用料納付書ニ相當印紙ヲ貼付シ消印セズシテ差出シ積戻許可證ヲ得テ後積込ムモノナリ。積戻ハ上屋貨物ト保税倉庫又ハ保税工場貨物トノ間ニハ只上屋ノ場合ハ積荷目録保税倉庫ノ場合ハ庫入申告書、保税工場ノ場合ハ移入申告書ト照合シテ整理スル差異アルノミナリ。

## 第二節 運送

一、運送ノ意義及其必要——關稅法ニ所謂運送トハ主トシテ外國貨物ヲ本邦船籍ヲ有スル船舶ニテナス海路運送及命令ヲ以テ指定シタル通路ニヨル陸路運送ヲ指稱ス。而シテ其範圍ハ開港間、保税地域間、開港ト保税地域間ニ限ラル。但シ内國貨物モ外國貿易船ニ積載シ開港間ニ運送スルコトヲ得ベキモ此場合ニハ特ニ稅關ニ申告シテ其免許ヲ受クベキコトトセリ(關稅法第(四〇)條)。而シテ斯カル運送ノ必要ハ外國貨物ヲ輸入シタルモ其手續未済ノ際ニ輸入港以外ノ開港ニテ輸入手續ヲナスヲ便トスル場合ノ如キ、又ハ保税倉庫藏置貨物若クハ假置場藏置貨物ニシテ他ノ開港又ハ保税地域へ運送スルコトヲ有利トナス場合ノ如キ或ハ既ニ輸出手續済ノ貨物ニシテ他ノ開港ヨリ

輸出スルヲヨリ便宜トスル如キ場合ニ生ズ。

## 二、運送手續

(1) 海路輸送——輸入手續未済ノ外國貨物ノ海路輸送ニ運送申告書(運送目録記載事項ノ外、貨物ノ價格及運送ノ目的ヲ加ヘ荷受人ヲ省ク)總務課輸入係ニ差出シ(保税工場若クハ保税倉庫ニアルトキハ監視部貨物係)其検査ヲ經テ運送免狀ノ交付ヲ受クルモノトス。此場合法規上ハ税金ノ擔保ヲ提出セシメ得ルモ通常ハ之ヲ徴セズ。申告者ハ斯クシテ得タル免狀ヲ貨物係ニ示シ敷料ヲ納メ積込許可證ヲ受ケテ積込ム、此際船長ハ此免狀ニヨリ運送目録ヲ作成シ稅關ニ提出ス。而シテ運送免狀ハ仕向地ノ荷受人ニ送附スルヲ要ス。蓋シ貨物ガ仕向地ニ到達シタル時ハ荷受人ハ運送免狀ヲ稅關ニ差出スベキモノナレバナリ。仕向地稅關ハ運送免狀ニヨリ検査ノ上運送免狀ト符合シタル時該免狀ニ運送済ノ證印ヲナシ之ヲ還付シ且發送地稅關ニ其運送済ノ旨ヲ通知スルモノトス。カカル外國貨物ニシテ相當期間内ニ運送先へ到着セザル時ハ運送申告者ヨリ關稅ヲ徵收ス。但災害ニ因リ滅失シ又ハ稅關ノ認許ヲ得テ滅却シタル時ハコノ限りニアラズトセリ(關稅法第三(九)條ノ三)。

輸出手續済貨物ナルトキハ特ニ運送申告ヲ要セズ、又輸出免狀ヲ以テ運送狀ニ代フルヲ常トス。



又(イ)假ニ陸揚シタル貨物。(ロ)運航ノ自由ヲ失ヒタル船舶ニ積載セル貨物。(ハ)難破船。等ノ外國貨物ヲ海路又ハ陸路ニヨリ不開港ヨリ開港又ハ保稅地域ニ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ稅關官吏、稅關官吏アラザル時ハ警察官吏ノ認許ヲ受クベシ。但陸路ニヨル運送ハ稅關官吏又ハ警察官吏ノ指定シタル通路ニヨルベキモノトス。又前項ノ貨物、運送先ニ到達シタル時ハ船長又ハ陸路運送人ハ二十四時間以内ニ認許證ヲ稅關ニ提出スベキモノトセリ。發送又ハ到着ノ際運送目錄ノ提出ヲ怠リタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處セラルルモノトス。

內國貨物ナルトキハ申告書ニ其旨記載スベシ。然ラザレバ仕向地稅關ニ於テ關稅ヲ徵收セラルルコトアルベシ。

郵便及船用品ニ關シテハ運送ニ關スル規定ハ適用セラレズ。

(2) 陸路運送——運送申告書ヲ差出シ運送免狀ノ交付ヲ受クル等其手續海路ノ場合ト略同ジ、只外國貨物ノ陸路ニヨル運送ハ命令ヲ以テ指定シタル通路ニ由ルベキ點船長ノ代ハリニ驛長等ガ運送目錄ヲ差出ス點等ノ差違アルノミ。輸出手續濟貨物ノ場合亦海路ノ場合ト同様ナリ。

三、運送通路——私設保稅工場又ハ保稅倉庫ノ改廢ニヨリ折々變更アルモ現在ノ通路左ノ如シ(大正六年)

六月大藏省令第二〇號、同年第二七號、七年第一二號、九年第三三號。

- 一、國有鐵道及之ト連絡運輸ヲ爲ス私設鐵道並ニ輕便鐵道線路  
前項ノ通路ト連續シテ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル左ノ直航通路  
青森、函館間。舞鶴、宮津間。下關、門司間。下關港、小森江間。下關、釜山港間。
- 二、隅田川口ヨリ小名木川、新川、江戸川ヲ經テ野田町ニ至ル水路  
隅田川口ヨリ荒川ヲ經テ王子町ニ至ル水路、隅田川口ヨリ小名木川又ハ堅川ニ由リ中川ヲ經テ西小松川ニ至ル水路  
前項ノ水路ト連續シテ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル橫濱港ヨリ隅田川口ニ至ル直航水路  
橫濱港ヨリ帷子川ニ由リ保土ヶ谷町ニ至ル水路
- 三、大阪市ヨリ淀川及疏水運河ニ由リ京都市ニ至ル水路  
大阪市ヨリ新淀川及神崎川ヲ橫ギリ尼崎市ニ至ル水路

### 第三節 收容

一、意義——收容トハ保稅地域內藏置ノ法定期間ヲ經過シ尙處置ヲ爲サザル貨物ニ對シ、貨主若クハ利害關係人ノ費用及危險ニテ稅關ガ行フトコロノ一種ノ強制處分ヲ云フ、而シテ其藏置期間ハ官設保稅倉庫ニアリテハ庫入ノ日ヨリ二ケ年、假置場ニアリテハ搬入ノ日ヨリ六ケ月(延期ノ許可ヲ得タル場合ヲ除ク)其他ノ保稅地域即チ上屋等ニアリテハ搬入日ヨリ七日間トス、然シ乍ラ



之等法定期間經過後ハ必シモ直ニ收容セラルルモノニアラズ、其實行ノ如何ハ稅關長ノ裁量ニヨルモノナリ、只法定期間内ハ絕對ニ收容處分ヲ受クル事ナキコトヲ意味スルニ過ギズ。例外トシテ法定期間内ニテモ收容處分ニ附セラルルモノアリ、(イ)生活力ヲ有スル動植物、(ロ)腐敗シ又腐敗ノ虞アルモノ、(ハ)他ノ貨物ヲ害スル虞アルモノ、等ハ此種ニ屬ス。

收容ノ場所ハ原則トシテ稅關ノ定ムル倉庫ナレドモ巨大ナルモノ、重量ナルモノ若クハ危險物或ハ他ノ貨物ヲ汚損スルノ虞アル貨物ニアリテハ例外トシテ現場收容ヲナスコトアリ、收容ハ單ニ搬出ヲ促ガス處分行爲ニ過ギザルヲ以テ稅關ハ火災、盜難、其他一切ノ責任ヲ負擔セザルモノトス、元來保稅地域ハ輸出、輸入、運送、積戻等ニヨリ其本來ノ目的地ヘ仕向ケラルベキ前提トシテ一時藏置セラルベキ場所ニ過ギズ、サレバ之等無數ノ貨物ヲ長期ニ亘リテ藏置スルコト能ハズ、一定ノ期限ヲ定メテ搬出處置ヲ促ガス必要アリ。收容制度ハ此目的ノ爲メニ設ケラレタルモノニシテ一旦收容セラルル時ハ手数料、敷料其他ニ於テ過重ナル負擔ノ必要アルガ故ニ已ムヲ得ズ貨主ハ長期保稅藏置ノ必要アル物ハ保稅倉庫ヘ庫入シ又改裝手入其他ノ必要アルモノハ假置場ニ移入スル等夫レ夫レ適當ナル處置ヲ採ルヲ常トナス。

二、收容及解除手續——稅關ガ貨物ヲ收容シタル時ハ三日以内ニ其旨ヲ揭示スベキモノトス(關稅法第四七條)

號)而シテ其揭示ニハ貨物ノ記號、番號、品名、個數ヲ記載スベシトナシ關係者ヲシテ見易カラシム(關稅法施行規則第四八條)

收容貨物ノ解除ヲ得ントスル者ハ稅關ニ申告シ其貨物ニ關スル一切ノ費用及敷料ヲ納メ免許ヲ受ケザルベカラズ、解除申告書ニモ貨物ノ記號、番號、品名及個數ヲ記載スベキモノナリ(關稅法施行規則第四八條)解除者ハ其貨物ノ所有者又ハ其委託者タルコトヲ要シ船會社、陸揚荷捌業者等ノ證明ヲ要トス。

收容解除ノ免許ノ日ヨリ三日以内ニ船積、引取、又ハ保稅工場若クハ保稅倉庫ニ庫入ノ手續ヲ爲サザルトキハ其免許ハ失効シ更ニ收容セラレ其解除ニハ前同様ノ手續ヲ爲サザルベカラズ。

三、處分——收容セラレタル貨物ニツキ六ヶ月以内ニ收容解除ノ申告ヲ爲ス者ナキ時ハ稅關ハ其記號、番號、種類、個數ヲ公告シ、而カモ尙一ヶ月以内ニ解除ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ貨物ヲ公賣ニ付シ此代金ヲ關稅、敷料、其他貨物ニ關スル一切ノ費用ニ充テ尙殘金アル時ハ之ヲ供託シテ後日關係者ヲシテ受取り得シム。

若シ收容貨物ガ生活力アル動植物ナル時、腐敗シ若クハ腐敗ノ虞アル時又ハ倉庫若クハ他ノ貨物ヲ害スル虞アル時ハ六ヶ月ノ期間經過ヲ待タズ公告シテ公賣スルコトヲ得ベク、其物ノ性質上、公告スルノ暇ナキ時ハ公賣後公告スルコトヲ得ルモノトセリ。收容貨物ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキ時



ハ税關ハ適宜之ヲ處分シ得ルモノトス、買受人ナキ時ノ意味ハ價格ニ拘ラズ買受人ナキ場合ヲ云フ而シテ税關官吏ハ直接カ間接カヲ問ハズ買受クルコト能ハザルモノトセリ。公賣處分ノ際課セラルル關稅ハ公賣ノ日ニ於ケル現行稅法ニヨルベシトセラレ通常ノ場合ニ於テハ輸入申告ノ日ニ於ケル現行稅法ニヨルコトトセルト著シキ相違アルモノトス

## 第十四章 異議及訴願

### 第一節 異議

一、異議ノ申立及判定——異議トハ關稅ノ賦課處分ニ關シ不服アル者ガ税關長ニ對シ其反省ヲ求ムル爲メ申立ヲナシ、税關長ヲシテ其申立ニ對シテ判定ヲナサシムルコトヲ云フ、而シテ税關長ニカク異議ノ申立ヲ爲スニ必要ナル條件ハ次ノ如シ。

(1) 異議ノ申立ハ關稅ノ賦課處分ニ對スルモノナル事ヲ要ス  
例ヘバ課稅價格、稅率適用、品種等級、數量、尺度等ノ査定、關稅ノ賦課ニ關スル税關長ノ處分ニ對スルモノナラザルベカラズ。

(2) 異議ノ申立ハ貨物ノ引取前ニナサレザルベカラズ

從テ貨主ガ損害ヲ蒙ル場合ヲ生ズベシ、此場合從量稅ノ稅率ニ關スル異議ノ申立ニシテ急速ニ引取ノ必要アルトキハ擔保トシテ現金ヲ供託シ見本ヲ差出シタル上免許前引取ヲナスコトヲ得ベシ。

(3) 異議申立期間ハ納稅告知書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ナルコトヲ要ス

(4) 輸入申告ノ際、仕入書ヲ添付シタル事ヲ要ス、但シ當該官吏ニシテ仕入書ヲ添付スル事能ハザル理由アリト認ムル時ハ此限ニアラズ

(5) 異議ノ申立ハ不服ノ要領、理由、要求及處分ヲ受ケタル年月日ヲ記載シタル文書ヲ以テ爲シ、附屬書類又ハ物件アル時ハ之ヲ表示スル事ヲ要ス

右ノ條件ヲ具備シタル異議ノ申立アリタルトキハ税關長ハ事務官、鑑査官及ビ專門家ノ意見ヲ徵シ、異議申立ノ要領、判定ノ理由及ビ判定主文等ヲ記載セル判定書ヲ異議申立人ニ使丁ノ送達又ハ書留郵便ニヨリテ交付スベシ、異議者ノ住居所不明又ハ其他ノ事故ニヨリ交付不能ノ時ハ其要領ヲ揭示シ七日經過後ハ判定書ノ交付アリタルモノト看做ス、異議申立人判定ニ不服ナレバ更ニ訴願ヲ提起スル事ヲ得ベシ。

二、從價稅ノ異議——從價稅ヲ課スベキ貨物ノ課稅價格ニ關シ異議ノ申立アリタル時ハ税關長ガ其



異議ヲ以テ不當ナリト認メタルトキハ判定書ヲ與ヘズシテ申告價格ニ百分ノ五ヲ加ヘタル價格ヲ以テ買上グルカ又ハ評價人ヲシテ評價セシムベシ。而シテ此二方法中何レニ據ルベキカハ稅關長ノ任意ナレドモ一旦何レカニ決定シタルトキハ更ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得ザルモノトス。

評價手續ハ左ノ如シ、即チ評價人ハ四人ニ限リ、内二人ハ稅關長之ヲ命ジ、他ノ二人ハ異議者之ヲ選定シテ稅關長ノ許可ヲ受クベキモノトス、評價人タリ得ル者ノ資格ヲ限リ次ノ如キ者ヲ除外セリ、(イ)身代限ノ處分ヲ受ケ債務辨償ヲ終ヘザル者及家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ其確定シタル時ヨリ復權ノ決定スルニ至ル迄ノ者、(ロ)輸入禁制品ノ輸入ヲ圖リ又ハ其輸入ヲ爲シタル者、關稅ノ遁脫ヲ圖リ又ハ遁脫シタル者及ビ前述ノ犯罪ニ係ル貨物ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ニシテ處刑ヲ受ケ滿三年ヲ經過セザルモノ、(ハ)六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權ヲ得ザル者、六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタルモノニシテ其刑ノ執行ヲ終ル迄ノ者又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者、(ニ)當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スルモノ。之ナリ、而シテ若シ稅關長ガ異議者ノ選定シタル評價人ヲ不適當ナリト認メタル時ハ時間ヲ指定シテ其改選ヲ命ズベキコトトセリ。異議者選定ノ評價人ニ關スル費用ハ異議者ノ負擔トセラル。

斯ノ如キ評價人ヲシテ評價セシメタルトキハ其評價價格ヲ以テ課稅價格トス、尤モ評價價格ガ申告價格ヨリ少キトキハ申告價格ヲ以テ課稅價格トシ、若シ評價人ノ評價一致セザルトキハ平均價格ヲ以テ評價價格トス、異議ノ申立アルモ係爭貨物ニ對スル處分執行ハ停止セズ、只稅關長ガ必要ト認メタルトキハ其執行ヲ停止スルコトヲ得ルノミ。

三、織物消費稅ニ對スル異議——織物ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトキ價格ヲ申告スベキモノトス、此場合申告ヲ爲サズ又申告スルモ政府ガ之ヲ不當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定ス、此際引取人ガ評定價格ニ不服アルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得。

此種異議ノ申立アリタルトキハ政府ハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス。而シテ此決定價格ト異議者ノ主張價格トノ差ガ最初ノ政府評定價格ト此決定價格トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定費用ハ申立人ノ負擔トナル、而シテ印紙ヲ貼用シタル織物ノ表記價格ヲ不相當ト認ムル時ハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定シ其差額ニ對スル消費稅ヲ追徵ス、此際不服アル時モ亦異議ノ申立ヲ爲シ得ルモノナリ(織物消費稅法第九條)。

## 第二節 訴願



一、訴願ノ意義——關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ判定ニ對シテ不服アル場合ニハ上級行政官タル大藏大臣ニ直接其改廢ヲ主張スル權利ヲ賦與セリ、之即訴願ナリ。關稅法第六八條ニ「第六二條ノ稅關長ノ判定ニ對シ不服アルモノハ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得」ト規定セリ、而シテ第六二條ニハ

前條ノ規定ニヨリ異議ノ申立アルトキハ稅關長ハ文書ヲ以テ之ヲ判定シ異議申立人ニ交付スベシ但第六三條ノ場合ハコノ限ニアラズ。

トアリ、但書ノ第六三條ニハ

從價稅ヲ課スベキ貨物ノ課稅價格ニ關スル異議ヲ不當ト認ムルトキハ稅關長ハ申告價格ニソノ百分ノ五ヲ加ヘタル價格ヲ以テ其貨物ヲ買上ゲ若クハ評價人ヲシテ評價セシムベシ。

ト規定セリ、是ニ由リテ觀ルニ關稅賦課ニ關スル稅關ノ處分ニ不服アル者ガ異議ノ申立ヲナシタルニ對シテ稅關長ガ異議判定ヲ爲シタルニ尙ホ不服アル時訴願ヲ提起シ得ルモノニシテ只右ノ如ク第六三條ノ場合ノミヲ除外セルヲ以テ買上又ハ評價手段ニ對シテハ訴願ハ提起シ得ザルモノトス、從テ訴願ヲ提起シ得ルハ從量課稅品ノ從量ニ關シ又ハ稅率適用ニ關スル異議判定ニ尙ホ不服アル場合ニ限ルモノトス。

二、訴願手續——訴願ニ關シテハ關稅法上特別ノ規定ナキガ故ニ訴願法ニ據ルベキモノトス(明治二十三年法律第一〇五號)其要點ハ次ノ如シ。

(イ) 關稅關係ニヨル訴願ハ稅關長ヲ經由シテ大藏大臣ニ提起スベシ(訴願法第二條)

(ロ) 訴願ハ行政處分ヲ受ケタル後六十日以内ニナスベキモノトス(同第八條)

(ハ) 訴願書ニハ其不服ノ要點、理由、要求及訴願人ノ身分、職業、住所、年齡ノ記載ヲナシ之ニ署名捺印スベシ(訴願法第六條第一項)

(ニ) 訴願書ニハ證據書類ヲ添ヘ竝ニ下級行政官廳ノ裁判ヲ經タルモノハ其裁決書ヲ添フベシ(訴願法第六條第二項)

(ホ) 多數人員共同シテ訴願セントスル時ハ其訴願書ニ各訴願人ノ身分、職業、住所、年齡ヲ記載シ署名捺印シ其中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ビ之ニ委任シ總代委任ノ正當ナルコトヲ證明スベシ、但法律ニヨリ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得(訴願法第七條)

(ヘ) 訴願ハスベテ文書ヲ以テ之ヲ提起シ其侮辱誹毀ニ涉ルベカラズ(訴願法第五條)

三、裁決——右要件ヲ具備セル訴願書ヲ受理セル時ハ稅關長ハ十日以内ニ辯明書及必要文書ヲ添ヘテ之ヲ大藏大臣ニ發送スベシ(訴願法第十條第一項)大藏大臣ハ其訴願ヲ關稅訴願審查委員會ノ審查ニ付シ同



會ノ決議ヲ參考トシテ判決ヲ爲スベシ、而シテ訴願ノ裁決却下共ニ文書ヲ以テ之ヲ爲ス(訴願法第十五條)  
此裁決書ハ稅關ヲ經テ訴願人ニ交付ス(訴願法第十五條)

訴願裁決ノ結果稅關長ノ處分ヲ不當トシタルトキハ稅關長ハ裁決ノ主旨ニ從ヒ前處分ノ取消又ハ變更ヲ爲スベシ、然レドモ異議ノ場合ト同ジク、訴願ヲ提起スルモ之ニヨリテ既ニ行ヒタル處分ノ執行ヲ停止スルモノニ非ズ、稅關長ハ單ニ其職權ニ依リ又ハ訴願人ノ願ニ依リ必要ト認ムルトキハ執行停止ヲナスコトアルノミナリ(訴願法第十二條)

關稅訴願委員會ハ明治三十二年六月勅令第二四九號「關稅訴願委員會規則」ニヨル、右ニヨレバ會長ハ大藏次官ニシテ委員ハ大藏省高等官三人帝國大學教授三人商工省高等官二人司法省高等官一人ヲ以テ之ニ充テ尙ホ特別ノ必要アル場合ニ於テハ定員外臨時委員ヲ命ズルコトヲ得(同規則第二條第三條)又庶務整理ノ爲メ幹事一名書記二名ヲ置ク。

### 第十五章 船舶ニ關スル手續

#### 第一節 船舶入港手續

一、船舶ノ意義——船舶ノ意義ニ關シテハ船舶法、商法其他ニ於テ必シモ一定セザルガ爰ニ云フ船

舶トハ關稅法上ノ船舶ヲ意味ス。而シテ之ハ三種ニ分ツベシ。

(イ) 外國貿易ノ爲メ外國ニ往來スル船舶即チ關稅法上ノ外國貿易船(關稅法第十條及第二三條)

(ロ) 沿海通航船(關稅法第二八條)

(ハ) 外國貨物ヲ積載セル船舶(關稅法第十二條)

之ナリ。從テ(イ)ノ外國貿易船ハ外國貿易ノ爲メニ外國ニ往來スル船舶ヲ云ヒ其國籍ノ内外ヲ論ゼザルナリ、又軍艦、遠海漁業船、探險船遊覽船ノ如キハ外國ニ往來スルモ外國貿易船ニハ非ズ、又其ノ帆船タルカ汽船タルカヲ問ハザルナリ(ロ)ノ沿海通航船トハ本邦沿海ノミヲ通航シ内國貨物ノミヲ積載セル船舶ヲ指ス、從テ關稅ニハ何等關係ナク只外國貿易船トノ交通ハ稅關長ノ特許ヲ得タルモノノ外之ヲ爲スコトヲ得ズトセルノミ(關稅法第二八條二項)又海難其他已ムヲ得ザル事故ニヨリ外國ニ寄港シタル時ハ歸港後其地所轄稅關ニ申告スベシ(關稅法施行規則第二九條)又沿海通航船ガ外國ニ於テ船用品ヲ積入レタル時ハ其種類、數量、原價及積入地ヲ記載シタル目錄ヲ歸港地所轄稅關ニ提出スベシト定メアルノミナリ、(ハ)外國貨物ヲ積載セル船舶トハ外國貨物ヲ積載セル内地開港間ヲ往來スル船舶ヲ云フ、例ヘバ橫濱神戸間ノミヲ通航セル船舶ニシテ橫濱揚外國貨物ヲ積載シ神戸ニ入港スル船舶ノ如キハ即チ之ニ屬ス、但シ此ノ定義ヲ嚴格ニ適用スル時ハ所謂沖取船モ外國貨物積載船トシテ



關稅法第十二條ノ適用ヲ受クベキ事トナリ不便甚シキガ故ニ實際上ニ於テハカカル小型船ハ外國貨物積載船舶ノ延長ト看做シ簡易取扱ヲナセリ。此三種中最重要ナルハ外國貿易船ニ關スル手續ナルガ故ニ以下之ヲ主トシテ述ベン。

二、入港——外國貿易船ガ開港ニ入港シタルトキハ其國旗及ビ信號符號(定期郵便船ハ會社旗ニテ可ナリ)ヲ掲ゲ、日曜日及ビ大祭日ヲ除ク外、二十四時間以内ニ稅關港務部ニ着港届ヲ提出シタル後初メテ稅關手續ヲ行フモノトス、尤モ船籍證書受有ノ必要ナキ船舶及ビ一定ノ港津間ヲ往復スル積量百噸以下ノ沿海通航船ハ豫メ船主ヨリ届出デテ此手續及出港届ヲ省略スルコトヲ得ベシ。外國貿易船ノ船長ハ右ノ如キ着港届ヲ爲シタル後入港後二十四時間以内ニ稅關總務課ニ對シテ次ノ書類添附ノ上制規ノ入港届ヲ爲スモノトス。

- (イ) 船舶入港届(船舶ノ名稱、國籍、登録噸數、仕)——(關稅法施行規則第十七條) 壹通
- (ロ) 積荷目録(船舶ノ名稱、國籍、登録噸數、仕)——(關稅法施行規則第十七條) 二通
- (ハ) 艙口申告書(船舶ノ名稱及國籍、)——(右同第十九條) 壹通
- (ニ) 船用品目録(品ノ種類、數量、見積價格) 壹通
- (ホ) 旅客氏名表(船舶ノ名稱及國籍、旅客ノ國籍、氏名、乗込地及上陸地) 壹通

(ヘ) 船舶國籍證書(外國船ナルトキハ領事證書預書ニテ可ナリ)

壹通

(ト) 最近仕出港ノ出港免狀

壹通

此中(ハ)(ニ)(ホ)ハ本船へ乗込ム稅關官吏ニ提出スベキモノナルガ已ムヲ得ザルトキハ後刻、監視部へ差出スベキモノトス又(ヘ)(ト)ハ總務課ニ預ケ置クノミトス、而シテ積荷目録領收證ヲ總務課ヨリ得タル時ハ直ニ本船へ送達スベシ、蓋シ本船乘監官吏ハ之ヲ認メタル上ナラデハ貨物ノ積卸ヲ許サザルヲ以テナリ、但シ旅客携帶品及ビ郵便物ハ右入港手續未済ノ場合ニモ積卸ヲ爲スコトヲ得。

船長ガ若シ本船入港後二十四時間以内ニ入港届ヲ爲サザルカ、又ハ前記添附スベキ書類ヲ差出サザルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ、又積荷目録ガ貨物ト符合セザルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處セラレベキモノトス。

三、監船——外國貿易船入港シタルトキハ稅關ヨリハ臨檢及乗監ノ爲メ直チニ二三ノ監視官吏ヲ船内ニ派遣ス、臨檢ノ官吏ハ船長ニ就キテ該船ノ名稱、國籍、仕出港、仕向港、噸數、積荷ノ種類、乗組人員、旅客ノ有無等ヲ尋問シ、携帶ノ帳簿ニ記入シ船長ノ署名ヲ求ムベシ、若シ旅客アリタル時ハ其氏名表ヲ提出セシムベシ、又同官吏ハ艙口ノ所在、艙内ノ狀態、船用品ノ所在品種、數



量等ヲ査閲シタル後「艙口申告書」及ビ「船用品目録」ノ提出ヲ求ムベキガ故ニ此際之等書類ヲ差出スベシ、右官吏ハ臨檢終ラバ直チニ歸陸スベシ、乘監ノ爲メノ官吏ハ終日。特許ヲ得タル船舶ニアリテハ夜間モ該船ニ滯留シテ監視スルモノトス。

四、艙口ノ施封及解除——外國貨物積載船舶ハ稅關ノ休日及ビ日没ヨリ日出マデノ間ハ原則トシテ貨物ノ積卸ヲ爲シ得ザルガ故ニ此間乘監官吏ハ積卸ヲ差止め、且ツ施封ノ爲メ來レル官吏ト共ニ艙口(時トシテハ船用品ノ貯藏所ニ對シテモ)ノ施封ヲ爲スベシ、但シ積荷ノ全部ガ免稅品ナルカ又ハ有稅品ニテモ納稅手續終了ノ際ハ施封ヲ免除スルコトアリ、又船舶ノ設備ニヨリ封印ヲ施シ得ザルトキハ施封ノ代ハリニ終夜乘監官吏ガ該船ニ留リテ監視スベシ。監視官吏ハ毎日、日出前ニ船舶ニ至リ前夜施封セル箇所ヲ點檢シ異常ナケレバ直ニ解除スベシ、何人タリトモ官吏ノ解披ヲ待タズシテ封印ヲ毀棄セバ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處セラルベシ(刑法第九六條)。

五、貨物積卸特許——稅關休日、又ハ日没ヨリ日出マデノ間ニテモ本船ノ都合上荷役ノ必要ナル場合アリ、スカカル際稅關長ノ特許ヲ得レバ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ベシ、斯ノ如キ特許ヲ得ントセバ制規ノ申請書ヲ總務課ニ提出シ所定ノ手数料ヲ納付スベシ、尤モ海難其他已ムヲ得ザル事故ニ因リ貨物ノ積卸ヲ爲ストキ、竝ニ外國貨物積載ノ沿海通航船ガ内國貨物ノ積卸ヲ爲スノミナル

トキハ之ヲ要セザルナリ。

六、入出港届不要ノ場合——外國貿易船ニテモ入港後、貨物ノ積卸ヲ爲サズシテ入港後二十四時間内ニ出港スル場合ハ入出港届共ニ不要ナリ。外國貨物積卸ノ爲メ開港へ入港シタル沿海通航船ハ入出港届ノ必要ハナキモ運送目録ヲ提出セザルベカラズ、其提出後ナラデハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ザルコトトセリ。不開港ヨリ開港へ難破貨物輸送ノ場合、稅關其他ノ認許ヲ受クベキコトハ前述シタル所ナリ。

## 第二節 船舶出港手續

外國貿易船ガ開港ヲ出航セントスル場合ニハ船長ハ制規ノ出港届ヲ總務課ニ提出シテ出港免狀ヲ受ケ同時ニ曩キニ入港手續ノ際預ケタル船舶國籍證書及仕出港ノ出港免狀ノ交附ヲ受クルモノトス、入港届ニハ時間ノ制限アルモ出港届ハ出港ノ日時カ、又出港豫定日前ニ爲スカ、又ハ入港届ト共ニ之ヲ爲スモ妨ゲナキモノトス。若シ此手續ヲ爲サズシテ出港シタル場合ニハ船長ハ二百圓以下ノ罰金ニ處セラル。沿海通航船ガ外國貨物ヲ積載シテ出港セントスル時ハ船長ハ貨物ノ船卸ヲ爲スベキ地ヲ異ニスル毎ニ運送目録二通ヲ作り之ヲ差出サザルベカラズ。



### 第三節 外國貿易船ノ不開港出入手續

外國貿易船ハ海難其他已ムヲ得ザル事故アル場合、例ヘバ貨物ノ救援、人命救助ノ場合ノ如キ若クハ條約ニ定メタル場合ヲ除キ不開港ニ出入スルコトヲ得ザルハ既ニ述ベタルガ如シ、只之等例外ノ場合ニ不開港ニ入港シタルトキハ船長ハ直チニ其事由ヲ稅關官吏、稅關官吏アラザル時ハ警察官吏ニ届出ヅベキモノトス(關稅法第十八條)而シテ此届出ヲ受ケタル時ハ警察官吏ハ其地所轄ノ稅關又ハ監視署ニ急報スベキ定メナリ(關稅法施行規則第二五條)。尤モ外國貿易船ニシテ船舶修繕ノ爲メ又ハ巨大、重量ノ貨物ニシテ開港ニ於テ積卸シ難キ貨物ヲ船積若クハ陸揚スル爲メ、若クハ開港トノ交通著シク不便ナル場所ニ於テ積卸スル爲メ必要ナルトキハ稅關長ノ特許ヲ受ケ特許手数料ヲ納付シテ不開港ニ出入スルコト得(關稅法第九八條)此ノ特許ヲ受ケンニハ特許申請書ヲ稅關長官房ニ提出シテ受クルモノトス、而シテ此ノ特許ヲ受ケタルトキハ特許手数料納付書ニ制規ノ如ク記入シ特許手数料相當印紙ヲ貼付消印セズシテ官房ニ差出シ稅關官吏乗船ノ上不開港ニ回航スルモノトス、但シ官吏ノ乗船ハ稅關ノ必要ト認ムル場合ノミニ限ル、但シ此特許ハ單ニ船積又ハ陸揚ノ特許ニ過ギザルガ故ニ貨物輸出入ノ正規手續ハ別ニ稅關ニ於テ行フベキモノトス。

### 第四節 船舶資格變更

一、意義——稅關ニ於ケル船舶資格變更ト云フハ沿海通航船ヲ外國貿易船ニ或ハ其反對ニ外國貿易船ヲ沿海通航船ニ變更スルコトヲ指スモノニシテ換言スレバ内外航路區分ノ見地ヨリ航路變更ノ原因トシ之ガ資格ヲ變更スルモノナリ、從テ遞信省令ニヨル船舶検査規程第六條ノ所謂船舶ノ積量及速力ヲ標準トシ其資格ヲ定ムルモノトハ全ク其見地ヲ異ニス。

前記船舶検査規程ニヨル船舶ノ資格等級ハ汽船、帆船ヲ通シ何レモ一級ヨリ四級ノ四等ニ區別セラル。

	汽船	帆船
第一級船	上甲板下噸數 五〇〇噸以上	上甲板下噸數 五〇噸以上
第二級船	一〇〇噸以上	二〇噸以上
第三級船	二〇噸以上	制限ナシ
第四級船	制限ナシ	制限ナシ
	最快速力	
	八節以上	(遠洋、近海、沿海、平水航路)
	六節以上	(近海、平水航路)
	制限ナシ	(平水航路)

元來關稅法ニ於テハ内外航路ノ資格若クハ之ガ變更等ニ關シテハ何等ノ明文ナシ然ルニ事實上内外航路ノ資格變更ノ取扱ヲナスハ要スルニ取締上ノ便宜處分ニ出タルモノニシテ關稅法ニ於テ外國貿易船ト外國貿易船ナラザル船舶トノ行動ヲ區別シテ監視スベキ必要上資格變更ナル名稱ヲ用フル



ニ過ギズ、只資格ト云フガ故ニ稍ヤモスレバ船舶法規上ノ資格ト混同セシムル惧アリ。

二、資格變更ノ手續——前述ノ如ク法規上明文ナキコトトテ各稅關ニヨリ多少ノ差異ナキニ非ズ。要スルニ沿海通航船ヲ外國貿易船ニ又ハ外國貿易船ヲ沿海通航船ニ變更セントスルトキハ稅關所定ノ書式、資格變更願ニ所定ノ如ク記入シ總務課ニ差出シ係員ノ捺印ヲ得タル後之ニ船用品目錄、艙口申告書各一通ヲ添ヘ監視部ヘ差出シ船内ノ検査ヲ受ケタル後沿海通航船若クハ外國貿易船タルコトノ資格證明ヲ受クルモノトス。從テ外國貿易船ヲ沿海通航船ニ變更スル場合ニ於テ外國ヨリ買入レタル船用品多量ニ殘存スルトキハ検査ノ結果相當關稅ヲ課セラルルコトアルベシ、又外國籍船舶ヲ買入レ又ハ新ニ外國ニ於テ建造シ本邦ニ廻航シタル後之等ヲ沿海通航船トシテ使用スル場合ニ於テハ先ヅ該船舶ニ對シ輸入申告ノ手續ヲ爲シ輸入稅ヲ納付シタル上前述ノ如キ資格變更ノ手續ヲ爲スモノトス。

### 第五節 稅關長ノ船舶ニ對スル職權

稅關長ハ職權執行上必要ト認ムルトキハ船車ノ出發ヲ差止メ又ハ進行ヲ停止セシムルコトヲ得ベシ、尙ホ必要アルトキハ海軍ノ援助ヲ求メ得ルモノナルガ故ニ進行停止ノ命令ヲ受ケタル船舶ガ進

行ヲ停止セザレバ兵力ヲ用ヒラルルコトアルベシ、但シ明治三十年日佛通商條約ニ據リ政府ノ保護ヲ受クル船舶ニシテ郵便事務ヲ取扱フモノハ船舶ノ仕向先變更、抑留、差押又ハ出發禁止ヲ爲スコトヲ得ザルナリ。其他稅關長ハ船舶若クハ貨物ニ關スル書類ヲ提出セシムルコトヲ得ベク、若クハ船車ニ乗込ミ運送貨物ニ對シテモ監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得ベク又必要ト認ムルトキハ貨物ヲ検査シ又ハ搜索シ或ハ船車、倉庫、其他ノ藏置場ヲ搜索スルコトヲ爲シ得ルモノニシテ其權限甚大ナリ(關稅法第八四條—九二條)。

## 第十六章 噸稅 Tonnage dues

一、意義——噸稅トハ外國貿易船ガ開港ニ入港シタルトキ其入港毎ニ登簿噸數又ハ積量ニ應ジテ船舶所有者ヨリ徵收スルモノナリ、從テ關稅ノ如ク物品ノ消費ヲ對象トスル消費稅ニアラズ直接稅ノ一種ニ外ナラズ。其性質ハ港灣稅ノ一種ニ屬ス、即チ租稅ト云ハンヨリハ寧ロ港灣ノ設備利用ニ對スル手数料若クハ使用料ニ該當スルモノナリ、元來斯ノ如キ使用料ノ如キモノハ一般ニハ運輸交通ノ發達ヲ阻害シ文化ノ普及及ビ產業ノ進展ニ資スル所以ニ非ザルガ故ニ賦課セザルヲ可トナセドモ船舶ノ發着ニ際シ港灣ヲ使用スル場合ニハ其施設ノ改善、浮標、燈臺等各種設備ノ利益ヲ



享受スルモノナルヲ以テ其率相當ナラバ敢テ非議スベキニ非ズ。本邦ニ於テハ安政四年八月和蘭トノ追加條約ニテ入津商船一噸ニツキ銀五匁ノ船稅ヲ賦課ストセルヲ其嚆矢トシ其後明治二十三年ノ稅關規則第一條ニモ入港手數料ノ規定ヲ設ケタリ。然シ乍ラ劃一的ナル手數料ハ船舶ノ大小ヲ無視シ不公平ナルガ故ニ之ヲ全廢シ明治三十二年法律第八十八號ヲ以テ噸稅法ノ發布ヲ見タリ、從來ノ諸手數料ヲ一括シテ一稅ト爲シ稍ヤ其率ヲ高メタルノミナリ。但シ海難其他已ムヲ得ザル事故ニ依リ入港シタル船舶ニハ之ヲ免除スル定メアリ。

二、噸稅賦課ノ標準——噸稅賦課ノ標準ニハ（イ）船舶ノ容積量ヲ標準トスルモノ（ロ）積載貨物ノ容積若クハ重量ヲ標準トスルモノ（ハ）船舶ノ船積量ト積載貨物ノ容積若クハ重量トヲ併セテ標準トスルモノ。ノ三種アリ、本邦噸稅法ニ於テハ船舶ノ容積量（登簿噸數）ヲ標準トセリ、而シテ外國貨易船ナルコト及ビ開港へ入港スルコトノ二條件ヲ具備シタル場合ノミ課稅ス。サレバ稅關長ノ特許ヲ得テ不開港へ入港シタル場合又ハ海難其他已ムヲ得ザル事故ニヨリ不開港ニ入港シタル場合ニハ噸稅ヲ課セズ、又開港へ入港シテモ非外國貿易船即チ沿海通航船ナラバ例へ外國貨物ヲ積載スルモ噸稅ヲ賦課セザルナリ、但シ前者ノ場合ニ於テ貨物ノ積卸ヲ爲シ其積卸ノ必要ガ海難其他已ムヲ得ザル事故ニ原因セザレバ噸稅ヲ課セラルルモノトス。

噸稅ハ船舶入港ノ際其都度納ムル場合ト一箇年分ヲ一時ニ納付スル場合トニ依リテ其稅率異ル、其都度納付スルモノハ登簿噸數一噸又ハ積量十石ニ付キ五錢トシ一時ニ一年分前納ノ場合ニハ登簿噸數一噸又ハ積量十石ニ付キ拾五錢トス。支那ニ於ケル噸稅ハ日支條約第十五條ニヨリ登簿噸數百五十噸ヲ限界トシ百五十噸及其以下ノ船舶ニ對シテハ登簿噸數一噸ニ付一錢（海關兩一兩ノ十分ノ一）又百五十噸ヲ超ユル船舶ニ對シテハ同一噸ニ付四錢トス、而シテ兩者何レモ此噸稅ヲ納メタルトキハ其納メタル港ノ港口出帆ノ日ヨリ以降四ヶ月間ハ支那何レノ開港ニ入港スルモ噸稅納付ヲ要セズ又同條約第十七條ニ依リ海難其他已ムヲ得ザル事故ニ依リ入港シタル場合ニハ別ニ噸稅納付ヲ要セズトセリ。米國ニ於ケル噸稅ハ最低及最高ノ二種ニ分タレ入港毎ニ前者ハ登簿噸數一噸ニ付金二仙、後者ハ同一噸ニ付金六仙ニシテ前者低率ハ主トシテ北米、中米、西印度諸島、「コロンビア」、「ベネズエラ」、「グイナア」沿岸ヨリ入港スル船舶ニ對シ後者高率ノモノハ其以外ノ諸國沿岸ヨリ入港スル船舶ニ對シ課スルモノトス、尤モ一ケ年内ニ入港毎回ノ噸稅ヲ加算シテ前者ハ十仙後者ハ三十仙ノ額ニ達セバ其年度内ノ爾餘ノ入港ニ對シテハ孰レモ稅ヲ徵收セザルモノトセリ。

三、測定 船舶ノ積量ヲ測定スル單位ニハ「フート」ト「メートル」ノ二種アリ、前者ハ所謂英國式ニシテ百立方呎ヲ以テ一噸トシ後者ハ即チ大陸式ニシテ二・八三立方米突ヲ以テ一噸トス。本邦ニ於



テハ明治十七年四月布告第十號ニ依リ尺ヲ單位トシ百立方尺ヲ以テ一噸トセルモ大正三年三月法律第三三號ニヨリ船舶積量測度法ヲ改正シ英國噸ニ改メ百立方尺ヲ以テ一噸トナセリ、然シ非西洋型船舶ノ積量ハ石數ヲ以テ表示シ從來ノ如ク依然トシテ十立方尺ヲ一石トス。

前記英國式百立方尺ト大陸式二・八三立方米突トフ比較スルニ勿論其容積ニ於テ差違アレドモ頗ル微細ナリ、又登簿噸數算出上ノ積量加減ニ關スル計算方法ニ就テモ亦各國其軌ヲ一ニセズ從テ各、自國ノ測度法ニ換算スルカ若クハ實際ニ之ガ測度ヲ爲サザルベカラズ、然ルニ斯カル方法ハ何レモ多クノ手數ト時日ヲ要スルガ故ニ我邦噸稅法ニテハ測度法異ル國ノ船舶登簿噸數モ別ニ實測ヲ要セズ、我國所定ノ測度法ニヨリ之ヲ換算スルコトトセリ、其換算モ船舶國籍證書記載面ノ單純ナル換算ナラバ何等手數ナキモ適當ナル加減ヲナスベシトセバ之亦相當煩雜ナレバ測定法ニ大差アル國ヲ除ク外ハ各國多クハ積量互認ノ取極メヲ爲シ一國ノ測度法ニ依リ測度セラレタル積量ハ他ノ一方ノ國ニ於テモ亦之ヲ自國ノ測度法ニヨル積量ト同一ナルモノト認メ船舶國籍證書面記載ノ噸量ニヨリ課稅ス。本邦モ英國、丁抹、米國、瑞典、挪威及和蘭等ノ諸國ニ對シテハ互認主義ヲトレリ。

噸量ハ之ヲ次ノ四種ニ分ツ。容積噸。排水噸。載貨容積噸。重量噸。之ナリ。

(イ) 容積噸——主トシテ商船ニ用キラル。之ニ二種アリ

(a) 總噸數——二重底其他甲板上ニ於ケル操舵室其他僅少ナル特別場所ヲ除キタル船内ノ總容積ニシテ之ヲ容積百立方尺若クハ二・八三立方「メートル」ヲ以テ一噸トシテ算出セルモノヲ云フ

(b) 登簿噸數——前記總噸數ヨリ船員常用室、海圖室、荷足水槽、機關室、帆庫、其他、僅少ナル特別場所ヲ控除シタル容積ヲ云フ。

(ロ) 排水噸——主トシテ軍艦ニ用キラル。船自體ノ重量ト水、石炭、其他一切ノ搭載物重量トノ合計重量(商船ナラバ安全ナル貨物滿載限度)ノ時ニ於テ其船ガ排水シタル水量ヲ檢シ水量三十五立方尺即チ水ノ重量二千二百四十封度(水一立方尺ノ重サハ六十四封度之ニ三十五立方尺ヲ乘ジタルモノ)ヲ以テ一噸トシテ計算ス、例ヘバ一軍艦ノ吃水線ガ二十八尺トセバ吃水線以下ノ船内容積ヲ檢スレバ其排除セラレタル水量ヲ知り得ベク之ヲ三十五(立方尺)ニテ除セバ以テ排水噸數ヲ得ベシ。

(ハ) 載貨容積噸——商船ノミニ用キラル。即チ貨物ヲ積載シ得ル場所ノ容積ノミヲ指スモノニシテ其積算法ハ前二者ト全ク異ル、四十立方尺ヲ一噸トシテ計算セラル、從テ容積量ニヨルベキ貨物運賃率ハ同ジク此ノ標準ニヨル。

(ニ) 重量噸——之亦商船ノミニ限ル。商船ノ貨物ヲ積載シ得ベキ場所ニ重量貨物ヲ積載シ得ル量



ノ測度ニシテ二千二百四十封度ヲ以テ一噸トシ其測度ハ(ロ)ノ場合ノ排水噸ト同一方法ニヨルモノトス、所謂安全ナル最大滿載ノ時ノ吃水以下ノ排水量ヨリ船體自身ノ重量即チ空船ノ時ノ船ノ吃水線以下ニ相當スル排水量ヲ控除シタル其中間ノ差ノ容積ガ即チ重量噸ニシテ三十五立方呎

(二、二四)ヲ一噸トシテ算出ス。

斯ク等シク容積量ニ依ルモノニテモ船體ノ測度ハ百立方呎ノ一噸ニヨリ貨物積載容積ハ四十立方呎ノ一噸ニヨル、又重量噸ハ排除セラレタル水ノ重量ニ、二四〇封度即チ水ノ三十五立方呎ノ容積ニ當ル。故ニ一般ニ商船ニ對シテハ登簿噸數ヲ以テ表示シ軍艦ニアリテハ排水噸數ヲ以テ示スモノトス。

四、納稅——外國貿易船ガ開港へ入港シタルトキ船長ヨリ噸稅ヲ稅關又ハ稅關支署へ納付スベキモノニシテ稅關又ハ稅關支署ハ其稅金額及ビ國庫金取扱銀行ヲ指定シテ船長ニ告知スベク、船長ガ若シ其通脫ヲ圖リ又ハ之ヲ納付セズシテ出港シタル時ハ稅金ノ三倍ニ等シキ罰金ヲ課セラルベシ。但シ開港ニ入ルモ其地ガ目的地又ハ寄港地ニ非ズシテ單ニ暴風雨、海賊、戰爭其他已ムヲ得ザル事由ニ因リ入港シタルモノナルトキハ噸稅納付ノ必要ナキガ故ニ斯ノ如キ場合ニハ其旨ヲ稅關又ハ稅關支署ニ證明スベシ(前記噸稅法)。臺灣ニハ臺灣噸稅規則(明治三十二年八月府令第九〇號)朝鮮ニハ朝鮮噸稅令(明治

四十五年三月府令第四九號)ヲ以テ各特別ノ定アリ。

### 第十七章 手數料、使用料

意義——稅關ハ稅金ノ外、諸手數料使用料及ビ敷料ヲ徵收ス、只稅關附屬ノ保稅倉庫ニ對スル敷料ニ就テハ後章ニ述ベシ。

手數料ハ官廳ニ特別ノ仕事ヲ依頼セル者ガ其受クル所ノ特別ノ利益ニ對スル報酬トシテ徵收セララルモノナリ、サレバ手數料ハ實費又ハ實費ノ一部ヲ償フニ過ギザルモノナレバ實費以上ニ徵收セラルル時ハ租稅トナル。使用料ハ棧橋、起重機、其他土地、建物、又ハ備品ノ如キ公有物ヲ使用シタル料金トシテ納付スルモノニシテ、敷料トハ收容貨物ヲ倉庫ニ藏置セラルル場合ノ保管料ヲ云フ。

#### [A] 手數料

##### (一) 稅關及稅關支署臨時開廳特別手數料

- 一、日出ヨリ日沒マデ 一時間マデ毎ニ 拾五圓
- 一、日沒ヨリ午後十二時マデ 同 參拾圓
- 一、午後十二時ヨリ日出マデ 同 四拾五圓



稅關支署ニ在テハ其他ノ狀況ニ依リ半額迄ニ低減スルコトヲ得。

稅關ノ執務時間ハ休日ヲ除ク外一年ヲ通ジテ午前九時ヨリ午後四時迄ニシテ土曜日ハ午後三時迄トス(關稅法施行規則第七三條) 稅關ノ休日ハ大祭日、日曜日、「クリスマス」及十二月三十一日トシ横濱、神戸、長崎、大阪及函館ノ各稅關ハ其土地ノ氏神ノ祭日當日ヲ休日トス。之等ノ稅關ノ休日又ハ稅關定時間外ニ於テ船舶出入港届、又ハ貨物ノ検査、税金納付等ノ爲メ特ニ臨時ニ稅關事務ノ開始ヲ必要トスル場合ニ發生スルモノヲ云フ。

(二) 貨物積卸、搬出入、特許手数料

一、日出ヨリ日没マデ 一時間マデ毎ニ

參圓

一、日没ヨリ午後十二時マデ 同

六圓

一、午後十二時ヨリ日出マデ 同

九圓

(三) 指定地外ニ於ケル貨物検査特許手数料

普通貨物検査ノ爲メ稅關官吏派遣スルトキ

一、検査ニ要スル時間 一時間マデ毎ニ

五圓

但旅費ヲ要スルトキハ別ニ其實費ヲ加フ。

(四) 聯絡船内官吏乗船特許料

一、乗船官吏每一人 一箇月マデ毎ニ

百四拾圓

(五) 外國貿易船不開港出入特許手数料

(一) 入港一回毎ニ

四拾五圓

(六) 諸證明手数料(關稅法施行規則第七十六條)

一、證明 每一件

貳圓

一、輸出入貨物日計表 每一件一箇月マデ毎ニ

拾圓

一、其他船舶貨物ニ關スル計表 每一件一枚マデ毎ニ

五拾錢

(七) 私設保稅倉庫又ハ上屋陸揚常設ノ特許手数料

私設保稅倉庫營業若クハ保稅工場ノ特許又ハ常ニ使用スル爲メニ輸出入貨物ノ上屋若クハ陸揚船積ノ場所ヲ設クルノ特許ヲ受ケタル者ハ毎月左ノ特許手数料ヲ納ムベシ。

稅關官吏ノ派出ヲ要スル人員ニ應ジ 每一人每一箇月 七拾圓

前納ノ特許手数料ハ還付セザルモ一時ニ二箇月分以上ヲ前納シタルトキハ其納付期限ニ至ラザルモノニ限り之ヲ還付ス。



(八) 造船、修繕材料藏置場官吏派出手數料

派出スル稅關官吏 每一人每一箇月マデ毎ニ

七拾圓

(B) 使用料

(一) 稅關所屬ノ土地建物使用料

關稅法施行規則第七十七條ノ使用料ハ左ノ如シ(大正九年七月大藏省令第二二號ニテ改正)

「大藏大臣ハ棧橋、起重機、其他稅關所屬ノ土地建設物又ハ備品ヲ使用スル者ヲシテ使用料ヲ納付セシムルコトヲ得」(關稅法施行規則第七十七條)

(イ) 貨物藏置ノ爲メ上屋又ハ上屋以外ノ土地ヲ使用スル者

但シ輸出スベキ貨物、關稅定率法第七條第一號第二號ノ物品(御料品、外國元首等ノ物品)竝ニ旅客携帯ノ旅具ハ除外セリ。

一、貨物搬入ノ日ヨリ五日迄

無料

二、貨物搬入ノ日ヨリ六日以上十五日迄

五百斤又ハ十立方尺迄毎ニ 一日金一錢

三、貨物搬入ノ日ヨリ十六日以後

百斤又ハ十立方尺迄毎ニ 一日金二錢

前記使用料ハ重量ニ依リ關稅ヲ賦課セラルベキ貨物ハ重量ニ依リ、其他ハ容積ニ依リ之ヲ徵收

ス。但シ徵收上便宜ト認ムルトキハ重量ニ依ルベキモノヲ容積ニ依リ、又容積ニ依ルベキモノヲ重量ニ依ラシムルコトヲ得ルモノトス。日數ノ計算ニハ搬入ノ日ハ之ヲ算入シ搬出ノ日ハ之ヲ算入セズ。

(ロ) 土地又ハ建物ヲ専用スル者

一、貨物藏置ノ爲メ土地又ハ上屋其他ノ建物ヲ専用スル場合

一坪迄毎ニ 一月金二圓

但シ十五日迄ハ半月分ヲ又十五日ヲ超ユルトキハ一月分ヲ徵收ス

二、倉庫、上屋、其他貿易設備ヲ爲ス爲メ土地ヲ専用スル場合

同 一月金一圓

前項ノ使用料ハ土地ノ狀況其他ノ事情ニ依リ特ニ必要アル時ハ之ヲ低減スルコトヲ得トセリ。



328  
572

昭和十一年十一月十八日印刷  
昭和十一年十一月廿二日發行

非賣品

編輯者兼

東京市神田區駿河臺三丁目九番地ノ四

中央大學教務課

代表者 山田述之助

印刷者

東京市本郷區眞砂町三十六番地

熊切定次郎

東京市神田區駿河臺三丁目九番地ノ四

發行所

中央大學教務課



終

